



浄土宗 大善寺

大善寺五十年のあゆみ

大善寺

光明山

浄土宗 大善寺



大善寺五十年のあゆみ



浄土宗

大善寺



航空写真 昭和 22 年撮影 (「戦後のうつりかわり 永久保存版」より)

○ 大善寺の位置



航空写真 平成6年5月撮影（「戦後のうつりかわり 永久保存版」より） ○ 大善寺の位置



ふどう
不動ヤト



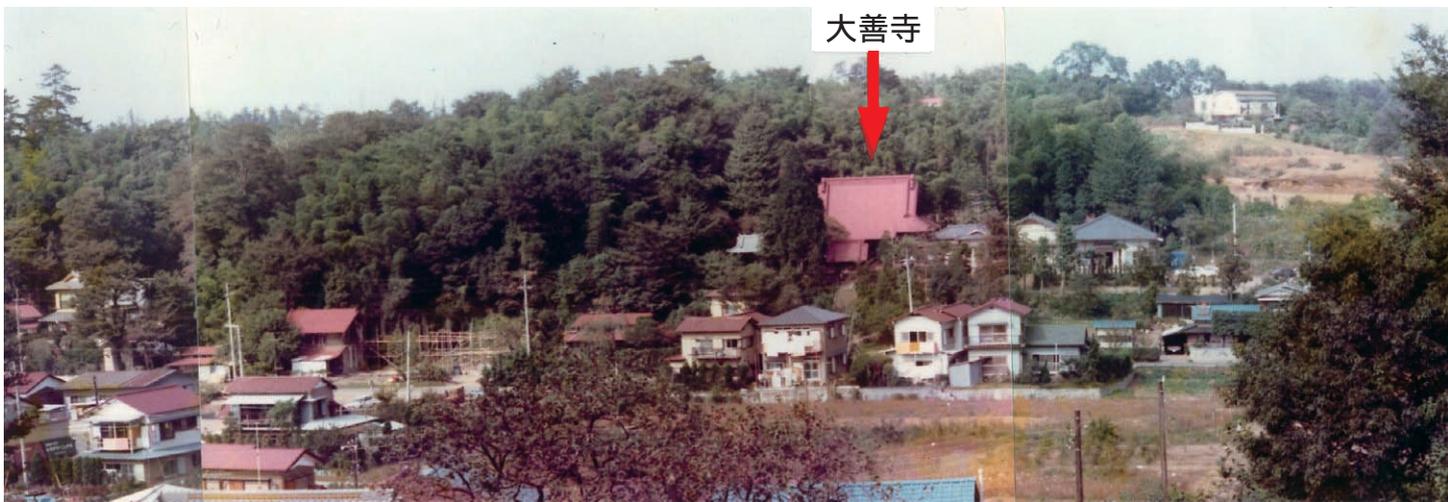
みんなほり
南掘ヤト



こんなに変わりました 一大善寺周辺風景写真一



昭和 23 年 (1948) 7 月 中川中学校台地より北方をのぞむ



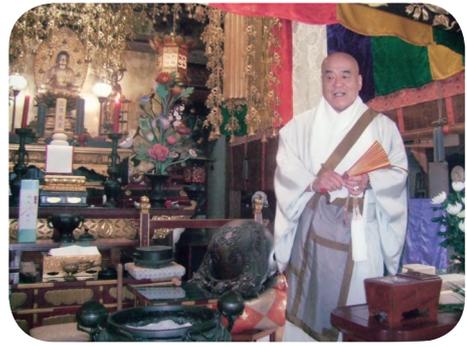
昭和 52 年 (1977) 10 月



平成 26 年 (2014) 4 月 中川中学校屋上より北方をのぞむ

五十年を顧みて

第二十七世住職 石川 成弘



浄土宗、元祖法然上人八百年大遠忌記念事業の名のもとに長年の檀信徒の要望であった大善寺会館と、客殿（改修）、庭園の建設事業が、平成二十三年無事円成することができました。これで概ね、寺の伽藍、境内地が立派に整備されたと思います。心より慶び感謝申し上げます。

この当山発展の原点を探ってみると、港北ニュータウン建設事業への参加に尽きると思われます。

港北ニュータウン建設事業が発表以来、五十年となります。この間、①本堂屋根の銅板化、②客殿・庫裡の建設、③墓地改葬等、様々な事業への取り組みがなされました。

先代の後任として、二十七世住職に、昭和三十八年拜命以来、これらの事業に携わってきました。丁度、私にとっても五十年、寺の発展を記録に残したいと記念誌の製作を決めました。世話人会に記念誌委員会を平成二十五年十一月に設置、三年間の事業として取り組みました。

顧みると、寺の運命を決めたのは、寺墓地の改葬事業が第一に挙げられます。港北ニュータウン建設事業への条件として、買収、減歩、補償等の条件があります。墓地改葬では、問題として墓地の補償料の有無がありました。

しかし、これを見事克服、長期に亘る各施主の「相互扶助」、「助け合い」の精神により、仮移転、新墓地へ揃って本移転、ご先祖様を納骨する事が出来ました。約十二年に亘る道程でした。この間、培われた、共にご先祖様を敬い、祀り、護る心が通じ、寺、ご本尊様に対しても大切に敬い、共にお護りする「心の絆」が、芽生えたのではと思われます。

施設事業では、代表される鐘楼、梵鐘の再建では、創建者栗原家の栗原千枝子、敏様の鐘楼の寄贈、檀信徒の寄付金による梵鐘の製作、見事再建する事が出来ました。

寺本来の宗教活動では、寺の三大行事、関連行事は充実、当山独自の甘茶寺を目指しての「甘茶の会」の活動として、「灌仏会」、「甘茶作り」、製品（甘茶）を知恩院をはじめ本山、その他ご縁のあるお寺様に献納しております。

記念誌五部門を通して、当時の檀信徒さんには「思い出」として、新しい檀信徒さんには、寺の発展の歴史として、お読みいただき、後世に伝えて頂ければ有難いと思えます。

おわりに、この記念誌発行をもちまして、二十八世石川和弘へ引き継ぎます。五十年の長きに亘りお世話になりました。これから、長老として住職を補佐してまいります。

檀信徒の皆様のご多幸をお祈り致します。



発行によせて

第二十八世住職 石川 和弘



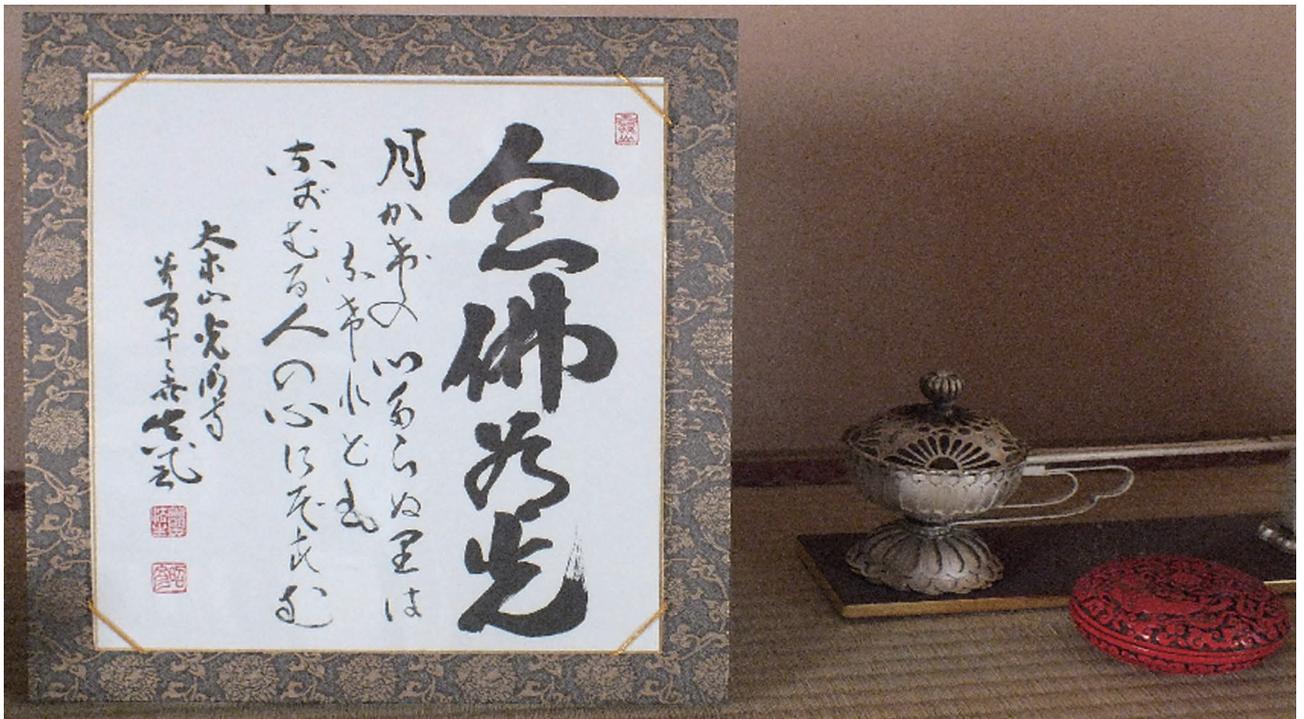
もある住宅ができていた。その後、高校生の時に旧墓地撥遣供養の手伝いをし、大学生の頃には、寺周辺は本格的に工事で作成されつつあった。また墓地改葬落慶法要の頃は伝宗伝戒を相承した後の事なので、まさに私の子どもから大人になる時期に港北ニュータウン事業があった。そして、幼い頃のことは、今思い出そうとしても、なかなか思い出せないこともある。

このたび、総代世話人様を中心となって寺の記念誌が発行される運びとなった。自分の知らない大善寺の昔の歴史から、今行っている行事、事業までに渡り、一つの線としてこの記念誌が刊行される。

この記念誌は、この地域の郷土資料ともなりうることであろう。また今後このような資料を残していく事は難しいことかもしれないので、貴重なものになっていくに違いない。

このお寺の浄土宗として開山される前からの歴史もあり、またさまざまな人々が関わって現在の大善寺があることを再認識し、今後の大善寺の未来を皆様と共に協力していきたいと思う。

思い起こせば、私が小学生の時に、港北ニュータウン事業の概要の説明・フィルム上映会があり、また、通っていた中川小学校の裏には今現在



大本山光明寺 第112世法主書

記念誌発行によせて

編集委員長 大嶋 珪治



横浜市六大事業の一つ、港北ニュータウン建設事業（昭和四十年）が発表されてから、今年で五十年を迎えます。この間、幾多の苦難がありました。街づくりが着々と進められ、都筑区として誕生はや二十一年、飛躍的な発展を遂げています。

同様、大善寺を取り巻く環境も一変（都市化）、境内地も整備、寺の伽藍も概ね整いました。

これも偏に、大善寺が、この港北ニュータウン建設事業計画に参画した結果です。当時、この英断を下した、第二十七世住職（石川成弘上人）、並びに、総代（三名）、先輩の世話人方はじめ、檀信徒の皆様に、感謝を申し上げます。

この建設事業に携われた、横浜市、住宅都市整備公団、諸企業、地元各種団体等の皆様方の協力のお陰です。心よりお礼申し上げます。有難うございました。

長い大善寺の「開創七五一年」浄土宗として「開山三三三四年」の沿革史の中で五十年に過ぎないが、住職、世話人、檀信徒が、三位一体となり、取り組んだ尊い「事業・活動」体験を、後世に伝えたいと考え、記念誌を発行することを決めました。

この五十年、成弘住職にお勤めを頂きました。浄土宗・宗務

総長よりの榮譽となる「五十年表彰」を受賞後の勇退となりました。後任は、和弘住職（息）で、記念誌がお二人の晋山式（退任・就任）での檀信徒よりの「贖」^{はなむけ}となる事を望んでの目的もありました。

世話人会に、記念誌委員会を設置、平成二十五〜二十七年度事業として取り組みました。事業活動を、五部門に分け、夫々担当しました。

五大事業活動部門（組織図・巻末資料）

- 1 寺の沿革と行事活動について
- 2 墓地の改葬（寺墓・内墓）港北ニュータウン関連
- 3 鐘楼、梵鐘の再建 檀信徒の寄付金による事業
- 4 甘茶苑の建設と甘茶の会、甘茶寺を目標しての活動
- 5 会館・客殿（改修）と庭園建設 境内施設建設

記念誌の製作を通じ、改めて大善寺の「開創・開山・仏像等」の歴史を究める結果となりました。

また、各方面、多数の方々より、貴重な資料の提供を頂きました。巻末にまとめて掲載をさせて頂きました。

ご協力が有難うございました。

目次

口絵	2	墓地改葬の経緯	60
五十年を顧みて	6	・横浜市・住宅都市整備公団による説明会（世話人会）	
発行によせて	7	・全体構想について	
第二十八世住職		第一回総会	62
石川和弘		・市・公団による説明会	
記念誌発行によせて	8	墓地の実態調査の実施	64
編集委員長		・実態調査の結果・補償区域外発生	
大嶋珪治		・実態調査の結果・補償区域外発生	
目次	9	・墓地実態調査結果の報告	66
一、大善寺の紹介		第二回総会	68
大善寺の沿革	14	・墓地実態調査結果の報告	
大善寺歴代住職	16	第三回総会	70
順岡上人の功績	17	・新墓地づくりへの取り組み	
関東大震災	18	第四回総会	72
港北ニュータウン建設事業への取り組み	20	・補償料の算定調査の実施	
客殿・庫裡の建設	22	墓地算定調査の結果について	74
客殿・庫裡落慶法要	22	・補償料の有無と算定結果について	
仏像・諸堂等について	25	第五回総会	76
行事について	33	・プール制の導入・墓地改葬決断	
檀信徒・世話人研修会・寺の三行大事・その他	34	閉眼式 写真で紹介	78
これからの大善寺について	57	第六回総会	80
二、寺墓 墓地改葬		・墓地換地計画案 会計報告	
まえがき	60	第七回総会	83
年表	60	・石積み設計案（プール制の導入）	
		墓地改葬作業の様子 写真で紹介	87
		寺墓の起工式 写真で紹介	91

寺墓の竣工式 写真で紹介	92
落慶法要	93
・墓地改葬記念法要・記念式典・祝賀パーティー	95
大善寺墓地改葬事業「課題への取り組み」	95
・執筆者 相談役 高橋 良雄	
第八回総会	96
・墓地改葬・会計報告・監査報告	
・プール制導入による 施設紹介(写真)	
あとがき	99
資料 旧寺墓の歴史 執筆者 吉野 直之	100
二二・内墓 墓地改葬	
どうして内墓が大善寺へ	104
年表	104
内墓 墓地改葬の経緯	105
第一回総会	105
・公団による説明会 大善寺への移転	
内墓の仮移転	106
第二回総会	108
・公団による内墓の全体構想	
工事の説明会・地元町内会対象	108
・工事着工について	
墓地づくり	109
・内墓 換地への取り組み	
第三回総会	111

三、鐘楼梵鐘の再建と境内整備	
鐘楼再建・梵鐘製作および山門修復等の趣意書	118
寄付金による鐘楼・梵鐘等の再建と境内整備	120
寄付金についての会計決算報告	121
老子製作所 梵鐘の値段は、標準で高級車一台分	121
梵鐘鑄込み式の様子を写真で紹介①②③	123
供出した寺の梵鐘(昭和十七年)	126
六地藏の移転前と参道側に移転完了	127
鐘楼堂の開眼式の様子を写真で紹介①②④	128
世話人会議の主な経過と行事経過報告	132
四、甘茶苑の建設と甘茶の会	
甘茶畑の推移	134
甘茶苑の創設(甘茶寺の思いを込めて)	136
甘茶寺の管理と今後の展望	140
甘茶苑の非課税の取り組み	143
大善寺の灌仏会	147
・石積み設計 石積み代(プール制導入)	113
内墓の起工式	113
・寺墓に先行 墓地造成着手	
内墓の竣工式	114
・竣工法要 祝賀会	
内墓の大清掃(新墓地竣工二十五周年)	115
光明山大善寺開創四五〇年慶讃墓地改葬記念冊子より	116

甘茶奉献の旅	148
大善寺甘茶畑・甘茶の会の活動記録	149
大善寺甘茶の会の創設と甘茶の会規約	151
まとめとして	152
甘茶寺の活動 写真で紹介	153
・甘茶の葉採みと製品にするまで	
・甘茶苑の作業風景	
五、法然上人八〇〇年大遠忌記念事業	
大善寺会館・客殿（改修）庭園建設	
まえがき	156
年表	156
建設事業取組みの経緯	156
一、建設委員会の活動	156
・会館・客殿（改修）の目的	
・見学会・設計案づくり・庭園計画について	
・起工式・上棟式 写真で紹介	
二、定例会の活動	161
・開館・客殿（改修）建設と課題への対応	
・外構工事と前庭づくり 写真で紹介	
三、庭園計画について	164
・枯山水と浄土式庭園（第一期工事）	
四、境内地整備	165
・供養塔の改修と治水工事	
・浄土式庭園（第二期工事）	



五、落慶式	166
・落慶法要・記念式典・祝宴 写真で紹介	
・会計報告・会館案内	
あとがき	171
年表	172
参考文献・参考資料	176
執筆協力者紹介	176
発行協力	177
記念誌委員会 役員組織	177
委員会役割分担	177
編集後記 編集副委員長 栗原貞夫	178

光明山 徳水院 大善寺



益子氏撮影 (H 23. 6)

一・大善寺の紹介





大善寺の沿革

一. 沿革

当山所蔵の古文書、天保四（一八三三）年二月の「本尊修補募縁序」によると、もとこの地に小庵があり、弘治年中（一五五五〜五八）に禅僧の端蔵主たんそうすという人がたまたま当庵に留錫りゅうしやくして、慈覚大師の作られた阿弥陀如来を安置し復興しましたが、その後浄土宗の覚蓮社本誉上人阿善達が中興したと記されている。

また当山には数枚の板碑があります。年号は宝治二（一二五八）年と記されています。この地に隣接の丘には歴史博物館に収められている「西谷貝塚」、「南堀貝塚」があり、境内につながる元畑地からは鎌やじり、石斧せきふ等の石器、土器が貝殻と一緒に出土したことで、この辺りは古い昔から人が住み、平安から鎌倉時代には鍛冶屋敷が存在し、室町時代には墓地があったことからして、聖地として祀られていたことだと思われれます。

本誉大阿善達上人は天和元年九月に示寂しじやくされていることから、寺の再興は一、上人の没年二、寛永年中（一六二四〜四三）に、六間〜七間の本堂が建立されたこと三、境内墓地の石塔から推定して江戸時代初期（十七世紀前半）と考えます。

江戸時代末期から明治の頃には「七間半〜七間」の本堂、「七間〜四間」の庫裡、元禄二年建立の鐘楼があり、山門は南向に建てられ、境内に入って左の方には太子堂（二間〜三間）があり、土地は地頭免除の境内地六反余、田八反二十七歩、畑八反一畝二十八歩、山二町四反七畝十六歩がありました。

大善寺は増上寺の末寺ですが、本堂内陣前方上方に飾られている日の丸扇は増上寺扇の間を移築した名残りとして伝えられています。

本尊は前述の通り慈覚大師作と伝えられ、鎌倉時代以前のもの、平成十九年、二十年に横浜市教育委員会が行った文化財総合調査の折、寺伝の通りであると認められました。

本尊両脇侍の観音、勢至両菩薩はその後元禄七（一六九四）年十月八世欣誉上人ごんよが檀信徒の協力を得て、高祖善導宗祖円光両大師と共に造立し、また傷みの進んだ本尊の修理は、天保四（一八三三）年二十一世載誉運海上人さいよが檀信徒に呼びかけ修復されたとして記録されています。

二. 先代二十六世順岡じゅんがの動き

大正十二年九月一日の関東大震災で本堂、太子堂、観音堂が倒壊した直後、二十六世清誉順岡上人が住職に就任、早速本堂の再建に取りかかり世話人を中心に檀信徒の皆様のご協力を得て原資の積立をお願いすると共に、厳かで美しい本堂を各地の建物を見学し研究して、昭和四年現在の本堂が落成しました。

その後日本は戦争の時代に入り、昭和十七年十二月には梵鐘をはじめ金属の仏具をすべて供出してしまい、仏具は土器に変わりました。

昭和十八年三月、草葺きの庫裡が焼けてしまいました。当時は葬儀があると埋葬の穴掘りの後に寺の風呂に入って帰る風習がありました。その時の風呂の火が屋根裏に入ってしまったものでした。



戦争がだんだんひどくなり、空襲があると阿弥陀様も裏山に掘った防空壕に避難したものでした。

交通は東横線ができるまでは、歩いて小机駅または溝の口駅まで出て国鉄の電車に乗るといのが通常でした。

昭和二十年八月太平洋戦争が終わるとようやく平和が訪れ、昭和二十三年戦時中から解体してあった古材を基に庫裡ができました。この建物は昭和五十一年五月現客殿建立まで利用されておりました。

先代の時代はこのように、関東大震災に始まり、戦争の影響を受け大変なものでした。その後、日吉、高田の辺りまで開かれ東京オリンピックに向けて東海道新幹線が整備され、その後高速度道路も開通し、希望の光が見えてきたところでした。

先代住職は農繁期には保育園を開き、児童教育をすすめるようと努力してきました。将来的には保育園の開設を夢見ていたようでした。

三、二十七世成弘の動き

昭和三十八年三月七日大善寺二十七世住職の拜命をうけました。しかし生活のため、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会の職員として二足のわらじをはいてきました。

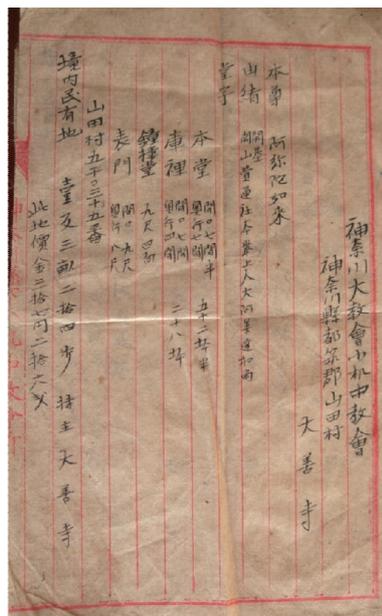
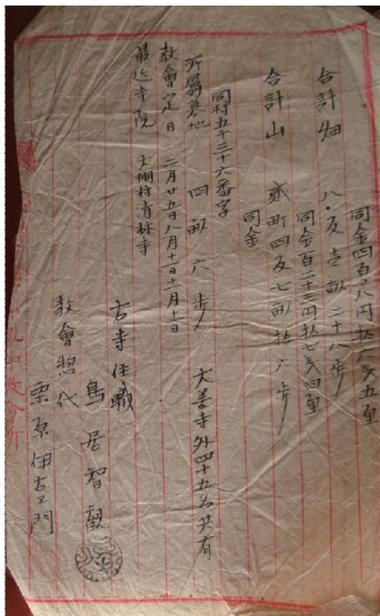
大善寺の発展の基盤は港北ニュータウンの開発事業でした。この事業に参画するためには四十パーセントの買収に併せて工事費のための減歩があり、最終的に三々四分の一が残るということでした。

昭和五十二年十二月客殿庫裡が完成し、ほどなく本堂の屋根

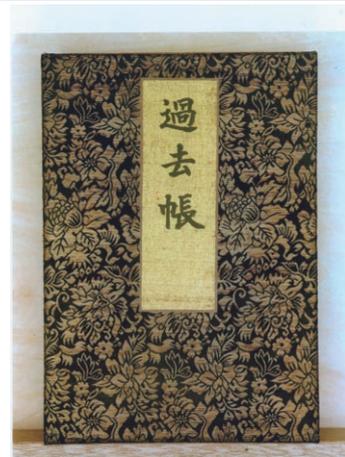
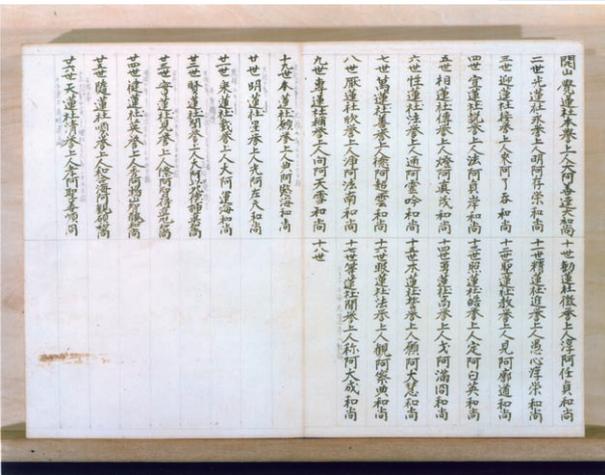
をトタンから銅葺きに変えました。

その後の施設事業、境内地整備事業等については後に続く記念誌委員会四部門の活動記録をご覧頂きたいと思えます。総代をはじめ各世話人さんの日常のご協力には衷心より感謝申し上げます。

おわりに代々住職の中で一番変化のある時期を受け持たせていただいた感があります。記念誌の発行をもって二十八世住職和弘へ引き継ぎます。更なるご助力をお願いいたします。



大善寺・古文書より二枚を抜粋



過去帳などの古文書

大善寺 歴代住職

開山	覺蓮社本誉上人 大阿善達大和尚 (だいかしょう)
二世	光蓮社永誉上人 明阿存栄和尚
三世	迎蓮社接誉上人 来阿了吞和尚
四世	宣蓮社説誉上人 法阿貞岸和尚
五世	相蓮社伝誉上人 燈阿真成和尚
六世	性蓮社法誉上人 通阿靈吟和尚
七世	萬蓮社善誉上人 德阿超雲和尚
八世	厭蓮社欣誉上人 淨阿法南和尚
九世	專蓮社称誉上人 向阿天雪和尚
十世	勸蓮社徴誉上人 淳阿任貞和尚
十一世	精蓮社進誉上人 愚心淳栄和尚
十二世	聖蓮社教誉上人 見阿廓道和尚
十三世	照蓮社皓誉上人 定阿白英和尚
十四世	勇蓮社高誉上人 才阿満岡和尚
十五世	本蓮社誓誉上人 願阿大慧和尚
十六世	眼蓮社法誉上人 観阿察典和尚
十七世	等蓮社聞誉上人 称阿大成和尚
十八世	不詳
十九世	本蓮社願誉上人 典阿愍海和尚
二十世	明蓮社星誉上人 光阿在天和尚
二十一世	乘蓮社載誉上人 大阿運海和尚
二十二世	賢蓮社聞誉上人 正阿以此德諦真和尚
二十三世	實蓮社見誉上人 際阿智得真旭和尚
二十四世	健蓮社英誉上人 秀阿鶴山 (とうざん) 智観和尚
二十五世	随蓮社順誉上人 和合海阿観碩和尚
二十六世	天蓮社清誉上人 孝阿聖善順岡老和尚
二十七世	莊蓮社功誉上人 等阿如是成弘
二十八世	明蓮社正誉上人 三阿和弘



順岡上人の功績

- ・ 入山
- ・ 農繁期幼児託児所を開設
- ・ 昭和四年 関東大震災によって倒壊した本堂、庫裡を建立
- ・ 昭和二十五年十月七日 本山（大本山以前）光明寺十夜法要唱導師を拝命（同月十四日厳修）
- ・ 昭和三十八年 一月九日 六十七歳を一期として遷化



若き頃の順岡上人夫妻（裏の池にて、赤ちゃんは成弘さんのお兄さん）



順岡上人の葬儀の様子



順岡上人の葬儀の様子

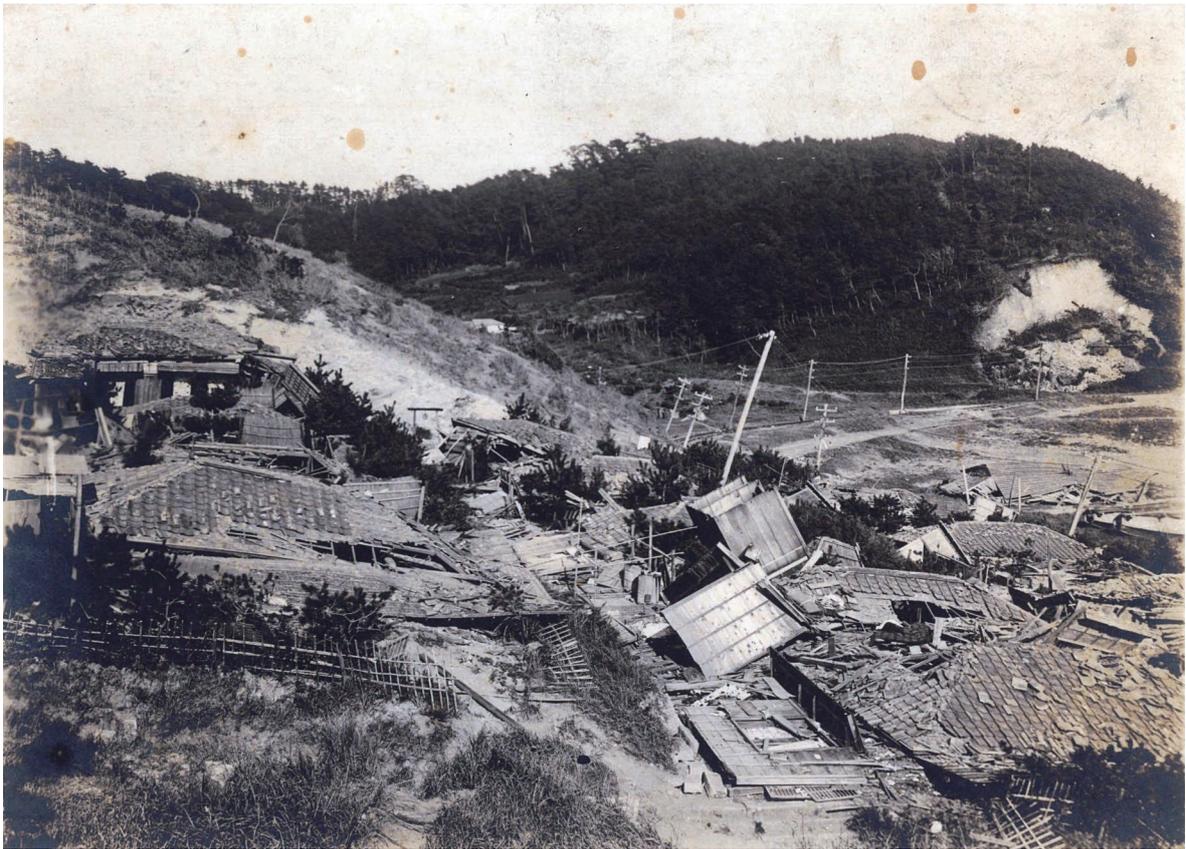


写真 1. 被災の様子（現在の南山田 2 丁目付近）

※写真は栗原久子所蔵（先々代栗原傳蔵より）

関東大震災

大正十二年九月一日、午前十一時五十八分、相模湾を震源地とする、マグニチュード七・九の大地震が、関東南部を襲った。この震災の生々しい被災の様子を写した、貴重な二枚の写真をご覧ください。（写真 1・2）

一・被災の様子

① 大善寺の周辺、南山田町住宅の倒壊

② 大善寺の本堂、太子堂、観音堂の倒壊

二枚の写真より、地震の恐ろしさ（東日本大震災と同等）身を以て体験した訳で、復興の大変さも、重ね合わせる事もできません。当時は、国も市も復興支援策も充分でなく、明日からの生活、途方に暮れた事になりました。

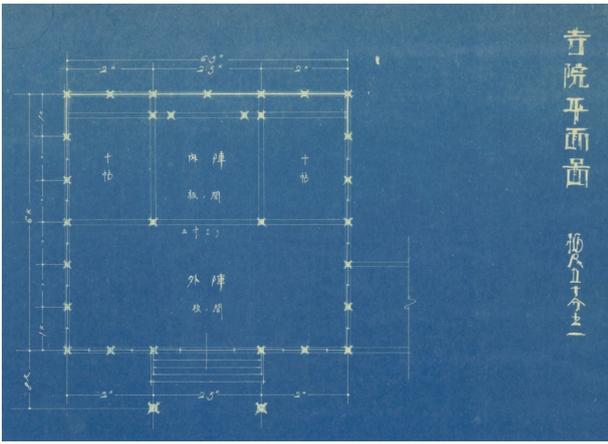
二・横浜市街地の様子（資料「開港150年記念横浜歴史と文化」より）
当時の横浜市（人口四十五万人）では、死者二万三〇〇〇人、負傷者四万二〇〇〇人、行方不明者三〇〇〇〇人を超えた。市街地の十万世帯のうち、二万世帯が倒壊した。

又、地震の直後、火災発生、市街地を焼きつくし、焼失六万世帯以上、住む家を奪われた約三十万人は、横浜公園、根岸競馬場、野毛山、寺院、学校へ避難した。

三・横浜周辺地域の様子

1 横浜市南部の久良岐郡、鎌倉郡では、震源地に近かった（相模湾）ので、被害は大きかった。

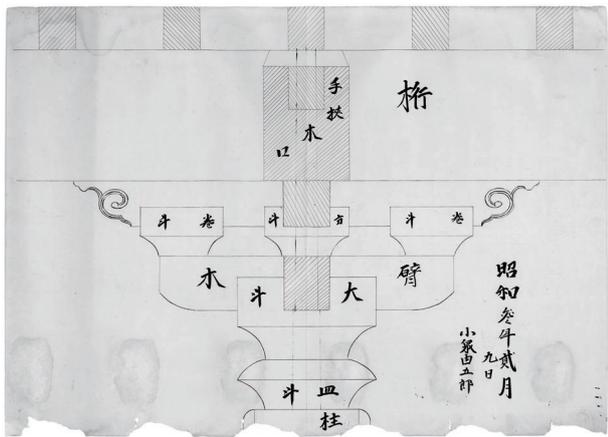
2 横浜市北西部の都筑郡は、比較的軽微であった。横浜市に対する「食糧、人員補給基地」となり、支援活動に努めたところがあるが、当地域は？



資料 1. 本堂再建のための設計図（平面図）



写真 2. 大善寺本堂の被災の様子



資料 2. 本堂再建のための原寸図（日付、大工名入り）



写真 3. 現本堂再建当時

四・本堂の再建（昭和四年）

本堂の再建は、先代二十六世住職・石川順岡上人より取組まれた大事業でした。（現在の本堂 写真3）

本堂の建立は、昭和四年で、関東大震災より満六年で、再建されたこととなります。

檀信徒の皆様（当時約七十施主）震災による被害は、多少相異はあると思われませんが、災害復興には、多大な出費が重なり、苦しい生活を強いられていたと思われれます。

こうした、震災復興最中の本堂の再建、苦渋の選択だったと推察されます。

1 建設資金の調達

① 檀信徒の農耕地面積、反別割に積立金が課せられ、積立金により、調達したと伝えられています。

② 当時の檀信徒数七十で、生活苦の中での積立金で、負担金も大きかったのでは、信仰心の証明です。

③ 本堂再建のため、世話人会で各地の寺を見学して、本堂の設計に取り入れた。大工は、小泉由五郎と設計図に残っています。

④ 本堂は、三九坪で、屋根ブリキ葺、内陣、脇陣、外陣と四間に区切られている。

※回廊は、その追加工事で設置された。

※屋根は、銅板葺きに替えられました。（昭和五十二年十二月）

※本堂の床下に、諸々の古材がたくさん保存されていた。これは震災の時の本堂の用材だった事が判明しました。

処分しました。



港北ニュータウン建設事業への取り組み

第二十七世、石川成弘住職の初仕事は、港北ニュータウン事業への取り組みでした。（以下、港北NT）

昭和三十八年頃は、日本経済の急速な発達で、横浜市郊外（農村地帯）は、東京よりのベッドタウン化が加速し、無秩序な住宅建設が進んでいました。

一・港北NT建設事業とは

1. 昭和四十年、横浜市長、飛鳥田一雄が発表した「横浜都市づくり構想」六大事業の一つです。

2. 横浜市北部郊外の乱開発（住宅等）防止するため、都市と農村の調和が保たれた「人口三十万規模の、大ニュータウン建設をしよう」とする事業です。

3. 横浜市（指導）・住宅都市整備公団（施行）・市民参加（地権者）、三位一体の建設事業です。

4. 港北NT基本計画では、面積は、二五三〇ヘクタールで、農業専用地区も設定されています。

二・大善寺の港北NT事業への取り組み経過

1. 大善寺、世話人会では、この事業に「参加する、参加しない」慎重に検討された。

① 自然豊かな境内地が、寺本来の姿では？

② 都市化された中での、寺の姿を想定すると？

③ 現状の施設、墓地、境内地のままで、良いのか？

④ 寺の将来の夢を描いて？

※寺の現状、寺の将来の全体構想を想定、事業への参加、造成の必要性で意見統一、参加する事を決定しました。

2. 港北NT事業への参加条件として

① 寺は、地権者として参加する。

② 寺は、地権者として、用地を提供する。（平均値%）

A 買取 所有地の約四十%

B 減歩 売却後の約三五%造成費として提供（無償）

C 換地 自用地として戻る。平均値（約三十〜四十%）

三・港北NT事業に参加した結果

1. 寺の所有地は、買取・減歩により、換地面積は、境内地・墓地、緑地等合わせて、三分の一ほどになりました。

※ほかに、現甘茶苑（宅地として三区画）換地された。

2. 寺全体の、豊かな自然環境を守るため、①境内地、②墓地、③緑地の占める割合は（三分の一ずつとする規則）

3. A買取（土地売却金受取）により、寺の諸施設、境内地の整備資金として、活用させて頂きました。

①客殿・庫裡の建設（昭和五十二年十二月）、②駐車場の整備、③表参道・東参道の整備、④本堂・鐘楼・駐車場廻りの石積、⑤甘茶苑、⑥建物の修繕費、⑦大善寺会館等の建設資金、又墓地の分譲（永代使用料）合わせて使用させて頂いています。

四・横浜市六大事業（横浜の都市づくり）

1. 都市部の再開発・みなとみらい21

2. 金沢地先の埋め立て・工場・住宅の集団移転（中・西区）

3. 港北ニュータウン建設・乱開発の防止

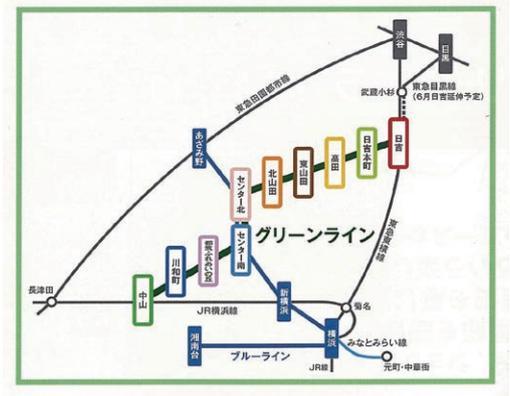
4. 高速鉄道（地下鉄の建設）・市営地下鉄3・4号線

5. 都市高速道路網の建設・中心部と郊外を結ぶ

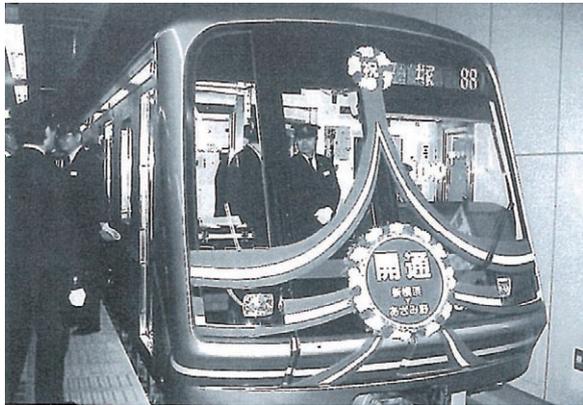
6. 横浜ベイブリッジの建設・京浜工業地帯渋滞解消



港北ニュータウン建設事業 地区区分図



市営地下鉄路線図



市営地下鉄 3号線 (ブルーライン)
(H5. 3. 28 開通)



市営地下鉄 4号線 (グリーンライン)
(H20. 3. 30 開通)

大善寺の紹介



大塚歳勝土遺跡 (国指定史跡)



「都筑区」区名決定を祝う新春の集い (H 6. 1. 18)
都筑区誕生 (H6. 11. 6)



客殿・庫裡の建設

港北ニュータウン事業が進む中、檀信徒の希望していた客殿と、昭和十八年に焼失し、応急な措置として古材を使って建てた庫裡を、ニュータウン事業の用地買収金を資金として新築する運びとなった。

全農かながわの一級建築士事務所にて設計を依頼し、植田建設に建築を依頼して建立された。

- ・客殿 控え室として利用できる十畳間二部屋、寺務室兼法衣室、水屋、お手洗い等

- ・庫裡 時に行事で使用する八畳間二部屋、居間台所、六畳間一部屋、納戸、浴室、お手洗い等
- が完成し、また他に

- ・本堂屋根のブリキ葺きから銅板葺きに葺き換えした。
- ・外構工事部分に、檀信徒有志より寄進いただいた植木、石塔等を使用し、前庭を完成。
- ・のちに客殿玄関脇に檀徒（横浜市神奈川区）織茂武夫氏より寄進された応接室が増築される。

大善寺世話人会 組織表（昭和五十二年十二月） 順不同

総代	栗原 昌治	大嶋 正三郎	栗原 孝雄
世話人	栗原 龍作	栗原 稔	高橋 幸治
	斉藤 義一	織茂 富雄	岩崎 サト
	織茂 武雄	織茂 孝雄	織茂 力雄
	飯塚 利夫	栗原 恒政	織茂 文雄
	岩崎 正雄	岩崎 菊雄	

客殿・庫裡落慶法要

昭和五十二年十二月四日に、浄土宗が開宗されて八百年を記念する位置付けをした、客殿庫裡落慶法要が厳修された。

当日は多くの檀信徒、有縁のご寺院の出席により、世話人岩崎正雄氏のご自宅を練り宿とし、お稚児さんも加わった練り行列が行われ、本堂に昇殿して本尊阿弥陀如来に、無事に客殿庫裡が完成した旨を報告する法要が盛大に勤められた。

港北ニュータウン事業に参加を決めた事により、前記の大変な事業が円成えんじょうされました。尽力いただいた当時の世話人の皆様をはじめ、檀信徒の皆様、ご苦勞様でした。

大善寺世話人会 元総代3名



東山田 栗原 孝雄



北山田 大嶋 正三郎



南山田 栗原 昌治



二十七世立ち
本尊阿弥陀如来に上品礼（じょうぼんらい）をし、落慶の報告をする二十七世成弘



二十七世礼拝
本尊阿弥陀如来に上品礼（じょうぼんらい）をし、落慶の報告をする二十七世成弘



法類総代心行寺安田卓全上人先進による稚児行列



練り行列をする導師（二十七世成弘）、
後ろの伴僧は二十七世甥



受付をする世話人



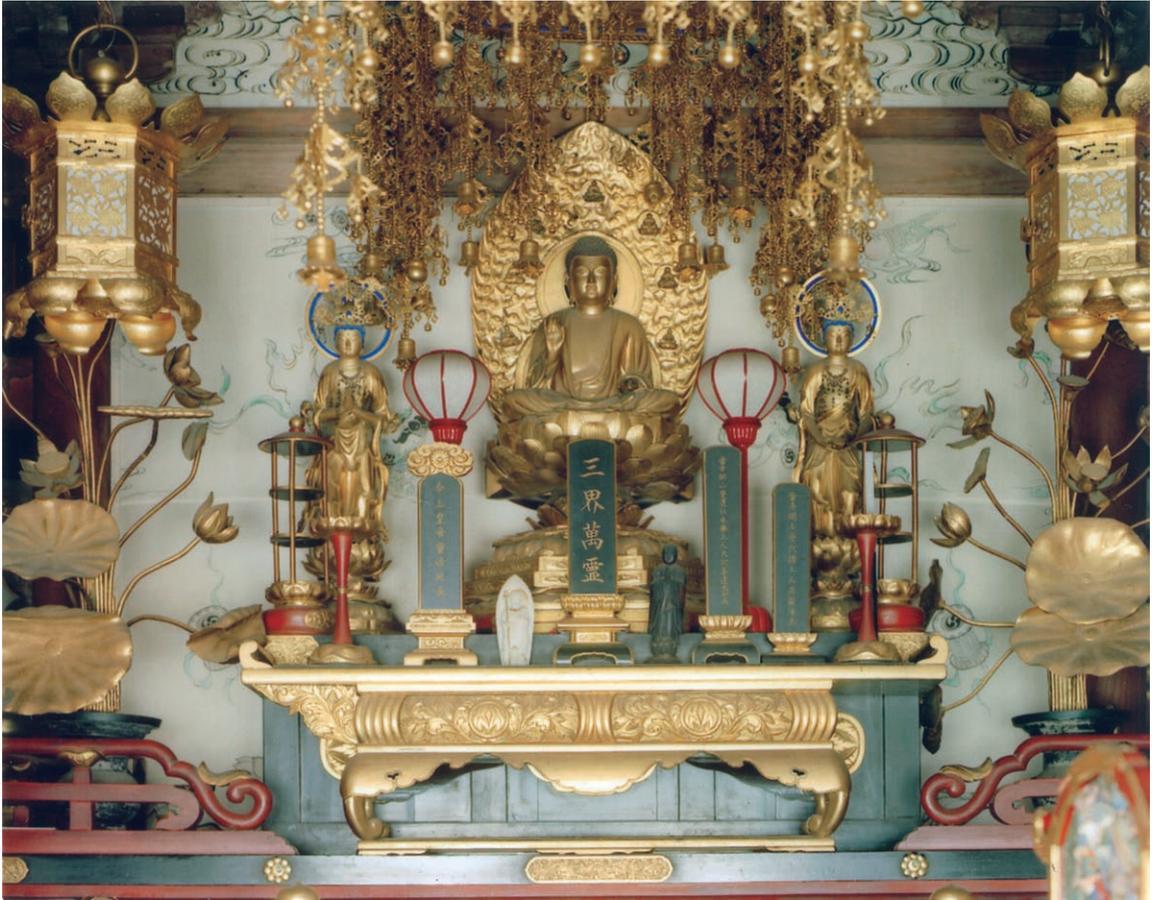
客殿庫裡落慶記念 慶賛大法要（寺院関係）（S 52.12.4 撮影）

部内である港北組第三部を中心に組役職、楽人に大本山光明寺雅楽会の諸上人を中心に勤められ、近隣他宗寺院の出席をいただいた。



客殿庫裡落慶記念 慶賛大法要（寺役員、寺族、親族）（S 52.12.4 撮影）

総代、世話人と二十七世の兄弟、子ども、内室の兄婦人と甥姪。二十八世になる和弘は右側の伴僧。



本尊 阿弥陀如来座像、脇侍 観音菩薩立像、勢至菩薩立像

仏像・諸堂等について

一. 本尊脇侍等のご尊像について

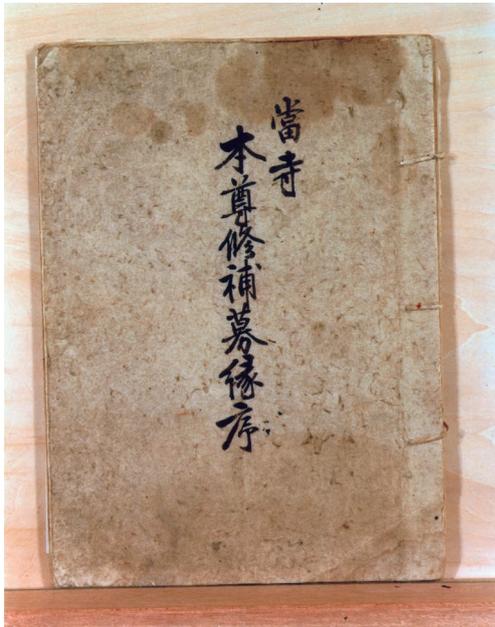
1. 本尊 阿弥陀如来座像

伝 慈覚大師（天台宗の僧 円仁）とされている。近年の調査により、以下の事がわかった。

二十一世運海上人代に本尊を修理した「本尊修補募縁序」に、弘治年間に「当山に小寺あり。当地を訪れた禅僧端蔵主、慈覚大師作の阿弥陀如来（本尊）を安置する。」とあり、室町時代にこの地に本尊が招来された事が判る。

2. 脇侍 観音菩薩立像、勢至菩薩立像

阿弥陀如来の脇侍で、向かって右が観音、左が勢至江戸時代 元禄七年（一六九四）



當寺 本尊修補募縁序



円光大師立像



善導大師立像



正観世音菩薩立像

3. 善導大師立像、円光大師立像
内陣右奥に安置されているのが善導大師
中国、唐初の僧で浄土教の列祖
左奥に円光大師
平安時代から鎌倉時代にかけての僧であり、鎌倉仏教の先
駆けになる浄土宗の宗祖
共に江戸時代 元禄以降と思われる。
4. 正観世音菩薩立像
准秩父三十四観音霊場第三十二番札所となっている。午歳うまどし
に開帳。通常は非公開。



薬師如来坐像、西国三十三観音菩薩像

5. 薬師如来坐像

内陣右側の脇陣の真中に安置される。都筑橘樹十二薬師霊場第十番札所となっている。寅歳とらとしに開帳。元はお堂に奉安されていた。

6. 西国三十三観音菩薩像

薬師如来を囲んでいるのが、西国三十三観音菩薩であり、元は観音堂に奉安されていた。江戸時代 文政三年（一八二〇）に近隣の村の有志により奉納された。

7. 聖徳太子立像

境内に太子堂があつたが、関東大震災の時の倒壊以降に本堂の内陣左脇陣に奉安された。



聖徳太子立像

8. 戦没者慰霊観音菩薩立像

昭和二十二年九月十九日に中川厚生会による第一回大法要が当寺で開筵されたのを期に観音像が奉納された。



徳本上人供養塔



諸国巡礼供養塔



二十三夜塔等

二. 石塔・石仏について
1. 永代供養塔

墓地改葬に伴い、無縁墓の石塔を積んでいたものを、平成二十六年六月に改修し、永代供養墓とした。

(やすらぎ庭園観音像、墓地入口右側 P.31参照)

2. 諸国巡礼供養塔

本堂向かって右の石塔。

3. 徳本上人供養塔

本堂向かって左の石塔。江戸時代後期の僧。徳本行者とも。文化十三年(一八一六)三月に今の本庄の円心寺で大念仏会に千四百人の信者が参集。これを記念して、行者の独特の筆跡による「南無阿弥陀仏」の名号碑が、念仏講中により建立されている。

4. 二十三夜塔等

参道に、右から、二十三夜塔、地蔵碑、諸国巡礼供養塔、地蔵碑、馬頭観世音碑がある。

5. 六地藏

墓地への参道左側、地藏堂に安置。(P.30参照)



本堂（S 4 建立） 関東大震災後再建

三、諸堂について
1. 本堂

現在の建物は、関東大震災による倒壊のため、昭和四年十二月、二十六世代に再建されたもの。江戸時代寛永の頃には間口七間奥行六間、享保年間には間口七間半奥行七間の伽藍であったことが分かっている。

2. 山門

本堂に同じく関東大震災により倒壊したものと思われる。再建は檀徒飯塚金作氏寄進による。

3. 鐘楼

現在の鐘楼は、栗原敏様、千枝子様寄進による平成十二年四月に落慶された改修工事にて再建され、梵鐘は檀信徒有志一同による寄進で、老子製作所鴫田力氏に製作を依頼したものである。

4. 六地藏堂

古くからあったが、石像の破損等痛みが激しく、昭和五十七年七月に大善寺世話人婦人部発願による寄進により建立され、墓地改葬落慶に合わせ現在の場所に移築された。



鐘楼 (H 12. 4. 8 建立)



山門 (享保元年 (1716) 建立)



六地藏堂 (S 57. 7 建立)



本堂会館前広場 (H 23. 7 完成)



表参道 静・緑・荘厳 (H 5. 5 完成)



赤松とつくばい庭園 (玄関前) (H 23. 7 完成)



駐車場 (50 台可、H 6 完成)



東参道 名木の樺 (樹齢約 360 年、H 23. 7 完成)



やすらぎ庭園 供養塔



浄土式庭園 (1) 石庭ご浄土を想定して



寺墓 みんなで移転 ご先祖もびっくり都市化



枯山水 昔「心の池」甦る ご浄土への架け橋



分譲墓 (分譲中) ずっと一緒仲良くね



客殿 (2間) 眺め良好



墓地への参道 感謝への道



甘茶苑 花御堂兼休憩所



行事について

年間行事

行事名	開催時期
修正会 <small>しゅうじょうえ</small>	正月元日
春彼岸	三月
宗祖御忌別時念仏会	春彼岸中
花まつり	四月八日
施餓鬼会	八月十一日
秋彼岸	九月
別時念仏会	秋彼岸中
十夜会	十一月第二土曜日
浄梵会・お焚きあげ	大晦日

(平成二十七年現在)

修正会は、二十七世代に「ご先祖様にご挨拶をしましょう」ということで始められ、法要後には賀詞交歓会を行っている。(会館建立後には会館にて)

春と秋の彼岸には、二十八世代より別時念仏会を開催、特に春は宗祖法然上人御忌会を併修している。

花まつりは甘茶の会発足後、甘茶を献上するお勤めと総会を兼ねて、第一もしくは第二土曜に開催。また祥当日の四月八日には灌仏ができるようにしている。

施餓鬼会は昔から変わらず勤められているが、近年の酷暑によりいかに勤めていくのが課題である。

十夜会は、昭和の太平洋浅草寺以前は近隣の浄土宗寺院でも盛大に勤められていたようである。出店や双盤講による双盤念仏、諷誦文が行われていた。昔は十一月十一日に奉修。近年は現在の通り十一月第二土曜に卒塔婆供養を勤めている。

浄梵会・お焚きあげは、卒塔婆は墓地改葬以前は自然に還していたが、現在はその場所が無いため、古い卒塔婆や白木位牌など不要の品物を供養して浄梵している。



檀信徒・世話人研修会・寺の三大行事・その他

写真提供 栗原 貞夫

まえがき

大善寺の行事活動について、平成五年から、平成二十六年までの二十二年間、写真集にまとめました。

従来より、受け継がれてきた「寺と檀信徒との付き合い、諸行事への参加等、この際、充実策を検討しよう。」と、墓地改葬事業の最終会、第八回総会（平成五年）に上程され、決定、この決定に従い実施された記録です。

一．全檀信徒出席（望ましい）行事、三大行事

1 定期法要・修正会（元旦）施餓鬼会（八月）十夜法要（十一月）

2 特別法要・落慶法要など

3 準行事 全檀信徒任意出席

・ 彼岸会（春・秋）・花祭り・御忌・お開帳
・ 総本山・大本山の行事

二．石川成弘住職の発案により実施された行事

檀信徒の皆様の見聞を広める為、研修会、研修旅行に、

積極的に参加してほしい。

1 横浜市仏教会、区（港北・緑）仏教会主催行事

2 世話人会研修旅行 名刹を訪ねてみよう！

二年一回実施（毎月の積立貯金による）

三．章末に実施された諸行事の結果を、一覧表にまとめ、四ページに亘り掲載しました。ご覧ください。

記念誌ページ数に制限があり、行事も抜粋させて頂きま
す。ご容赦ください。



国上寺（新潟県長岡市）



大善寺・檀信徒研修会 平成5年～6年



大本山光明寺・戸松法主普山式記念参拝記念 平成5年10月12日

第一回檀信徒研修会



横浜市仏教連合会 参拝記念 於 増上寺 平成6年6月8日

第二回檀信徒研修会



大善寺・檀信徒研修会 平成7年～8年



※本堂に掲示の集合写真は寺のみ支給でしたので、何回もチャレンジして載せました。



大善寺・檀信徒研修会 平成9年～10年



第五回 檀信徒研修会

市仏・犬吠崎観音参拝 41名参加 6/4

平成九年六月



平成10年4月3日・二回目6日

第六回 檀信徒研修会

※本堂に掲示の写真は、参加しても寺だけでしたので記念誌に載せてみました。16年前です。



大善寺・檀信徒研修会 平成11年～12年



第七回壇信徒研修会

横浜市仏教連合会 仏積参拝旅行記念 H11.6.17

奥久慈^{かい}太子七福神（長福寺・龍泰院参拝と袋田の滝）43名参加



第八回壇信徒研修会

浄土宗関東地区壇信徒大会

大本山光明寺開山忌法要 平成12年7月6日



大善寺世話人旅行

国上寺五合椀と良寛の里・弥彦温泉



一
大善寺の紹介





行事記録

身延山久遠寺参拝



身延山・奥之院親閤



大善寺世話人会旅行

H16. 5. 26~27

一
大善寺の紹介



世話人研修旅行 H16



大善寺世話人研修旅行 平成16年5月26日 於：甲州 善光寺



都筑区仏教会 H17



都筑区仏教会 皇居特別参観と寛永寺参拝記念 平成17年11月1日



世話人会 積立旅行・熊野古道の旅



戦国時代の織田信長・明智・武田
・上杉等、戦国時代の大名墓石群



高野山宿坊一泊・地蔵院前にて



熊野本宮大社へ158段

大善寺世話会
研修旅行



法然上人圓光大師墓所

一
大善寺の紹介



高野山参拝と熊野古道の旅

速玉大社 H18.10.6



三大年間行事

平成20年 正月・修生会後の懇親会



大善寺の紹介



オモチャ片手に
親子でお手合い



平成20年元旦の修生会懇親に残られた方々と境内

大善寺壇信徒会館が23年7月30日完成しました。

境内が大変広くなり^{あかぬ}垢抜けを致しました。

左上、二枚の境内写真は、二度と撮ること
出来ない貴重な懐かしい写真となりました。

皆さんの顔・初顔合わせに、ご多幸を祈ります。



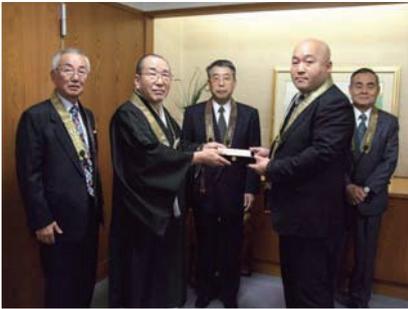
H20.1.1

カメラ・S.K



法然上人800年遠忌 志納金
総本山・知恩院、大本山金戒光明寺 奉獻

知恩院



総本山 知恩院事務局部長 前田昌信上人

一
大善寺の紹介

金戒光明寺



大本山 黒谷 金戒光明寺執事長 芳井秀教上人、渡才副住職



H21.11.5



H22 大善寺・花まつり(灌仏会)



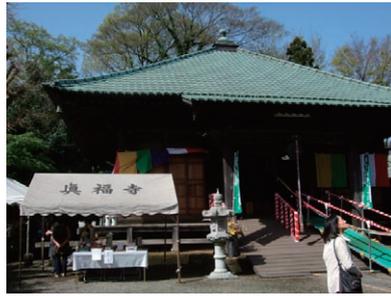
H22. 4. 3

花まつり(灌仏会) お釈迦様の誕生されたというルビニ
ーの花園に見立てて花で飾った「花御堂」に天と地を指差
した釈迦誕生仏を安置して法会(要)を行う。参拝者は「仏
頂」より願いをこめ「竹柄杓」で甘茶をつぐ習わしの行事
が、宗派をとわず行われている。



行事記録

H22 都筑橋樹十二薬師(寅)巡拝記念



一 大善寺の紹介



(第 11 番) 網島山 東照寺を含む 十二ヶ寺の思い出。 H22.4.13



大善寺・先代住職五十回忌法要

じゆんげ
順問儀 五十回忌
りう儀 十七回忌



H23. 12. 9





三大行事

H25 大善寺・十夜法要



・浄連寺 郡嶋泰威上人、法話 40分

一
大善寺の紹介



H25.11.9



大本山増上寺御忌大会参拝



一
大善寺の紹介



日中法要唱導師 鎌倉組西念寺富田英雄上人
浄土宗神奈川教区港北組 団参に住職・総代2名参加

H26.4.7



准秩父観世音菩薩霊場三十四札所めぐり H26



午年の御開帳は、十二年に一度という、二日間で廻る。



第3番札所 金蔵寺 (日吉本町)



第28番札所 塩谷寺 (港北高田西)



准秩父観世音菩薩霊場三十四札所めぐり ・第24番 大聖院(横浜港北箕輪町) H26.4.23

大善寺の紹介



三大行事

H26 大善寺の施餓鬼会・午前中新盆含む98名の参加



H26.8.11

一
大善寺の紹介



総本山知恩院にて新命住職認証報告式



平成二六年九月四日、新命住職認証報告式があり、若住職・総代三名付添い人として参加をしました。新横浜・新幹線のとんぼ帰りでしたが、ほぼ全国から見えていました。付添い人は「オリエンテーション」後に認証式参列と大修復工事の見学。写真を撮ってもよろしいですよ！という返事に用意した望遠カメラで式の瞬間を捉えた貴重な一枚です。『和弘住職さんおめでとう！』

付添い人三名より



付添い人



大善寺・諸行事及び参加状況一覧表 No.1

平成10年	平成9年	平成8年	平成7年	平成6年	平成5年	行事名	
158人 残 75	150人 残 75人	80人	124人	130人	110人 残る人 70	修正会	三大行事
128人 新盆 7 施主	170人 新盆 7 施主	258人 新盆 16 施主	130人 新盆 52 人	220人 新盆 7 施主	135人	施餓鬼会	
103人 残る人 60	86人 残る人 42	67人	106人 残る人 52	100人	受付 70	お十夜法要	
世話人	〃	2/25 PM6:00 世話人	2/25 (コンサート) 世 19 + 6	2月 25 日 世話人	17人 世話人+	御忌法要	その他の行事
	44 + 世 4 中川保育園児	57 + 世 12 中川保育園児	35 + 老人 中川保? 中川の里	100人 中川保育園児	?	花まつり	
36人 山梨 恵林寺	41人 千葉 円福寺	45人 埼玉 川越大師	27人 群馬 足利大光院	34人 大本山 増上寺	22人 大本山 光明寺	檀・研修旅行	
18人 長野 北向観音	—	—	13人 奈良 唐招提寺	—	(H4) 16人 京都 (岩澤梵鐘)	世話人, 研修	
48人 寅十二薬師	—	—	—	—	—	お開帳	
	新庫裡建設 神奈川エアサ イクル(株)		5/26 ~ 27 住職母, 葬儀	駐車場, 石積 三橋緑化興業		その他	



大善寺・諸行事及び参加状況一覧表 No.2

平成 16 年	平成 15 年	平成 14 年	平成 13 年	平成 12 年	平成 11 年	行事名	
110 人 残る人 40	159 人 残 60・郵 23	158 人 残 50・郵 30	164 人 残 80・郵 23	145 人 残 85	160 人 残 61	修正会	三大行事
173 人 新盆 17 施主	150 人 新盆 8 施主	170 人 新盆 15 施主	160 人 新盆 6 施主	170 人 新盆 11 施主	165 人 新盆 16 施主	施餓鬼会	
78 人 残る人 56 人	72 人 残る人 55	72 人 残る人 60	115 人 残る人 70	76 人 残る人 46	70 人 残る人 50	お十夜法要	
世話人	新年会 世話人	2/25 新年会 (喪中、中止)	2/25 新年会 世話人	〃	2/25 新年会 世話人	御忌法要	その他の行事
4/8 法要	(甘茶の会)		25 人 内、世 13	(落慶法要) —	52 人 園児+世 10	花まつり	
37 人 静岡 可睡齋	(お休み) —	(お休み) —	39 人 川越 喜多院	39 人 光明寺 開山忌法要	46 人 茨城 長福寺	檀・研修旅行	
5/26 ~ 27 山梨 身延山久遠寺 17 名	—	18 人 新潟 良寛の里	—	—	18 + 1 富山 老子製作所	世話人、研修	
—	—	25 人 午年薬師	—	—	—	お開帳	
2/20 内室 (節子) 三回忌 (木曾路)	→ 1/20 一周忌 木曾路	1/24 ~ 25 内室 葬儀	大晦日、39 人 除夜の鐘	4/8 鐘楼、山門 落慶法要	鐘楼山門建設 (株)石本興業	その他	



大善寺・諸行事及び参加状況一覧表 No.3

平成 22 年	平成 21 年	平成 20 年	平成 19 年	平成 18 年	平成 17 年	行事名	
113 人 残る人 30	140 人 総会・残 30	130 人 残る人 30	不明	122 人 残る人 48	137 人 残る人 70	修正会	三大行事
受付 114 新盆 8 施主	受付 115 新盆 14 施主	受付 200 新盆 9 施主	受付 172 新盆 7 施主	受付 168 新盆 12 施主	83 人 新盆 5 施主	施餓鬼会	
会館工事 お休み	11 月 14 日	11 月 8 日 50 人	11 月 10 日 65 人	11 月 11 日 53 人	11 月 12 日 49 人	お十夜法要	
2/25 新年会 世話人	2/25 新年会 世話人	2/25 新年会 世話人	2/25 新年会 世話人	(お休み) —	2/25 新年会 世話人	御忌法要	その他の行事
4/3 法要	16 人 4/1 法要	4/5 法要	4/8 法要	4/8 法要	28 人 4/9 法要	花まつり	
区仏参加 12 人 6/8 時宗総本山・光明寺	区仏参加 12 人 5/27 竹寺埼玉飯能	バス日帰 25 人 11/14 光明寺お十夜	区仏参加 23 人 6/12 川越喜多院	(お休み) —	40 人 群馬 水澤観音	檀・研修旅行	
4/22 京都甘茶奉獻 京都日帰り 12 名	「法然と親鸞」 観劇 11/26 青山劇場 8 名	4/8 京都甘茶奉獻 京都日帰り 19 名		10/5 ~ 7 高野山 熊野古道 14 名	—	世話人、研修	
寅十二薬師 お開帳 4/13 マイクロ 31 名	浄青 大別時念仏 11/28 光明寺 5 名			4/3 黒谷甘茶奉獻 17 名 —	7 月 1 日 花御堂地鎮祭	お開帳	
嵯峨野 清涼寺 大覚寺 新幹線日帰り	法然八百年 志納 知恩院 金戒光明寺		法然八百年 大遠忌 寄付金に取組む	本堂・庫裡他 建物保険 更新	甘茶フェンス 工事 非課税に取込む	その他	



大善寺・諸行事及び参加状況一覧表 No.4

平成 26 年	平成 25 年	平成 24 年	平成 23 年	行事名	
74 人 残る人 50	136 人 残る人 40	137 人 残る人 37	140 人 残る人 20	修正会	三大行事
受付 98 人 新盆 12 施主	133 人 新盆 13 施主	受付 126 新盆 19 施主	受付 120 新盆 5 施主	施餓鬼会	
11 月 9 日 46 人	11 月 9 日 44 人	11 月 10 日 79 人	11 月 12 日 50 人	お十夜法要	
1 / 25 新年会 世話人	2 / 25 新年会 世話人	2 / 25 新年会 世話人	2 / 24 新年会 世話人	御忌法要	その他の行事
4 / 5 法要	4 / 6 法要	20 人 4 / 7 法要	4 / 10 法要	花まつり	
			6 / 13 京都団参 25 人 5 / 23 法然上人 800 年	檀・研修旅行	
6 / 5 京都平等院				世話人, 研修	
4 / 15・4 / 23 准秩父 34 札所巡り			7 月 30 日 会館客殿落慶式	お開帳	
4 / 7 増上寺 御忌大会 9 / 4 新命住職認証	12 月吉日 成弘和弘 住職退任 就任挨拶	法然上人八百 年記念事業	会館・客殿建設 先代住職 五十回忌	その他	



これからの大善寺について

二十八世住職 石川 和弘

大善寺は、古より、橘樹郡を中心にある准秩父観音霊場の第三十二番札所（午歳開帳）であり、境外にあった薬師如来が都筑橘樹十二薬師霊場第十番札所（寅歳開帳）であることから、多くの方の参拝があつたと思われまふ。

仏教各宗共通の行事である灌仏会（花まつり）、施餓鬼会、盂蘭盆、春・秋季彼岸が行われていき、また浄土宗寺院で開催される十夜会も鎌倉光明寺を中心に広まっていたことから、当山も双盤講を組織し、境内や参道では露店が開かれていたり賑わいをみせていたようです。

さて、今日当山の行事も多様に行われていますが、前述の法要・行事の他に重要な事業として、甘茶の会を組織しての甘茶作り等事業があります。詳細は別項に譲りますが、これからの時代、地域における寺院の役割として開かれた寺作りの布石になつていく事業です。姿勢としては来る者は拒まず、広く一般の方にお寺に親しんでいただくために必要な事業となつていきます。

これから大善寺が進めていきたい事業としては、浄土宗寺院である大善寺ならではの念仏（礼拝、木魚念仏、百万遍数珠繰りなど）に繋がるイベントが出来ればと思つています。前述の十夜会も本来は秋の収穫時期に行われていたお祭りの一つとして機能していた行事でしょう。この刻々と変化する社会において大善寺が発信できる事業をこの後考えてみたい。

① 年末年始の行事のあり方

梵鐘の無かつた鐘楼も、栗原千枝子様敏様のご寄進により再建され、その梵鐘も檀信徒有志各位によりご寄進を受けました。それを使つての行事といえば、除夜の鐘を行うことでしょう。一度だけ開催してそのまま後は行わず、今現在では墓参などの際に撞くということになっています。

元旦には修正会しゅじょうえを行うようになって三十年ぐらい経ちますが、その当時は参拝者も多くお見えになっておられました。今は現在はそのために集まりになる方が少なくなつておられます。

このような状態を考察してみると、私が以前奉職していた鎌倉の大本山光明寺でお勤めしているように、除夜の鐘に引き続き修正会を奉修する形にした方が良くもありません。もちろん総代世話人様方とよく検討の上、実施していくことになると思います。

② 十夜会を以前のような形に奉修

ここ最近各宗の本山などで「フェス」がよく開催されていることをご存知でしょうか。例えば私も会員でした浄土宗神奈川教区青年会が鎌倉の大本山光明寺で開催している「てらつど」や、宗派を超えた青年僧侶が中心となつて開催される「向源」、また一般の人がお寺さんを会所にして開催される事も増えています。

前述のように十夜会も、法要や法話にのみならず、境内の露天商などの賑やかさ、双盤や演芸などの奉納も行われていたことでしょう。



それを現代に当てはめて、境内ではフリーマーケットや出店、本堂内では落語や寸劇、ライブなどの演芸を奉納をする等、出来なくはないと思います。

今のように法要を勤めた後に、一般に境内や本堂などを開放し「大善寺フェス」を行うことはお寺から地域に発信していく可能性が有ることだと思えます。

以上のようなことを行っていくことが、これからの大善寺のあるべき姿であると思えます。住職と檀信徒、檀信徒の中、地域に融け込んだコミュニケーションをしていく。これがまさにお寺のあるべき姿かと思えます。

広報活動



「甘茶」を飲んでみよう!

甘茶の木



甘茶は大善寺(甘茶の会)の提供品です。

山田富士公園於いて毎年世話人等も加わりJA横浜 北山田支部で花御堂も用意して甘茶の宣伝をされております。



山田富士公園 さくら祭り



JA 横浜 北山田支部

二一・寺墓 墓地改葬





経過年表

西曆	昭和	元号	年	月	日	主要事項
1979	昭和54		54	8		日本住宅公団より寺墓地改葬の説明（世話人会）
1980	昭和55		55	12~1	8	寺墓文化財記録調査：写真・見取図 巻末資料参照
1981	昭和56		56	12	13	第一回檀信徒総会開催（改葬説明会）
1982	昭和57		57	4	6	世話人会で数ヶ寺の墓地見学（以後三回） 墓地使用状況調査及び測量の実施
1983	昭和58		58	7	25	寺墓東、檀信徒説明会開催（住宅都市整備公団より） 第二回檀信徒総会開催（墓地改葬）
1986	昭和61		61	6	22	第三回檀信徒総会開催（墓地全体計画） 第四回檀信徒総会開催（補償の調査）
1987	昭和62		62	6	7	第五回檀信徒総会開催（改葬の手順） 寺墓地仮安置所設置
1988	昭和63		63	9	27	閉眼式（墓地改葬はじまる）
1989	昭和64		64	8	5	第六回檀信徒総会開催（換地）
1990	昭和65		65	5	27	石積み業者三社指定 第七回檀信徒総会開催（石積み計画）
1991	昭和66		66	3	7	石積み工事起工式 石積み工事竣工式（完成墓地数一七二区画） 本移転完了
1993	昭和68		68	5	18	大善寺墓地改葬記念法要 第八回会計報告会開催

まえがき

港北ニュータウン建設事業に参画したお陰で、墓地はもとより境内地・寺の諸施設も整備されました。墓地改葬が原点です。墓地改葬計画発表より、十一年九ヶ月を要しました。この間、開催された会議（総会・説明会・世話人会・各種委員会）は、約百五十回に及びます。諸々の課題を抱えての事業展開であったことを物語っています。

寺墓の西・東は、背後は急な山林、竹林の崖で、施主ごとの墓地も犇ひしめき合った実状でした。墓地造成上（切土・残土等）課題もありました。墓地全体構想のお陰で、新設墓地に本移転できました。

造成工事の遅れ

大善寺の境内地は、広域の為、周辺住居の移転対応、境内地内の造成工事の為、大幅に遅れました。境内地内の寺墓・内墓の仮移転対応に苦慮しました。

補償区域外墓地の発生

寺墓、東地区内の一部に、造成工事前、区域外発生する。全組織を挙げて解消に努めました。結果は？

救済策プール制（大善寺独自の方策）

世話人の発案によるプール制とは？導入は最良の英断。

プール制導入の効果

- ①相互扶助精神の確立、全施主揃って本移転できました。
- ②その後の事業展開進行円滑、その上余剰金で墓地施設まで、追加整備されました。

墓地改葬の経緯



図1 仮換地図

全体構想

墓地改葬について、横浜市・住宅都市整備公団より説明会が大善寺世話人会へ（昭和五十四年八月）ありました。

港北ニュータウンの、理想とする街づくり構想では、寺院全体の面積の①境内地、②緑地、③墓地の占める割合は、三分の一ずつとしたい。大善寺の換地予定面積は（表1）です。

表1 大善寺全体計画面積

①	境内地	3,100 m ²
②	緑地	3,100 m ²
③	墓地	3,300 m ²
合 計		9,500 m ²

公団の全体構想の要旨をまとめると、

- 1 墓地については、寺の既存墓地に加えて、経営墓地（分譲墓地）を換地予定している。
- 2 N T 近隣地区内に点在する、個人墓地の受皿になってほしい。（内墓） Ⅱ 共同墓地として換地（図1）
- 3 寺墓地の改葬費は、補償料で賄う。まかな
- 4 檀信徒への説明会を開催したい。

※公団の要望を受け、総会開催を進める。

港北ニュータウン建設事業概要抜粋

・中断移転方式

港北ニュータウン事業の補償についての大きな特徴として、数多くの補償対象物件（建物をはじめ存置工作物、樹木、墓地等）の中断移転がある。

この中断移転については、計画、補償換地の一連の事業工程を経て、さらに最後に再度補償の業務に取り組むこととなった。

・墓地移転

区画整理事業における墓地移転は「墓地、埋葬等に関する法律」に基づき、市町村長に改葬の許可を受け実施された。

地区内には十二箇所以上の寺院のほか、百箇所以上の個人墓地等の墳墓地が存在したが、これらの散在する墓地を各菩提寺にまとめて換地し、墓地の集団化に配慮している。



第一回総会（昭和五十五年十二月十三日）

檀信徒対象 於 本堂

大善寺墓地造成と墓地改葬について、横浜市・住宅都市整備公団による説明会が開催された。

総会は、横浜市（以下市）・住宅都市整備公団（以下公団）の要請を受けての、大善寺世話人会主催の説明会です。

議事 議長選出

説明会の主な内容

1 大善寺墓地の全体構想について

① 港北ニュータウンの理想とする寺院の換地構想は、境内地・緑地・墓地の占める割合は、三分の一ずつとする。

② 大善寺の墓地については、三三〇〇㎡（約一〇〇〇坪）予定している。既存墓地（①旧寺墓、②新寺墓Ⅱ分譲済）に加えて、経営墓地（新規分譲墓地）を予定している。

③ 港北ニュータウン（以下NT）地区内（寺近隣地区）に点在する、個人墓地の受皿になってほしい。墓地内に、個人墓地として換地する。参考資料（図1）

※地区内、先行工事の為、仮安置所・墓石置場が必要とされる。内墓施主会で、移転先を大善寺とするか、至急決めてほしい。

④ 墓地造成は、広域にわたるため、民有地もあり、また近隣宅地に隣接するため、民々による土地交換という、交渉もあり、造成工事進行に課題も含んでいる。協力を願いたい。造成工事完了は、昭和五十九年を予定しています。

⑤ 旧墓地（地目墳墓地）に私有地がある。所有名義故齊藤松吉氏 四一六㎡（四畝六歩）登記簿にて判明した。早急な対応を検討したい。

⑥ 墓地は、本堂を中心に、高低差のない設計にしたい。

※高低差は、緑地で調整したい。

⑦ 墓地の改葬費は、補償料で賄う。

以後、旧寺墓地区域で課題となる。

2 寺墓地の実態調査を依頼される

① 寺墓地の使用状況（墓石、石積み、面積等、植木）

② 内墓の個々の使用状況（墓石、石積み、面積、植木）

3 第一回総会（説明会）議長 採決 了解

① 大善寺墓地の全体構想について

② 今後は、大善寺世話人会で取組む

③ 大善寺墓地の実態調査、早急に進めてほしい。

第一回墓地見学会

世話人会による見学会（昭和五十六年二月一日）が実施されました。理想的な墓地を造るため、港北区内等の寺院六ヶ寺見学しました。①長泉寺（北山田町）、②長徳寺（牛久保町）、③長延寺（緑区）、④善教寺（新羽町）、⑤光明寺（新羽町）、⑥浄流寺（新吉田町）でした。

墓地の区画、配置、通路幅、石積みと材質、又分譲寺の現況等についても、参考になりました。新墓地の設計に生かしたい。



◎：委員長

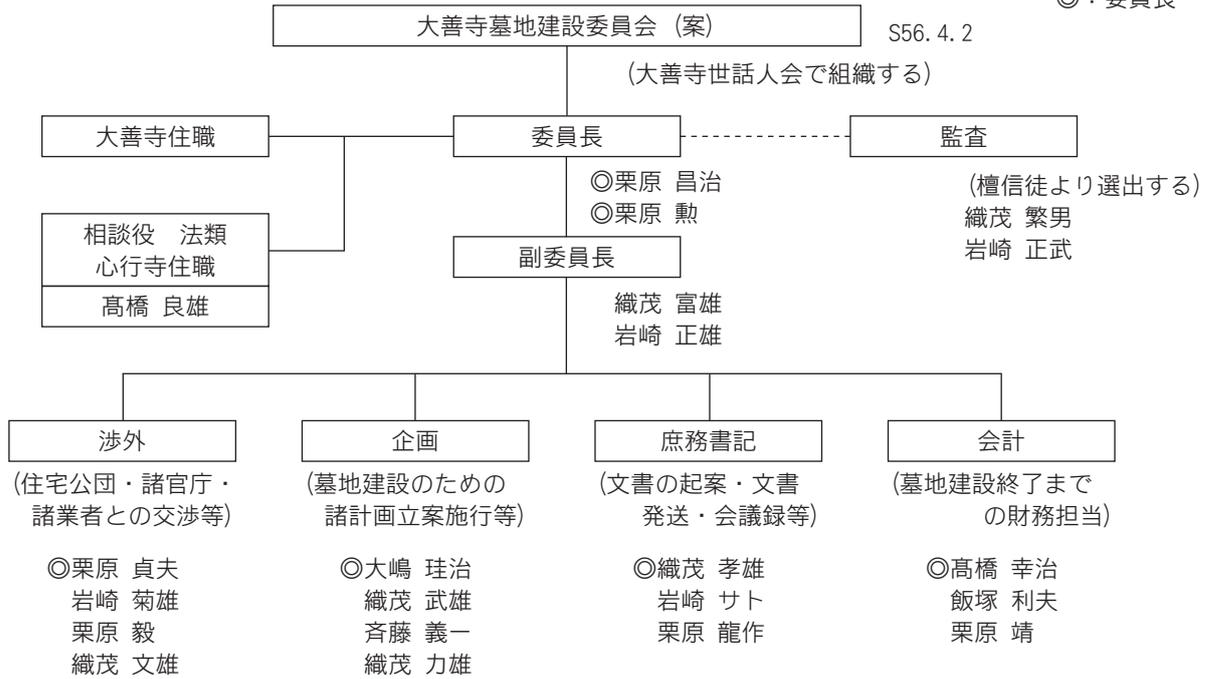


図2 組織図

墓地建設委員会の設立（昭和五十六年四月二日）

大善寺の墓地改葬事業は、広域にわたる造成工事、旧墓地の改葬等の様々な課題が想定される。事業促進のため、世話人会（昭和五十六年四月二日）で、檀家の中より三名の協力者をお願いし、『墓地建設委員会』を組織する事を決めた。港北NT審議委員・高橋良雄氏、織茂繁男氏、会計事務精通の岩崎正武氏の了解を頂きました。組織図（図2）

第二回墓地見学会（P73写真参照）

墓地建設委員会による見学会（昭和六十三年八月二十一日）二十二名の出席者で実施されました。

墓地改葬を機会に、墓地・境内地の総合的な施設、配置計画を考え合わせてみよう、前もって視点を決め、全日かけて四ヶ寺見学しました。（午前九時～午後四時頃）

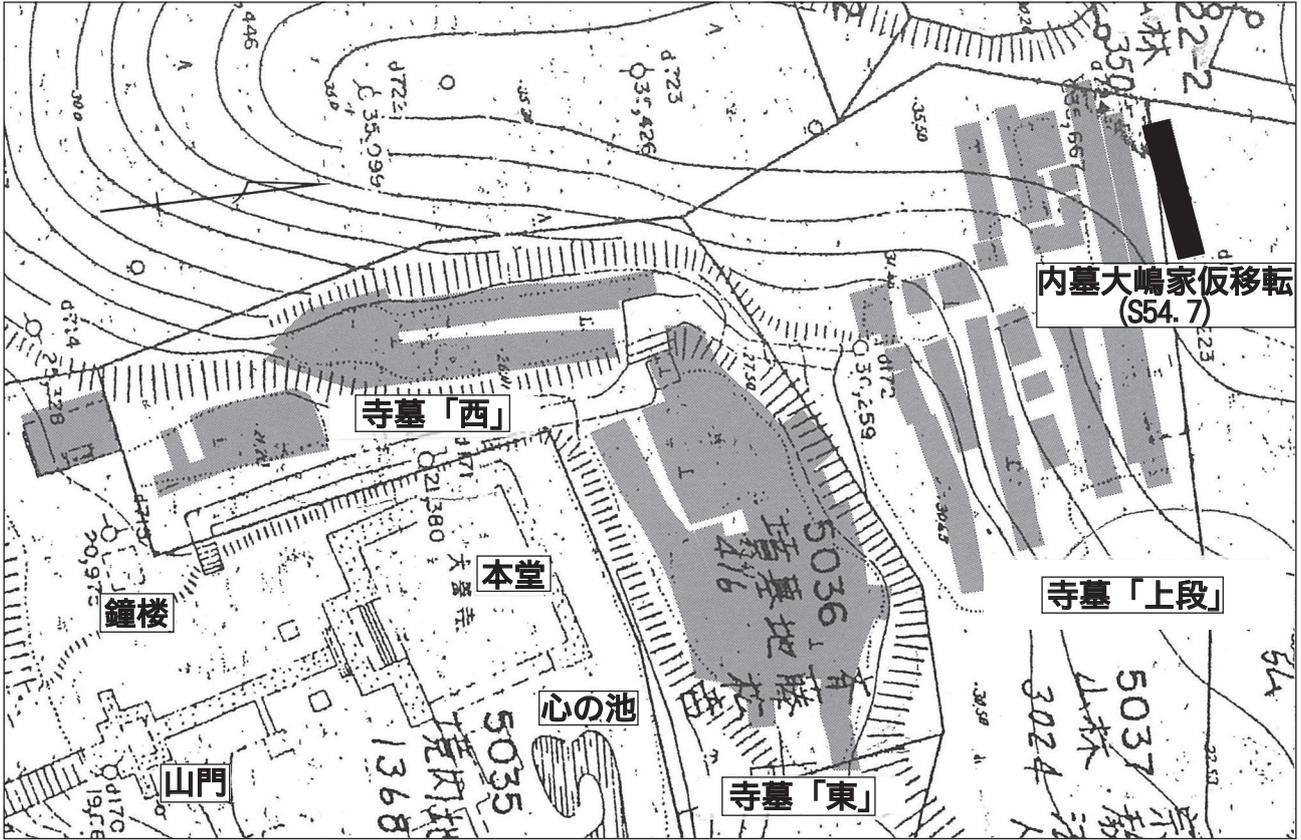
- ① 宗忠寺（池辺町）境内地、本堂の利用（斎場と客殿）
- ② 観音寺（東山田町）境内地の利用、齋場、鐘楼
- ③ 長徳寺（牛久保町）境内地の利用、墓地の石積
- ④ 正覚寺（茅ヶ崎町）境内地の利用、山門、庭園

宗忠寺を除いては、港北NT事業で既に墓地改葬に取り組まれた寺院です。墓地造成上、区画、換地、石積み等、参考になりました。又施設の将来構想をこの際企てたいものです。見学後、意見交換会を実施しました。

- ① 墓地造成が主体でしたが、付帯施設（参道・植栽・手水舎・焼却場・フェンス）等の設置
- ② 駐車場、将来的には、鐘楼の再建、斎場も必要となる。委員の皆様より、貴重な意見を頂きました。



改葬前の寺墓



実態調査 (S56.4) 墓地の名称統一：寺墓西・寺墓東・寺墓上段 (以後)

寺墓地の実態調査の実施（公団による調査）

1 第一回総会（説明会）決定に従い、寺墓地の実態調査が実施された。

① 区画、② 面積、③ 墓石、④ 石積み等

① 寺墓西 昭和五十六年四月十九日より実施。

② 寺墓東 昭和五十六年四月二十六日より実施。

順次寺墓上段へ。

2 実態調査実施についての準備

① 案内状の発送 日程 欠席者（委任状）

② くい、立札、テープで世話人立会いの上施主境界確認。

③ 境界等隣接施主の立会いを求めました。

3 実態調査を実施してみると

① 墓地の区画（境界）不明確、隣接施主の立会いが正解でした。

② 寺墓東は、困難の極み。（資料写真参照）

③ 後日、換地（面積）補償料の算出基準となる調査で、慎重を期して良かった。

4 実態調査の結果報告書（昭和五十六年五月十三日）公団事務所にて、世話人会代表が受領する。

① 寺墓造成工事上、支障のある工事区域と、区域外とに分けられる。寺墓東に、一部区域外が生じた。

② 補償料は、区域内は有り、区域外は無しとなる。

5 「寺墓の改葬は、補償料で賄う」との基本方針が崩れた。

（第一回総会）

① 改葬費の自己負担、② 全寺墓の改葬不可能、③ 居残りも発生する等、想定される。墓地改葬事業への取組み開始



寺墓東の様子 (S55 (1980) 年撮影) 写真提供 吉野直之氏



寺墓の混雑している様子が解ります。これまで、間違いもなく使用されてきましたね。当時は、殆ど土葬でした。埋葬どうしたんでしょう。

二一

寺墓
墓地改葬

早々、死活問題発生する。
6 予期せぬ事態発生

① 約束不履行、公団への要求交渉（昭和五十六年五月十三日）昭和五十六年九月十日）

大善寺の組織を総動員した、補償交渉を約四か月間、総代、世話人会、墓地建設委員会、ニュータウン審議員等公団事務所を訪問し、要求交渉を重ねた。

工事設計案の変更、全体構想の見直し（緑地の拡大・切土・高低差・側面の見直し）等、あらゆる手立てを講じました。

② 補償交渉は中断（昭和五十六年八月三十一日）公団補償第一課より申出あり。覚書きを記述すると、

・現時点でのこれ以上の問答は止める。

・工事影響として、補償はなるべく広く（結果的に、そうしなければ工事ができないため）対象とする。

・それでも残る墓については、改めて工事開始の時、協議する。

・その代わり、現時点で仮安置の必要な内墓（高橋家関連、織茂家関連）は、大善寺で行なってもらう。

※補償交渉これ以上繰り返しても、改葬事業は、遅延するばかりとの判断で受け入れた。内部の作業を進めるため打ち切る。



寺墓東施主への説明会（昭和五十七年六月六日）

東施主対象 公団よりの説明会

一、経過報告

1 大善寺墓地造成のため、工事計画具体化する中で、造成工事上支障のある区域と、支障のない区域とが発生した。墓地造成上、広域にわたるため（切土・高低差・通路等）工事区域内は、補償料有と、工事区域外は、補償料無とが発生した。

2 大善寺墓地を区分すると

- ① 工事区域内は、寺墓西側と寺墓上段（全域）
- ② 工事区域外は、寺墓東の一部（中ほどの施主）は、墓地造成上支障がない。

二、説明会の意見の集約

- 1 寺全体の墓地の改葬は、補償料で賄うと第一回総会で言明した。今になって何故か。
- 2 NT事業に、地権者として協力してきた。先祖あつての地権者、補償あつて当然では。
- 3 同一の寺墓地を使用していたのに、不平等だ、等々。
- 4 補償交渉が、まだまだ不足だ。交渉の継続を。

※墓地建設委員会より

公団より、世話人会への報告（昭和五十六年五月十三日）以降、公団との交渉を重ねてきた。設計変更（切土・高低

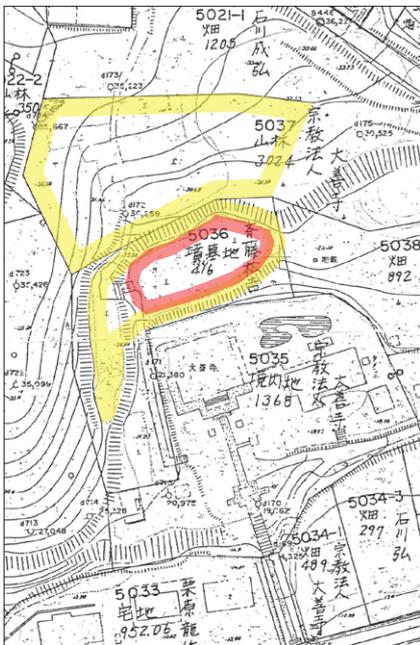
差）、緑地の拡張、近隣宅地への保全等、補償区域拡張に向けた方策を要望してきました。

※公団の解答

大善寺だけ優遇はできない。他の寺も同様発生している。補償料の有無は発生している。

三、建設委員会より提案

- 1 補償の有無は生じている。このままの墓地で居るか。
- 2 この機会に、全体計画に基づいて、改葬できる方策は？
- 3 寺墓地全体を、環境の整った新墓地に、負担の無い形で移る方策を考えたい。第二回総会に、提案したい。
- 4 本日出席の皆様の意見を統一したい。（了解）
- ① 補償料の有無に拘わらず、新墓地へ移りたい。
- ② 相互理解、相互扶助の精神で、一緒に移りたい。
- 5 第二回総会へ寺墓地全施主総会を開催し、皆様の意向を伝えます。





改装前の寺墓地

入口付近からほぼ全体を見渡し撮影（S55（1980）年撮影） 写真提供 吉野直之氏
移転（改葬）前の大善寺内共同墓地（寺墓地）は旧 5036 番地と、旧 5037 番地の一部
にありました。

墓地の位置関係を当時の地積図（公団作成）にあてはめてみますと P68 に掲載した
図のようになります。129 施主あり、立地上おおよそ 3 つのグループに分かれていたた
め、便宜上本堂の西側の墓地を「西」、本堂の裏手の墓地を「東」、「東」墓地の上にあ
る比較的新しい墓地を「上段」と、それぞれ仮称しました。



寺墓「西」（本堂西側）



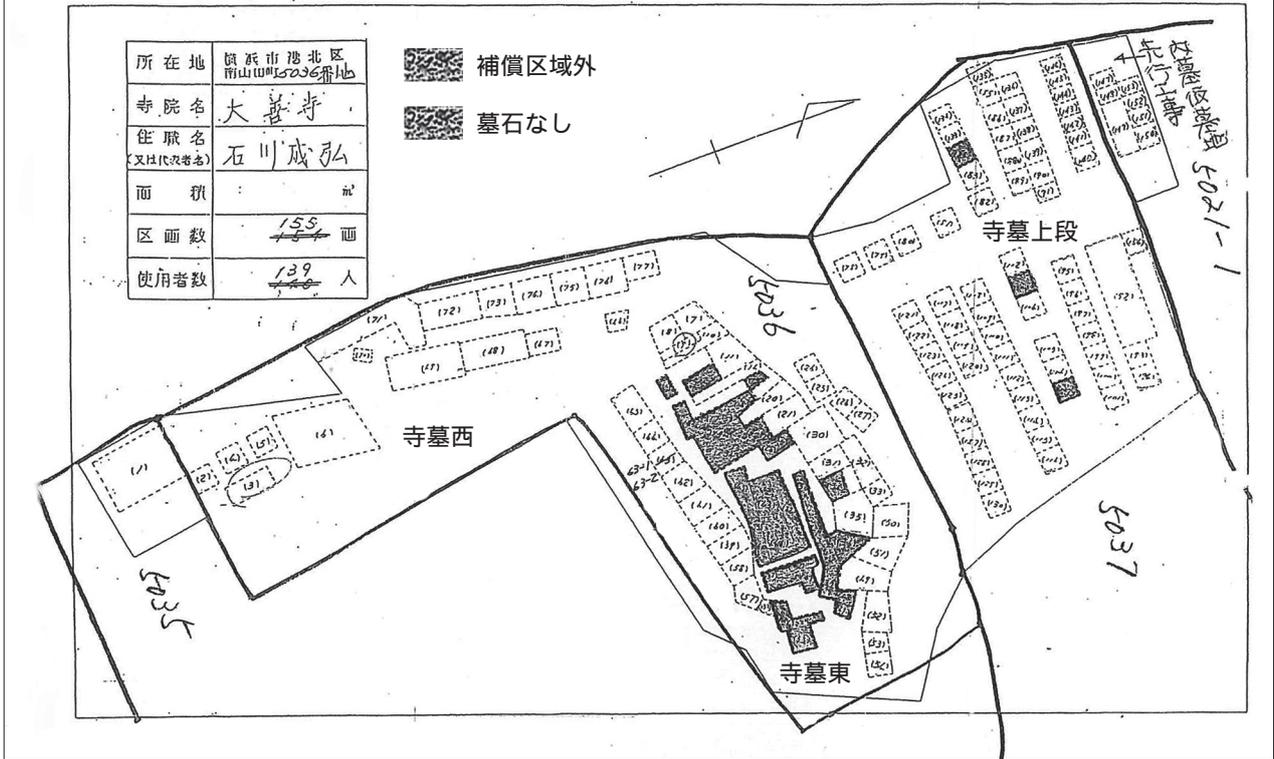
寺墓「西」（鐘楼近く）



寺墓「東」



共同墓地全体測量図



共同墓地全体測量図 (第2回総会資料)

第二回総会 (昭和五十七年七月二十五日)

檀信徒対象 於 本堂

第一回総会 (昭和五十五年十二月) の基本構想に基づき、寺墓地の実態調査を実施。その結果、諸々課題が発生、公団との交渉の経過報告と課題への対応策を検討して頂く為に総会を開催しました。

議事 議長選出

経過報告と公団より説明の主旨

- 1 寺墓地の全体計画 (実態調査に基づいて)
 - ① 墓地実態調査結果 (表1) 一五二施主
 - ② 寺墓地の区画分布 (面積) について (表2) 一四二施主 (重複施主あり差引実数)
 - ③ 分譲墓の区画数 (表3) 三三〇予定している
 - ④ 区割の目安 (面積数区分) (表4) 四八二区画A Bに集中
- 2 墓地改葬の補償料について
 - ① 補償区域内と補償区域外が発生した。寺墓地全体造成工事計画を具体化する中で、工事に支障のある区域と、支障のない区域が発生した。
 - ② 区域外は、寺墓東の墓地の一部です。(上記資料参照) 区域外は、補償料の対象外となります。
 - ③ 補償料の内訳 (改葬費) は、(表5) の通りです。補償料は、税金対象外です。
- 3 墓地の造成について

墓地造成に先がけ、墓地を改葬する必要がある。(仮移転)



表 1 寺墓使用施主数

		施主数	
寺墓	西	11	129
	東	53	
	上段	65	
内墓 (高橋・織茂・大嶋) 家		23	
合計		152	

表 2 区画割分布

	坪	施主数
A	～ 1	8
	1 ～ 1.5	79
B	1.5 ～ 2	29
C	2 ～ 4	21
D	4 ～	5
合計		142

表 3 新設墓地予定区画数

寺墓	内墓	分譲墓	合計
129	23	330	482

表 4 新設墓地予定区画割数

A (1坪)	B (1.5坪)	C (3坪)	合計
212	210	60	482

表 5 補償料内訳

	仕訳	プール化	
改葬費内訳	改葬費	○	↑ 全体の 2/3
	墓石移設費		
	弔祭費	○	
	諸経費	○	↓ 全体の 1/3
	雑費		

- ① 墓石を仮置場に設置（造成地）移す。
- ② 遺骨を掘り上げ、火葬場にて火葬して、骨壺に納め、仮安置所（納骨堂）に納める。境内地に設置する。
- ③ 造成工事は、昭和五十九年に着手する予定。

※公団より説明がありました。終了後、議長より意見集約。結果を例記すると、補償料の有無に集中しました。

- ① 寺墓地全体の改葬は、補償料で賄うと明言したのにな？
- ② 同一の寺墓なのに、どうして区別するのか。不平等？
- ③ 寺全体、改葬できると信じていた。何等かの形で出せ。
- ④ 補償交渉がまだ足りない。組織ぐるみで、等々。

※公団の解答

- ① 当寺の造成工事は広域に亘る（境内地・墓地）ため、具体的には設計の段階で生じたもので、理解してほしい。
- ② 墓地建設委員会、世話人会、寺墓東の説明会（昭和五十七年六月六日）に解答した通りで、区域外は存在する。

※墓地建設委員会より報告

1 組織総動員して、四か月に亘り補償交渉を続けました。交渉は平行線。これ以上の交渉は、造成工事が遅延することとなる。当工区は、昭和五十九年を予定している。『造成工事開始時点迄お預け』公団よりの覚書を受けて寺として了解しました。『覚書』を発表しました。



2 寺墓東説明会の報告（昭和五十七年六月六日）

- ① 補償料の有る、無しに拘わらず、新しい墓地に移りたい。
- ② 寺墓地全体を、一つの墓地として考えてほしい。
- ③ 先祖伝来使用してきた。皆、同じ条件で、ご先祖を新墓地に移したい。
- ④ 寺墓地施主全体、負担金なしで、新墓地に移りたい。

「その方策を」墓地建設委員会に一任し総会で、檀信徒の賛同を頂きたい。

3 墓地建設委員会よりの提案 議長賛否をとる

- ① 補償交渉の一時預かり
公団の覚書に基づき了解 賛成多数
 - ② 補償料の有無を問わず、寺墓地施主負担金なしで新墓地へ移る。その方策、墓地建設委員会（世話人会）に一任する。了解 賛成多数
- 方策として、A一括発注（入札）、Bプール計算方式が考えられる。

4 今後の取組み

- ① 仮設安置所（納骨堂）の敷地、駐車場の敷地確保急務
予定地（現駐車場）は、所有者は三名です。
 - ② 墓石の仮置場は、造成地を一時借用することになる。
 - ③ 補償料対象外の施主の救済方策は、研究課題となる。
- ※寺墓地改葬に向け、まだ他に課題もあり、檀信徒の皆さまの理解と協力をお願いし、閉会となりました。

第三回総会（昭和五十八年十二月十一日）

寺墓施主対象 於 本堂

議事 議長選出

一、経過報告

1 大善寺墓地改葬計画説明総会（第一回（昭和五十五年十二月十三日）より三年になりました。この間、補償の有無（区域内・外の）課題が生じ、補償交渉は一時凍結（昭和五十六年八月三十一日）となりました。施主関心事の換地計画を、造成工事後、即対応できるように取組んできました。換地の基本方針を決める総会です。

2 寺墓地の実態調査（昭和五十六年四月）結果が、世話人会（昭和五十八年十月十八日）に届きました。

3 寺墓地の各施主の地積（面積）を確保するため、前もって増換地の申し出を受け付けました。（昭和五十八年九月から十月末まで）三十五施主の申請がありました。新規（檀家の分家）が含まれていました。一般の募集はありません。※価格は、近隣宅地並み相場としたい。

※墓地一坪を確保するために、三坪要する（他に境内地一坪、緑地一坪）とのことで、価格が高いとの事です。参考まで、（表1）に増換地を加えてあります。

二、議題

1 換地計画について

- ① 基準地積は実態調査時の測定に基づく（墓石数、石積み）
- ② 増換地は、基準地積に加える。金銭対応。
- ③ 価格は、近隣宅地並み相場一坪（檀信徒一〇〇万、新規



表1 大善寺墓地申出書の集約

サイズ		施主数	基準地積	増換地	確定地積
A	1坪	58	58.0	0	58.0
B	1.5坪	37	50.0	5.5	55.5
C	2坪	19	28.0	10.0	38.0
D	3坪	16	35.5	12.5	48.0
E	6坪	2	12.0	0	12.0
F	6.5坪	2	13.0	0	13.0
G	2.5坪	2	3.5	1.5	5.0
合計		136	200.0	29.5	229.5

S58.10.22 集計

図1 寺墓地サイズ (単位:m)

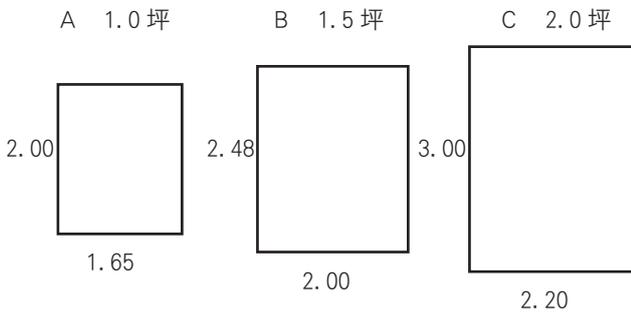
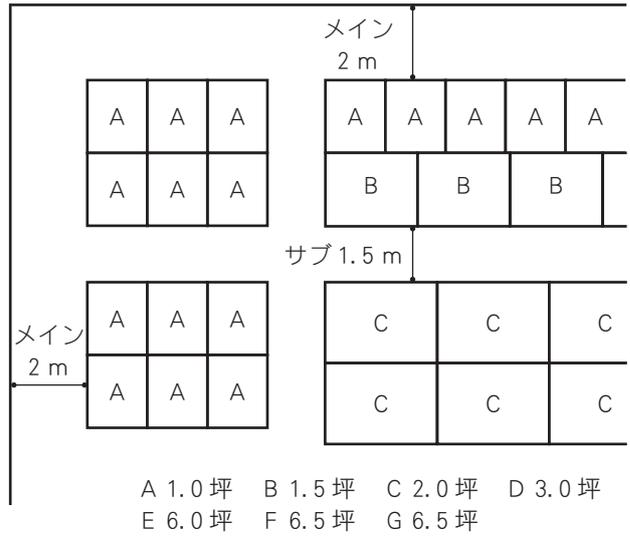


図2 寺墓地全体計画



A 1.0坪 B 1.5坪 C 2.0坪 D 3.0坪
E 6.0坪 F 6.5坪 G 6.5坪

- 一一〇万)
- 2 新墓地の全体計画について (図1・図2参照)
 - ① 区割は長方形型を基本とする (A、Gサイズまで)
 - ② 区割の組み合わせ、AとA、AとC、BとD等合理的に背割方式と組み合わせる。
 - ③ 通路は、メイン(二m)サブ(一・五m)とする。通路は、コンクリート舗装としたい。
 - ④ 石積み、入口は東西向き、基礎石高さ一定、石材質は御影石、植栽はなし。
- 3 業者の指定について
- ① 一括発注(入札方式)で業者を指定する。費用が安い。墓地の維持・管理(アフターケア)を加味したい。
 - ② 墓地の改葬の墓石の運搬も入札方式としたい。
 - ③ 業者の指定について、世話人会に一任願いたい。
 - 4 墓地使用上の決まり、石川住職より提案がありました。(内容省略)
- 三、議長採決 資料参照
- 1 換地計画、2 新墓地全体計画、3 業者の指定について採決、賛成 成立する。
- 四、今後の進め方
- 1 換地計画、2 全体計画(区割、石積み、通路等)を加味し、設計図案を公団に依頼する。
 - 2 墓地造成工事の促進(昭和五十九年完成予定)
- 大善寺墓地予定地は、広域のため、隣接地の補償問題への対応のため、大幅に遅延(昭和六十二年概成)



第四回総会（昭和六十一年六月二十二日）

寺墓施主対象 於 本堂

公団よりの説明会

議事 議長選出

一、経過報告

1 大善寺墓地一次造成の見通しについて（造成工事促進の効果）

① 南山田、牛久保工区造成、昭和六十年定期に組み入れられた。

② 内墓の先行造成工事完了予定（昭和六十三年三月）仮安置後、五年経過

③ 寺墓の造成工事完了予定（昭和六十四年）

二、補償料の算定調査

1 各施主への訪問調査を実施したい。

① 公団からの調査委託業者が七月より訪問、霊体、墓石、工作物、植木等調査。補償費用の算定書を作成する。

② 調査結果については、後日墓地建設委員会（世話人会）で集計して検討の上、報告する。

③ 大善寺境内地の調査（共有部分）を依頼、補償料の算定書の作成をする。

④ 算定書を集計し、墓地改葬の予算計画を作成し、総会に提案する。

三、墓地の改葬計画について

1 改葬費の見積りについて

① 一括発注・入札方式により業者を指定（改葬費の節減）

② 改葬費の捻出について

補償料のプール化（大善寺独自の方策）により、公団よりの補償料で、寺墓地全体を改葬したい。

③ 境内施設（共用）財政の検討（例 墓地への参道、舗装、植栽、水舎等）

④ 墓地石積み予算（各施主）三点セット（基礎石、カロート、塔婆立）設計案を作成します。

四、議長採決

1 補償料の算定調査について

① 公団の委託業者による、訪問調査（各施主補償料の確定）

② 調査結果を集計し、墓地改葬計画案を総会に提案する。墓地建設委員会（世話人会）で検討し、提案します。採決 賛成 成立する。

五、今後の取組み

1 補償交渉について

補償交渉中断（昭和五十六年六月）以来の再交渉

2 補償料の算定結果について

個人補償料と寺境内地の補償料を集計しプール制導入による墓地改葬計画書作成し、次回総会に提案します。

報告書・図表・文中等での用語の併用について

改葬当初より、公団、区役所、寺、業者等との文書の関連で用語の使用で違いが見受けられます。ご了承ください。

例・ 共同墓地Ⅱ寺墓地 大善寺墓地Ⅱ寺墓 旧寺墓地Ⅱ寺墓 旧寺墓Ⅱ西・東・上段と区分し使用 等



第2回墓地見学会 (S63. 8. 21) 墓地建設委員による境内地の総合利用

栗原武夫氏撮影 (S63. 8. 21)



宗忠寺 (池辺町) 本堂 (2F) 客殿 (1F)



宗忠寺 (池辺町) 石積の様子

二 - 一

寺墓
墓地改葬



正覚寺 (茅ヶ崎町) 表参道より山門へ



正覚寺 (茅ヶ崎町) 庭園 (花菖蒲園)



長徳寺 (牛久保町) 表参道より山門へ (建設途中)
未舗装の道路は造成中の区役所通りです



長徳寺 (牛久保町) 石積み計画に

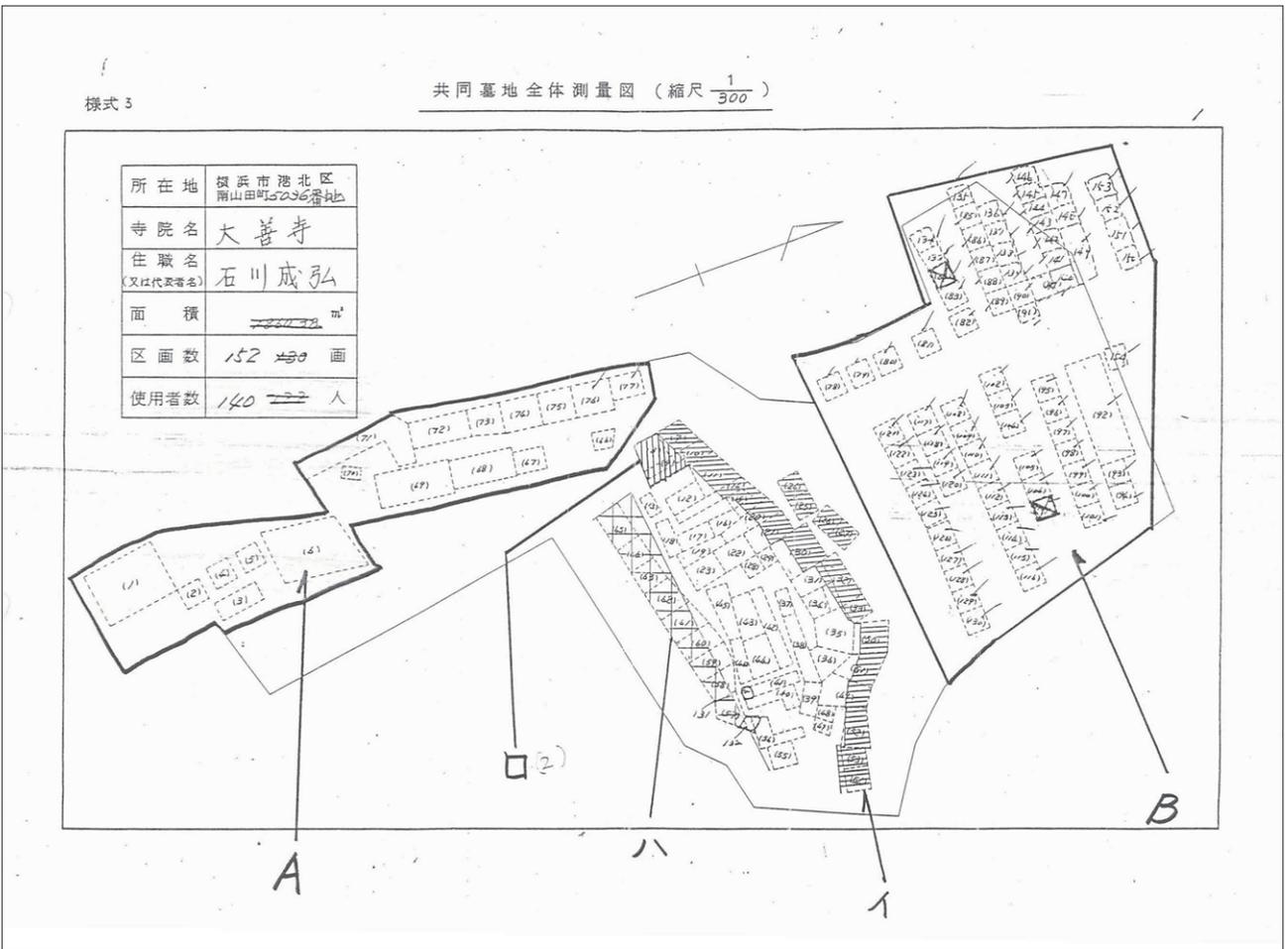


図1 全体測量図

寺墓
墓地改葬

大善寺の墓地調査結果について

大善寺の墓地補償料の算定調査依頼（第四回総会に基づく）、各施主ごとの訪問調査結果集計が世話人会に届きました。（昭和六十一年十月十三日）

1 調査結果を図表にまとめました。

2 (表1・表2) と提示してあります。

3 補償料は、単位千円扱いとなっています。

一、補償の有無と墓石・霊体数 (表1)

1 墓地の区画数は一五二で、施主数は一四〇で、複数所有施主あり。

2 墓石数は、八一八基で、他に石積み等の工作物のある施主あり。

3 霊体数は、六七〇体で（火葬一六四、土葬五〇六）でした。

※補償料の算定は、火葬、土葬で異なります。

二、補償範囲区分と区画数 (全体測量図・図1と表2)

1 補償区域内 (○印) 合計一二五区画

① 西全域 (十八) ② 西上段全域 (七十三)

③ 東イ (二十二) ④ 東ロ (二) ⑤ 東ハ (十)

2 補償区域外 (×印) 合計二七区画

④ 東イ・ロ・ハを除く区域、

※墓地造成工事に支障がない区域

三、補償交渉について

1 造成工事計画具体化する時点まで、補償交渉は中断（昭和五十六年六月六日）以来、墓地建設委員会、世話人会で非公式に交渉は続けて来ました。周辺の造成工事、寺墓地造



表1 寺墓調査結果 補償と墓石霊体数

	区画	施主数	補償○×	墓石数	霊体数
寺墓	西	18	○ 18	818	670 火葬 164 土葬 506
	東	61	○ 34 × 27		
	上段	73	○ 73		
合計		152	152	818	670

S61.10.13 公団報告

表2 寺墓補償範囲区分と区画数

補償区分	寺墓区分		補償（区域内・区域外）の要因	区画数	
①	○	西 全部	造成工事（擁壁）のため支障となる	図面A	18
②	○	上段 全部	造成工事切土のため支障となる	図面B	73
③	○	東 一部	現況法尻から2m範囲は支障となる	図面イ	22
		東 一部	道路造成工事の支障となる	図面ロ	2
	○	東 一部	土地利用計画上墓地区画でなくなる	図面ハ	10
④	×	東 一部	補償対象とはならない（工事支障ない）	図面他	27
				計	152

公団 S61.10.13

表3 仮移転入札額 単位：千円

	費目（業者）	金額
1	改葬堀 緑葬儀社	12,000
2	墓石搬出 金井石材店	3,000
合計		15,000

契約締結 S61.12.27

表4 個人分補償金 単位：千円

区分	仮移転	本移転	合計
本人受領分	30,496	24,772	55,268
代理受領分	54,291	34,314	88,605
計	84,787	59,086	143,873

公団 S61.12.24

- 成工事促進に鑑み、最終案として受理しました。
- 2 算定された補償料は、寺墓全体の補償料として受理して寺墓全施主が、「負担金なし」で、新設墓地に移転できるよう、補償料のプール制に向けて、取り組むことを確認、第五回総会に向けて準備を開始しました。
- 四、大善寺墓地改葬工事の見積り入札について
- 1 墓地改葬業者を選定するため、「見積入札」により決める事としました。（宗）大善寺 総代栗原昌治で（昭和六十一年十月二十六日）関連事業四社に「文書」で送付しました。
- 2 墓地改葬の見積書四社より届きました
- ① 二社 改葬堀＋墓石運搬Ⅱ合計見積
- ② 二社 改葬堀（一社）墓石運搬（二社）見積
- ③ 世話人会（昭和六十一年十二月二十七日）で見積書に基づき決定しました。
- ※改葬堀は（株）緑葬儀社、価格一〇〇万円（表3）
- 墓石の運搬（仮移転）は、金井石材店 価格三〇〇万円
- 五、補償料の算定結果について（昭和六十一年十二月二十四日）
- 1 大善寺分の補償金（寺工作物、立木）約六〇〇万円
- 2 個人分補償金（本人受領分と代理受領分とに区分）仮移転と本移転の総額（表4）約一億四四〇〇万円
- 3 仮移転へ向けての予算立
- 補償料の算定結果に基づき、墓地建設委員会（世話人会）で検討した結果、代理受領分（プール制により）仮移転の予算立ができました。



第五回総会（昭和六十二年六月七日）

全檀信徒対象（出席七十四、委任状一〇五）

議事 議長選出

一・総会資料参照

1 補償料のプール制について説明

① プール制の導入は、経費の節減方策（一括発注）

② 節減分で、区域外施主分を賄う

③ 補償料は、本人分と代理受領分に分ける。

④ 代理受領分、世話人会宛に委任状を提出する。

⑤ 会計係、世話人会より ◎高橋幸治◎栗原靖◎飯塚利夫、会計監査、檀家より ◎岩崎正武、◎織茂繁男を

選出し、委嘱する。

⑥ 指定業者（入札）二社決定、墓地改葬堀（有）緑葬儀社、

墓石運搬（有）金井石材店

2 プール制による、補償料の区分

① 代理受領分（○印）世話人会（会計係預り）

墓地改葬（一括発注関連）で賄う。余剰金で区域外賄う。

② 本人受領分（×印）本人の口座に入金される。

③ 代理受領分（△印）は、本移転時調整返金します。

④ 予算案説明

・収入の部（仮移転時見込額）約五四〇〇万円（代理受領分）

・支出の部（仮移転時見込額）約二一〇〇万円の目途

がいたので、即執行したい。（入札価格）

1 改葬費（緑葬儀社）一二〇〇万円

2 墓石等移転（金井石材店）三〇〇万円 閉眼式弔祭料

四〇〇万雑費二〇〇万

※プール制について一括採決 賛成 承認

二・改葬の手順について（資料参照）

A 墓石の運搬 墓石・灯籠・線香立等は仮置場へ。その他工

作物（石積み）植木は撤去、伐採、（費用負担有）

B 改葬 施主立会い（隣接者も）

① 閉眼式―改葬（①掘起し、②納棺、③火葬場へ、④仮設

納骨堂へ マイクロバスにて送迎する。）

① 閉眼式は、全施主統一、②改葬日は、前もって予告す

る。

三・改葬の予定（資料参照）

1 事務手続き（昭和六十二年六月～六十二年九月）承諾書等

2 墓石の移転と墓地改葬（昭和六十三年三月まで）

3 寺墓の造成工事（昭和六十三年三月～昭和六十四年三月ま

でに完了）

① 墓地の換地、② 石積み計画について第六回総会に提案す

る。

4 本移転は、墓地竣工後、各施主ごとに実施する。

四・墓地改葬の為の施設の設置（用地確保難題でした）

1 仮設納骨堂の建設（昭和六十二年八月）平家（プレハブ）

現駐車場に用地確保でき、突貫工事でした。

2 墓石等の仮置場（昭和六十二年九月）南山田、牛久保工区

の（第一造成地）に用地確保できました。

※二・三・四について一括採決 賛成・承認

※墓地改葬の準備完了、閉眼式が待たれます。



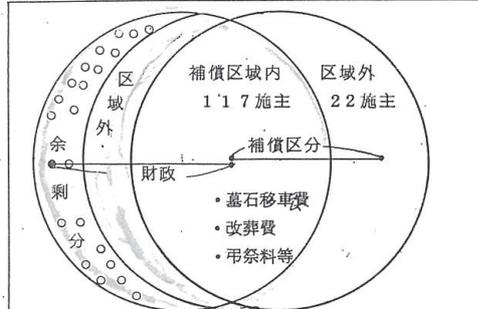
第 5 回 大 善 寺 総 会 資 料

6 2 . 6 . 7

1. プール制についての基本的な考え方の確認と財政

- (1) 補償料のプール制は大善寺独自の方策です。
- (2) 補償料のプール化は墓地の仮移転、本移転の一括発注により、諸経費の節減をはかるものです。
- (3) 大善寺のプール制は、補償料の一部プール制です。
(代理受領分と本人受領分に区分する)
- (4) 補償料で寺墓地全体を改葬する。
(本移転時の石積みを除き個人負担なし)
- (5) 改葬に要する費用はプール制による代理受領分の補償料(世話人代行)でまかなう。
- (6) 区域外施主の経費はプール制による経費の節減分でまかなう。(改葬費と弔祭料の補助)
- (7) 代理受領のため、委任状(承諾書)、大善寺世話人会あて頂きたい。

プール制のとらえ方



財政について

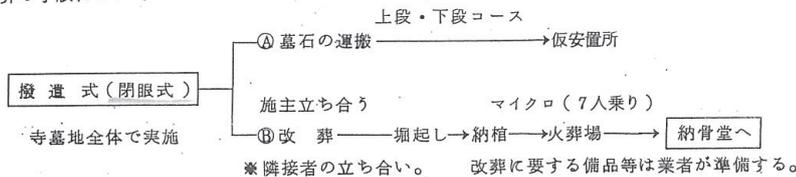
- 公団よりの補償料の提示 61.12.
- 改葬業者入札により指定 61.11. 「緑葬儀社 (4社)」「金井石材店」
- 改葬費の節減分は寺墓地共有部の整備費にあて
る。(暗きょ配水通路の舗装植栽等へ)

2. プール制による補償料の区分

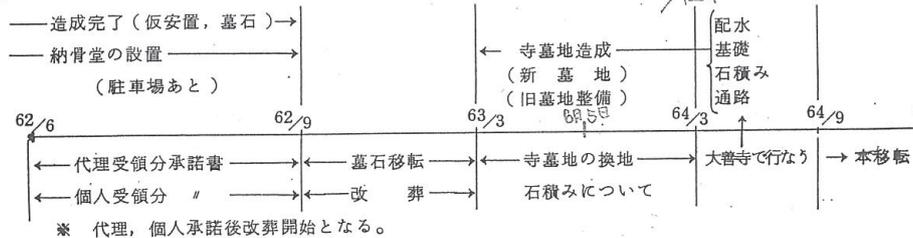
補償料内訳	仮移転時		プール化 ○	本移転(新墓地)	プール化 ○
	代理受領分 (世話人会 会計係) ※ 委任状 (承諾書)	墓石移転	運搬料	○	
撤去費		石積 カポート	△	新設費補償	△
改葬費		掘起し~納骨 (火葬, つぼ代お花)	○		
諸経費		現場管理費	○		○
立竹木		植木(移植)	○		
本人受領分	仮安置料	中断期間中の供養料 1つぼ月600円	○	本移転完了まで	
	弔祭料	閉眼読経料 供物料接待費	×	開眼 "	×
	移転雑費	就業不能	×		×

△印について
代理受領分の一部特例として、本移転の時点で調整し精算します。

3. 改葬の手順について



4. 改葬の予定





寺墓の閉眼式（昭和六十二年九月二十七日）
仏の魂を入れることを開眼といいますが、逆に改葬に先立ち



AM 9時30分本堂前に於いて石川住職はじめ3名の上人により読経が始まりました。



本堂前の参列者の皆さん。140名近い方が参式されました。



ご来賓の皆様方



焼香する参列者



焼香する参列者

仏の魂を発掘する墓地から一時的に抜くことを閉眼といいま
す。そのための儀式がおこなわれました。



AM 10時から墓参が行われました。お寺の3名の上人が3区画（西・東・上段）を分担され、1施主ずつ心をこめてすすめておられます。





乾杯 ご来賓の皆様そろって



テント5張、テーブル(机)30個で会場準備。右上の青い屋根の建物は約1か月前に完成した寺墓のための仮安置所(納骨堂)。



織茂富雄(副委員長)
織茂繁男(監査)



来賓の皆さん。公団、葬儀社、石材店の関係者約10名がおみえになりました。



石川住職内室の接待



おしのぎ 立食会食



PM2時閉眼式のすべての日程が終了しました。庫裡にて住職を交えて尽力した世話人及び婦人部の慰労会(反省会)が開かれました。



世話人会婦人部の皆様方

十一時三十分からの閉会式のあと、正午から場所を山門を下りた左手、現在駐車場のあたりに移して「おしのぎ」

とよばれる会食が開かれました。



寺墓地換地委員長 挨拶 栗原毅



第6回総会次第 (S63.6.5)



寺墓地換地委員会 副委員長 斉藤義一より説明



第6回総会の様子

二一
寺墓 墓地改葬

第六回総会 (昭和六十三年六月五日)

寺墓施主対象 於 本堂

出席者五十三名 委任状三十二名

議事 議長選出

一. 経過報告

- 1 墓石の移転・墓地の改葬完了 (昭和六十三年二月)
- 2 新墓地造成工事着工の見通し (昭和六十四年九月予定) 公団より説明
- 3 新墓地の換地計画 (各施主) を、公団に依頼・作成した設計図に基き、「寺墓地換地委員会」(寺墓世話人会九名) より、提案します。

二.

1 各施主への墓地換地

- ① 墓地条件良好・東西向き・陽光 (図2参照)
- ② 区割順 (A→F) ③ 墓地西側→東側へ④ 上段も同じ
- 2 無縁仏について、別途扱い (無縁塔建設し納骨する)

※採決 賛成多数 成立

3 増換地の価格について

- ① 坪単価、百万円とする。時価相場 (近隣宅地並)
 - ② 会計処理、寺の資金へ 寺境内地の整備費用に充てます。
 - ③ 増換地、三十五施主より (二九・五坪) 申出あります。
- ※採決 賛成多数 成立
- ※質問 空墓地について、檀家の分家について優先します

一般募集は、先送りとする。



旧墓地 区画図

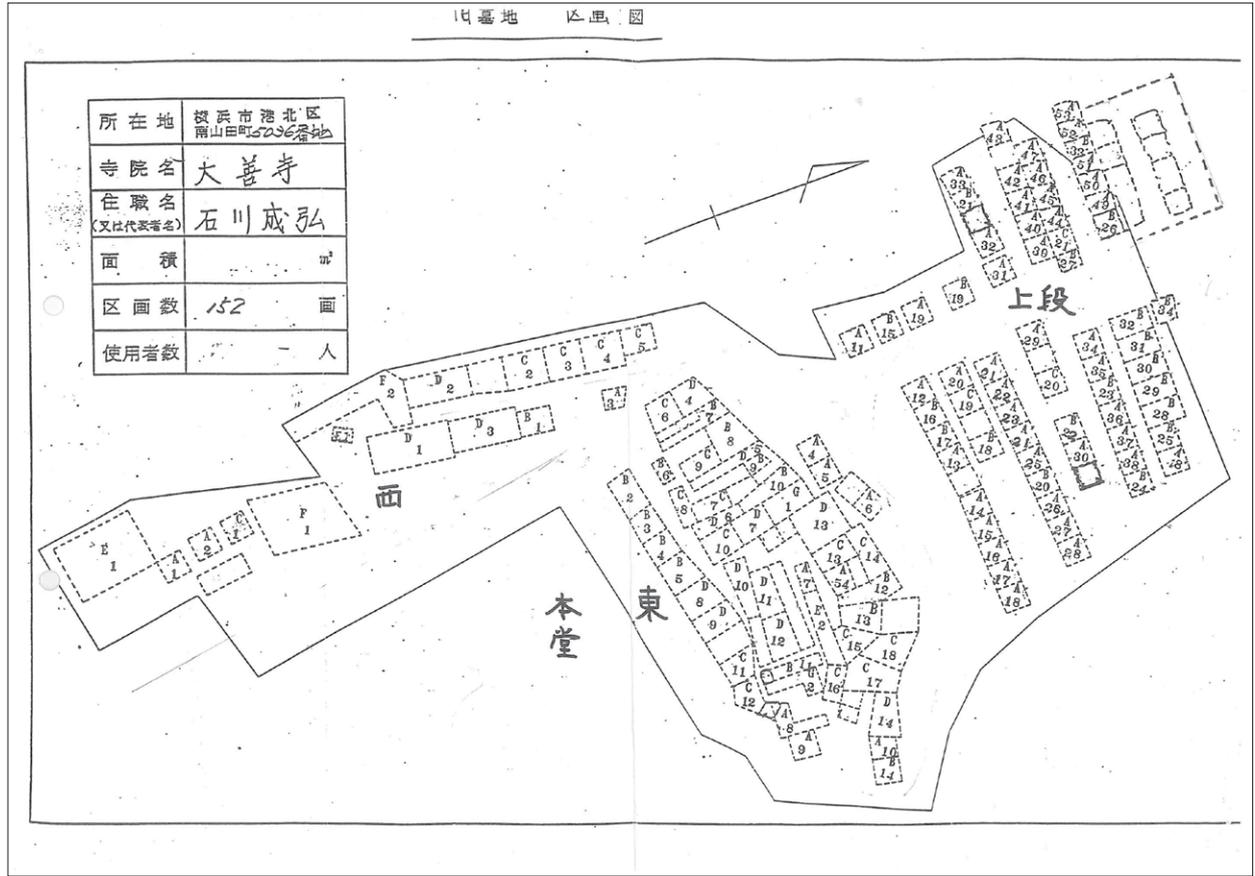


図1 旧墓地区画図 (第6回総会資料)

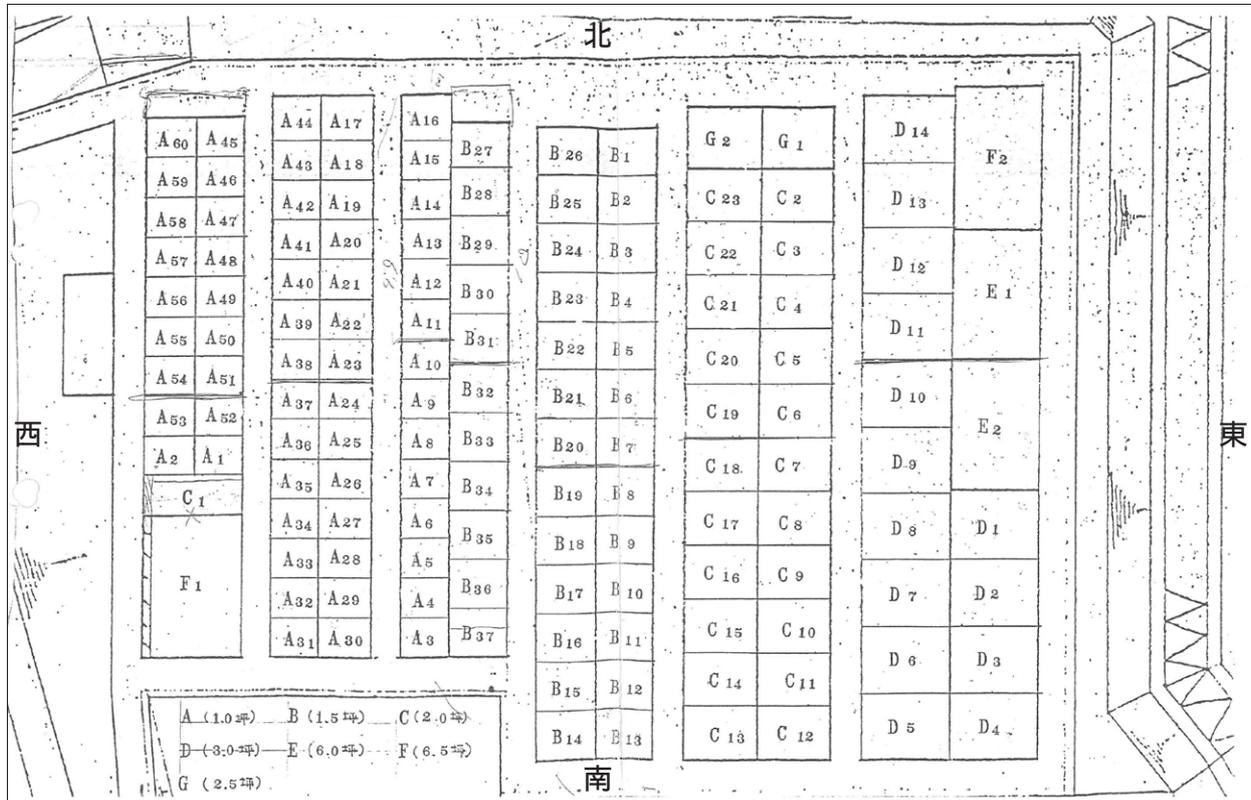


図2 新墓地区画図 (第6回総会資料)



会計監査報告 岩崎正武より



第6回総会の様子

昭和62年度大善寺墓地建設会計報告
昭和62年7月20日～昭和63年4月30日
昭和63年6月5日

(1) 収入の部	69,022,079円
内訳	
公団補償料 着手時	30,062,400円
" 完了時	32,244,300円
" 納骨堂分	6,616,900円
閉眼式	60,000円
貯金利息	38,479円
(2) 支出の部	26,677,970円
内訳	
改葬費	12,000,000円
墓石移転費	2,900,000円
納骨堂建設費	6,616,900円
協力対策費(弔祭料)	4,050,000円
閉眼式費用	787,180円
税務事務費	50,000円
消耗品及び事務費	73,890円
会議費(20回分)	200,000円
(3) 差引残高	42,344,109円
内訳	
一年定期	40,000,000円
普通貯金	2,317,999円
現金	26,110円

以上のとおり御報告致します。

大善寺世話人総代	栗原 昌 治 印
" 墓地建設会計	高橋 幸 治 印
" "	栗原 靖 夫 印
" "	飯塚 利 夫 印

監査の結果、計算その他異状ないことを証明致します。
昭和63年 5月 30日
大善寺墓地建設会計監査 織茂 繁 男 印
" 岩崎 正 武 印

会計報告 (第6回総会資料)

二二

寺墓 墓地改葬

4 寺墓地改葬費の中間報告 (資料会計報告(昭和六十三年六月五日))

① 会計担当者 (高橋幸治、栗原靖、飯塚利夫) 代表して、高橋幸治より報告がありました。

② 第五回総会での予算計画に基き、執行しました。

③ 収入金の中で、仮安置所での骨壺の供養料 (月額、一壺六〇〇円) を九か月分、約六六〇万計上しまして、総額約六九〇〇万となりました。

④ 支出として、・改葬費・墓地移転費、・納骨堂建設費、・閉眼式費用、・雑費等、約二六六七万円、差引約四二三四万円となりました。本移転に備え繰越金とする。詳細は、会計報告書の通りです。

⑤ 監査報告

監査報告は、監査役・岩崎正武、織茂繁男、二名代表して岩崎正武から監査報告がありました。適正処理されていきました。 ※採決 賛成多数で 成立決定

三、今後の進め方

1 墓地造成工事を見通して、石積み計画を立てる。

① 石積み設計、② 石積み予算、③ 業者の選定、④ 寺墓地使用の決まり等、第七回総会へ提案することを約束して閉会する。

第三回見学会 (平成元年十月十五日)

「寺墓地石積み委員会」により長徳寺、正覚寺の二ヶ寺を見学しました。見学の目的は、基礎工事で墓地の地盤が緑泥岩のため、同様の長徳寺の暗渠排水施設あんきょの必要性を確認するためと、統一された墓地の区割、配置等、石積み参考になりました。



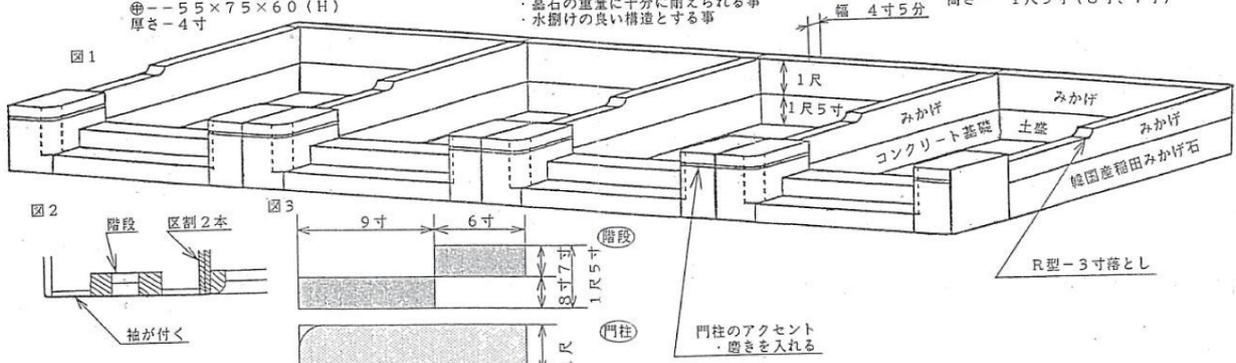
石積計画

① 石積み設計

- 石積みについて
 - 基礎工事
 - 3点セット
 - 2段積み(1尺5寸盛り) + カロート + 塔婆立て
- 形の統一 (図1)
- 材質について
 - 韓国産稲田みかげ石
- カロート
 - 材質 - コンクリートユニット
 - 寸法
 - ① 60×90×60 (H)
 - ② 55×75×60 (H)
 - 厚さ - 4寸

- 塔婆立て
 - 材質 - ステンレス
 - 寸法
 - ① 3尺(H) × 2.5尺
 - ② 2.7尺(H) × 2尺
 - 角柱 - 6寸 × 5寸
- 区割の分類 - 間口の広さにより分類する (図1)
 - a) 1坪~3坪まで - 門柱は共用とする (図2)
 - b) 6坪以上 - 門柱は独立とする (図2)
- 基礎工事の構造について
 - ・ 鉄筋を入れる事
 - ・ 墓石の重量に十分に耐えられる事
 - ・ 水捌けの良い構造とする事

- 石積み上の条件
 - ① 通路の高低差が20cm有り、それを1ヶ所調整する為、区割が2本となる所がある (図2)
 - ② 門柱は共用、独立があり、独立は、袖が付く (図2)
 - ③ R型の位置は、東、西側一定とする (3図)
 - ④ 階段のサイズ (3図)
 - 1坪~3坪 - 3尺幅
 - 6坪以上 - 5尺幅
 - 奥行き - 1尺5寸 (9寸、6寸)
 - 高さ - 1尺5寸 (8寸、7寸)



② 石積み日程

平成2年	平成3年
1月	1月
2月	2月
3月	3月
4月	4月
5月	5月
6月	6月
7月	7月
8月	8月
9月	9月
10月	10月
11月	11月
12月	12月
1月	1月
2月	2月
3月	3月
4月	4月
5月	5月

1月: 業者の指定
 2月: 設計の確認 (業者の見積)
 3月: 予算の検討 (業者の見積)
 4月: 公団録石工事
 5月: 業者との契約
 6月: 起工式
 7月: 第7回総会
 8月: 石積み工事
 10月: 本移転開始
 12月: 本移転
 2月: 本移転終了
 5月: 落慶式

資料1 石積設計案 (第7回総会資料)

第七回総会 (平成二年五月二十七日)

寺墓施主対象 於 本堂

議事 議長選出

一. 経過報告

- 1 寺墓地関連、第一次造成工事について公団より説明
- ① 隣接地の文化財発掘工事の影響で、寺墓地造成工事が遅延しました。平成二年五月末に完了予定。
- ② 新墓地の石積み工事に、着手できる段階となりました。本移転に向けて、石積み計画を進めてください。

2 石積み計画について

- ① 寺墓地換地委員会 (第六回総会) 名称を改め、石積み委員会として組織を継続して担当する。
- ② 石積み委員会として、第一次造成工事中 (約一年間) 本日の総会、本移転へ向けての資料作成に取組みました。

二. 協議事項

- 1 石積み設計 (案) (資料1) 石材店との連携により随所に特色が生かされている。

- ① 設計図 (案) の説明、全施主とも統一する。

形、材質 (御影石)、三点セット (イ. 基礎二段積二尺五寸盛・ロ. カロート・ハ. 塔婆立) 墓地のサイズに合わせる。

- ② 区画ごと区割 (隣地との境) 背割一本で共用 (経費節減)
 - ③ 石積み代、一括発注 石材 (韓国産稲田御影) 価格低減
 - ④ 業者の指定、寺関連業者三社、世話人会で選定 (資料2)
- (有)早野石材店・(有)金井石材店・(有)石光 三社紹介



平成元年 大善寺墓地建設会計報告
(昭和64年1月1日～平成元年12月31日)

平成2年4月21日

収入の部		47,600,204円
内訳	繰越高	43,655,743円
	公団補償料	2,498,400円
	貯金利息	1,446,061円
支出の部		631,760円
内訳	墓石移転費	345,000円
	仮安置所管理費	120,000円
	通信費	23,000円
	会議費(12回分)	120,000円
	監事会費	23,760円
差引残高		46,968,444円
内訳	定期預金	45,000,000円
	普通預金	1,950,889円
	現金	17,555円

平成2年4月21日

会計監査報告

関係書類と対査し、計算その他相違ないことを証明します。

平成2年4月21日

会計監査 岩崎正武 ㊟
" 織茂繁男 ㊟

以上のとおり御報告致します。

大善寺世話人総代 栗原 勲
" 墓地建設会計 高橋 幸治
" " 栗原 靖
" " 飯塚 利夫

資料会計1 墓地建設会計報告 (第7回総会資料)

石積業者

◎有限会社早野石材店 代表取締役 浜畑 忠義
〒215 川崎市麻生区早野380 ☎044-987-3116

◎有限会社金井石材店 代表取締役 金井 正孝
〒223 横浜市港北区東山田町335 ☎045-591-0483

◎有限会社石光 代表取締役 河埜 光
〒223 横浜市港北区南山田町4810 ☎045-593-5060

住宅都市整備公団委託業者

◎住宅都市整備公団

総務補償部 補償課 係長 加藤 靖
〒227 横浜市緑区荏田北1丁目5-5 ☎045-943-7367

◎株式会社コーエーコンサルタント

補償担当 鈴木
〒227 横浜市緑区美しが丘5-13-5 ☎045-902-5563

委託業者が、本移転にともなう契約書等を、用意致します。

資料2 石積等業者 (第7回総会資料)

- ※一括発注、プール制導入により、経費の節減、基礎工事では、暗渠排水(墓地内・通路)が施工されています。
- ※設計図には、既に完成済の寺院内共同墓地、内墓(高橋・大嶋・織茂)三家の設計施工が特に参考になりました。
- 2 会計報告・監査報告(資料会計1)
- ①大善寺墓地建設会計報告(平成二年四月二十一日)会計係より報告された。仮移転完了までの報告で、プール制導入により、剰余金として、約四六九六万計上できました。
- ※寺墓施主の皆様「相互扶助精神」の賜物です。
- 3 寺墓石積予算(案)について(資料会計2)に基いて会計担当より提案された。
- A 収入の部
- ①石積経費徴収分 ②プール制による残金 ③本移転補償費を充当する。
- B 支出の部
- ①石積費用(各施主より徴収分)
- ②各施主への、補償料応分の返金(補償料区域内)
- イ. 墓地工作物 ロ. 寺受領分の1/2返金
- ③補償区域外施主への助成金として支出する。
- イ. 墓地改葬協力費
- ④その他、寺墓地外転出協力費として支出する。
- ※②③④支出項目については、プール制導入による剰余金が還元されている。
- ⑤墓石本移転費 一括発注で金井石材店担当する。



墓地区割及び価格表

サイズ	坪数	区割数	価 格
A	1.0	60区	400,000円
B	1.5	37区	520,000円
C	2.0	22区	580,000円
D	3.0	14区	740,000円
E	6.0	2区	920,000円
F	6.5	1区	1,000,000円
G	2.5	2区	630,000円
H	10.0	1区	2,080,000円

●総区割数=139区

MEMO

.....

.....

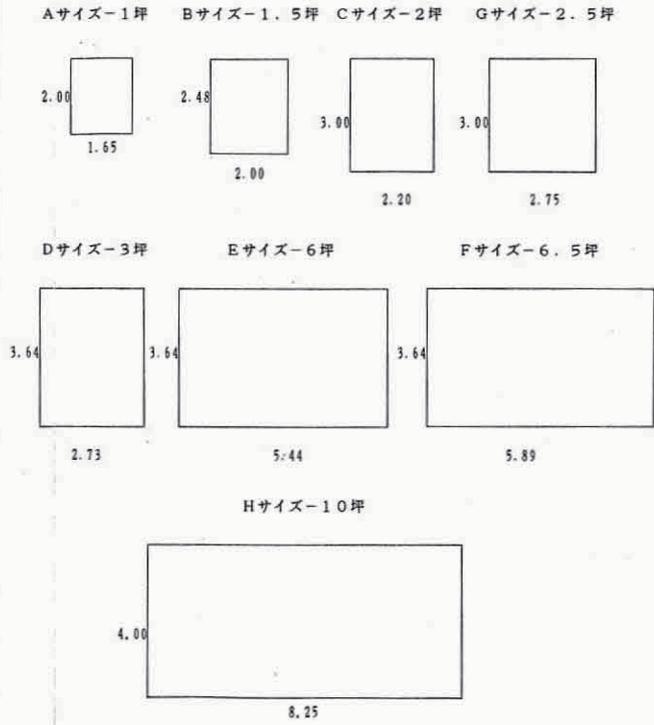
.....

.....

.....

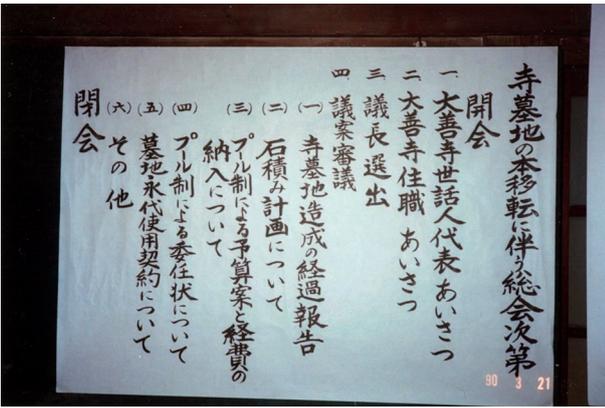
寺墓地サイズ

(単位:m)

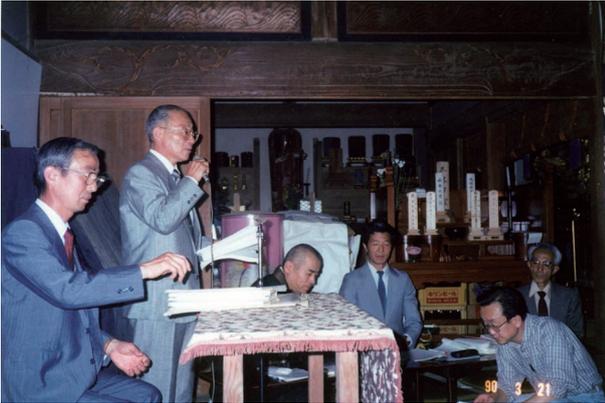


資料3 墓地区画及び価格表・寺墓地サイズ (第7回総会資料)

- ※仮移転時より高額。各施主墓への設置で経費加算となる。
- C 残金(予備費について 約一九八六万円計上)
- ① 寺墓地の本移転まで 起工式・竣工式・落慶式等の予算計上
- ② 新墓地の共用施設、設備品費としての予算計上
水舎、水道施設、焼却場、墓地案内看板、外灯、墓地への参道(舗装、植栽)階段、フェンス、駐車場等
- 4 石積費の納入について
- ① (宗) 大善寺 墓地石積経費納入について(案)(平成二年五月二十七日)案内(貴施主換地・清算書)に基づいて納入願いたい。
- ② 石積費より、プール制による還元金の差額分を、差引額が、石積代となります。確認してください。
- ③ 納入は、郵便局の郵便振替用紙にて、大善寺宛口座にお振込みください。平成二年七月末までに納入してください。
- 5 事務手続きについて、紙面の都合で項目に止めます。
- A 補償料の公団への委任状(承諾書) 大善寺を通して
- ① 旧寺墓よりの移転に伴う補償代金の受領に関する行為(大善寺を代理人に定める)
- ② 補償対象区域内施主へのお願
プール制による、本人受領分補償料の振込について
- B 大善寺宛
- ① 第七回総会の委任状(承諾書)は、本移転に関する取り決め事項の承諾書となる。出席者も提出。



第7回総会次第 (H 2.5.27)



住宅都市整備公団課長より挨拶と経過報告



第7回総会採決の様子 本移転に向け石積決定

大善寺 寺墓石積予算案

収入分	石積費徴収分	72,540,000円
	プール制残金(平成元年末)	46,968,444円
	本移転補償費	38,933,837円
	合計	158,442,281円

支出分	石積費用	72,540,000円
	工作物返還金	14,039,545円
	寺受領分のうち1/2返金	33,777,950円
	墓地改葬協力費	2,950,000円
	墓地石積補助金	5,775,000円
	寺墓地外へ転出協力費	1,500,000円
	墓石本移転費	8,000,000円
	合計	138,582,495円

残金分	19,859,786円
-----	-------------

残金分にて、墓地の起工式・竣工式・落慶式、水舎、焼却場、水道、外灯、墓地案内板等の諸経費にあて最終的残金については寺墓地の施主に返金するものとする。

以上のとおり予算案を提出します。

平成2年4月21日

大善寺世話人総代 栗原 勲
 “墓地建設会計 高橋 幸治
 “ “ 栗原 靖
 “ “ 飯塚 利夫

資料会計2 寺墓石積予算案 (第7回総会資料)

寺墓 墓地改葬

※A、Bとも、委任状は、住所・施主名・認印をお願いします。総会終了後集めます。欠席者は、公団委託会社(株)コーエーコンサルタントが訪問します。

6 議長 一括採決 賛成多数 成立

三. 今後の取組みについて

- 1 大善寺との約束ごと
 - ① 墓地永代使用契約
 - ② 墓地管理規則締結
- 2 今後のスケジュール 順調に進行するよう協力をお願いしたい。
- ① 起工式(平成二年六月三日) 決定
- 石積工事完了予定 平成二年九月末まで
- ② 竣工式(平成二年十月月上旬の予定)
- ③ 本移転(平成三年二月末)
- ④ 落慶式(平成三年五月頃)

※一日も早く、ご先祖を新墓地へ移したい。 閉会



大善寺裏より北方を望む

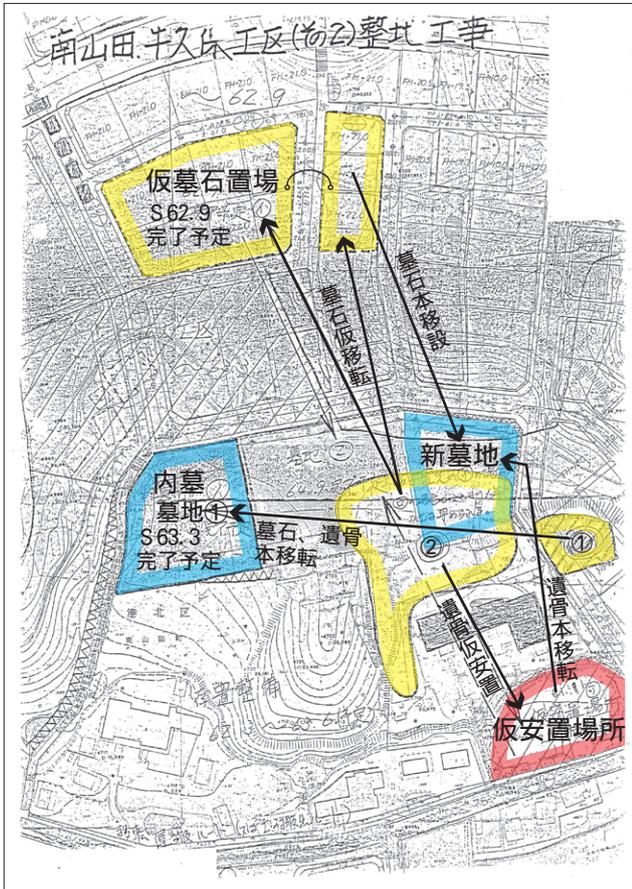


山田富士

墓石仮置場全景 (H1. 4. 15) 栗原武夫氏撮影



墓石の仮置場近景



墓石の仮置場の設置

墓石の仮置場の設置

① 墓石の仮置場として、南山田・牛久保工区内、第一造成地に約八〇〇坪の敷地を公団が確保。

② 墓石数は、一五二施主、八一八基で、(有)金井石材店に移転をお願いしました。仮置場は、通路(砂利敷)、排水等不備で、難題を抱えての移転作業でした。仮置場で約二年半、風雨に耐えていました。

③ 墓石は、閉眼式にて魂はなかったので、お参りは少なかつた。

※写真をご覧ください。

周辺は、砂漠地帯、防ぐい、防針金による防護柵で、心配されていた。しかし、この間事故の申し出なし。

※ご本尊、ご先祖のご加護のお陰でした。



重機を使って竹の根を崩したあと手掘りでかなり深くまで丁寧に掘り下げている

S63. 1. 24 撮影

遺骨の発掘では、隣接施主ごとの霊体数（土葬・火葬）を確認し合い、作業が進められた。土葬の発掘は難儀でした。

二一

寺墓
墓地改葬



遺骨の発掘作業開始
隣接施主立会い



発掘作業の様子
深さ2mも 遺骨の収集作業



旧墓地東は竹林の中
区画も不明確 竹の根困難の極み



遺骨との対面 ご先祖もびっくり
そして納棺、火葬場へ



寺墓東入口をやや入ったところより奥を見渡す

墓地の周辺は、竹林で、昼間でも薄暗い状況でした。お盆・秋の彼岸のお参りは「やぶ蚊」との戦いでした。蚊取り線香、フマキラー、思い出がありますね。

墓地の改葬作業は、墓地調査結果調書（S61.10.13）に基づいて、施主ごとに実施されました。

- 1. 墓石等の仮移転 墓石数・工作物確認後発掘する
- 2. 遺骨の発掘 霊体数（土葬、火葬）

二一

寺墓
墓地改葬



施主ごと墓石を移動前 数を確認 台車にて移動



施主ごと区画を杭テープで確定、遺骨発掘作業待機中



仮置場での重機による墓石等の安置作業の様子



墓石等台車にて仮置場へ移送中
この坂道記憶がありませんか



仮安置所 木造・平屋・プレハブ (S62. 8)



仮安置所建設中の様子 (S62. 8. 19)



ご本尊と焼香台



ご先祖様へのお参り 雨の中待っている (S63. 9)



納骨室の様子 三段で150室



仮安置所の位置

※この間、ご先祖に窮屈な思いをさせました。お盆、彼岸のお参りは混雑の極みでした。

④管理は、石川住職担当（鍵の授受）約二年半管理する。

③納骨堂、ご本尊安置、焼香台付、納骨棚三段式で一五〇

施主利用可能、納骨室は化粧布で仕切られている。

所でした。

建設工事（昭和六十二年八月着工）施工（山田小泉忠工務

所）設計（公団）、木造（平家）プレハブ・建坪十五坪、建

設費約六六〇万補償料より支出

②設計（公団）、木造（平家）プレハブ・建坪十五坪、建

設費約六六〇万補償料より支出

①仮設安置所（納骨堂）は、当初よりの予定敷地は、（宗

大善寺と二名の民有地でした。墓地改葬の為の仮安置所

（跡地駐車場）として、利用目的の主旨を理解していた

だけ、（宗）大善寺の土地と換地変更して頂きました。

仮移転の為の仮安置所

仮設安置所（納骨堂）の建設について（現駐車場）



地鎮祭待ってました



起工式への参列者 墓地平坦になりました



鍬入れ式 墓地がこれでできます



起工式を待つ参列者 遠くに墓石の仮置場が



施工業者 工事の安全を祈願



起工式終了 長いこと待ちました 一安心

寺墓の起工式（平成二年六月三日） 於新墓地造成地一画
 新設の寺墓の起工式（地鎮祭）が、寺墓施主、寺墓建設委員、
 施工石材店等、多数の出席のもと、仏式石川住職により行われ
 ました。
 第一次造成工事と隣接地の文化財の発掘作業の為、約二年程
 遅れの第二次造成工事、墓地本移転に向けての新墓地石積工事
 着手の儀式です。出席者一同「これで、新墓地に移れるんだ。」
 と安堵感の溢れた儀式でした。総会とは、大違いでした。
 第七回総会での石積みの設計図に基づいて、施工石材店に予
 定の平成二年十月竣工式が迎えらるることをお願いして閉会と
 なりました。



竣工墓を前に法要の様子 石積み3点セット



竣工法要参列者 来賓（公団、関連企業）、施主と世話人116名、石材店3名



ここが我が聖地 各施主、新墓地にお花とお線香を供える



寺墓石積み委員長挨拶 皆一緒に本移転できます



竣工を祝って乾杯 大願成就本堂にて



祝賀会の一コマ 長い道のりでした

寺墓の竣工式（平成二年十月七日）於 新墓地広場

墓地の石積み工事施工期間四か月、夏場の暑い中、突貫工事で、石材店に取組んで頂き、予定通り無事竣工式が開催されました。出席者は、来賓として市・公団・関連企業をはじめ、施工石材店と施主一〇四名、寺墓地建設委員会等一三〇名でした。（お手伝い他一名）

第一部、竣工法要（石川住職）は、お焼香（参列者）式途中、各施主換地された新墓地にお花・線香を供え、竣工を報告後式場にて竣工式閉会となりました。

第二部、本堂にて祝賀会が開催された。

新墓地、整然と区画され、形、石積み、石材も統一、陽当たり良好、東西向き、これまで、長き道のりでしたが、一日も早く、ご先祖をお迎えしたいと誓い合った一時でした。



除幕式を待つ記念碑



記念法要 石川住職 進行 連勝寺 哲彦上人



無縁塔（供養塔）の開眼式



浄土宗 港北組上人様方

二 --

寺墓 墓地改葬

大善寺開創四五〇年慶讃

墓地改葬記念法要（平成三年五月十一日）

記念すべき、待望の新墓地完成を祝う『落慶法要』が開催されました。港北NT開発事業に伴う、大善寺墓地改葬事業により、お陰様で近代的な墓地が完成しました。

これも、偏に、本日出席のご来賓の皆様のご指導、ご尽力と檀信徒のご理解、ご協力により成し遂げることができました。心より感謝申し上げます。

本日の出席者は、

来賓 七十七名（市・公団・寺院・町会・業者等）
檀信徒一七〇名 合計二四七名でした。

第一部 墓地改葬記念法要 午後二時より 於本堂・供養塔

浄土宗港北組の上人様により、厳かに執り行われました。

1. 歴代上人の開眼式
2. 供養塔の開眼式 行列（本堂く供養塔）献香、献花
3. 記念碑の除幕式 齊藤剛君と栗原杏子さんによる除幕

第二部 記念式典 午後二時四十分より本堂にて開催

1. 開式の辞 世話人 栗原武夫
2. 挨拶 住職 石川成弘 総代 栗原勲
3. 感謝状贈呈
 - ・(有)早野石材店殿・(有)金井石材店殿・(有)石匠石光殿
 - ・(株)緑葬儀社殿・(株)三橋緑化興業殿・(有)岨小泉忠工務所殿



来賓祝辞 都筑区連合町内会会長 金子保殿



記念式典 感謝状贈呈 企業6社へ



祝賀パーティー



祝賀パーティー



記念祝賀パーティー会場（仮設テント）

二一
寺墓
墓地改葬

4. 祝辞
- ・ 浄土宗神奈川教区 港北組長 桜井久運上人
 - ・ 中川地区仏教会 会長 八木良純上人
 - ・ 中川地区連合町内会 会長 金子保殿
 - ・ 港北NT建設事務所長 長沢毅殿
5. 謝辞 総代 大嶋珪治
6. 閉会の辞 世話人 高橋幸治
- 第三部 記念祝賀パーティー 午後四時から
- 境内の空地に、大型の仮設テント（二五〇名収容）
1. 開会の辞 世話人 栗原毅
2. 挨拶 総代 栗原貞夫
3. 来賓の祝辞
- ・ 南山田地区代表 審議員 高橋良雄殿
 - ・ 住宅都市整備公団港北開発局 総務補償部次長 石井義信殿
4. 鏡開き
- ・ 住宅都市整備公団代表、寺院代表、世話人代表
5. 乾杯 諏訪山観音寺総代 飯田恒雄殿
6. 閉会の辞 世話人 織茂孝雄
- 落慶式を終えて
- 五月晴れの吉日、皆様のご協力により、無事落慶法要が終了した事に、ご本尊様、ご先祖様も安堵されたことでしょう。また、当日は、世話人会、世話人の奥様方にも、ご尽力をいただきました。厚くお礼申し上げます。



大善寺墓地改修事業 課題への取り組み

大善寺墓地建設委員会 相談役

元第一地区土地区画整理審議会委員 高橋 良雄



広域に亘る大善寺周辺及び寺墓地の改修は、大事業で、世話人会に檀家内より、三名の協力者を加え、「墓地建設委員会」が組織されました。私も一員として、様々な課題に取り組んで来ました。その主な取り組み事項三点を記述します。

1 墓地の改葬事業では、当初、公団は「墓地の改葬は、全て補償料で賄う」との約束が、造成工事計画書作成の時点で、突如、本堂裏（旧墓地東）の一部が、補償区画外（補償料無し）と告げられた。等区域は、墓地の密集地で墓地改葬が一番必要とされていた区域で、この救済方策が最大の課題でした。

世話人会の発案による、大善寺独自の方策「プール制の導入」により、みごと、全施主個人負担金なしで、仮移転、本移転を経て、新設の竣工墓地に、遺骨を納めることができました。

この取り組みは、賞賛に値する「快挙」と申し上げたい。補償区域外解消への取り組みは、三名の委員が公団との交渉窓口となり、あらゆる組織を動員して、補償区域拡大に努めました。全体構想の見直し、設計図変更等、要望してきました。

2 仮安置所（現駐車場）用地の確保も課題で、予定地が、（宗）大善寺他二名の私有地でした。墓地改葬作業上（仮移転）、仮安置所の敷地として、又、跡地を駐車場として、必要不可欠な用地である事を理解して頂きました。（宗）大善寺の土地を換地変更賛同を頂き、まことに有難うございました。

3 大善寺の境内地は、特に（寺墓、内墓、他宗派墓）を含め広大で、周辺住民の換地計画作成上課題がありました。厳しい意見が多々ありました。墓地周辺の換地を、栗原様方に引き受けて頂き、お陰で、子孫に誇れる立派な墓地が完成しました。



光明山 大善寺開創四五〇年慶讃 墓地改葬記念 平成三年五月十一日

大善寺世話人と記念碑除幕式立会人



光明山 大善寺開創四五〇年慶讃 墓地改葬記念 平成三年五月十一日

大善寺世話人会女性部



総代栗原勲 挨拶



第8回総会の様子

大善寺墓地建設会計報告 資料1
昭和62年7月20日～平成5年6月30日

収入の部	148,925,093円	
内訳		
住宅都市整備公団より補償費	石積費徴収分	28,917,468
仮移転分 63,671,100	落慶式会費	2,020,000
本移転分 39,156,686	祝金	455,000
納骨堂建設費 6,616,900	受取利息	4,895,939
管理費分 3,132,000		
閉眼式御布施 60,000		
支出の部	148,925,093円	
内訳		
改葬費 12,000,000	工作物返還金	10,600,184
納骨堂建設費 6,616,900	階段手摺建設費	690,000
協力対策費 4,050,000	落慶式費用	5,721,508
閉眼式費用 787,180	仮安置所管理費	240,000
墓石移転費(仮) 2,900,000	墓地外周フェンス	1,485,054
"(本) 8,378,412	墓地名前表示板制作費	100,000
墓地石積費 72,540,824	税務事務費	50,000
弔祭費 2,950,000	会議費	871,028
竣工式費用 907,493	事務費	395,307
墓地外灯建設費 2,758,390	墓地見学会費	69,500
墓地水屋建設費 5,496,637	通信費	23,000
焼却器建設費 1,166,395	総会費	147,435
参道植栽費 4,635,618	排水溝建設費	376,328
無縁塔建設費 2,967,900		
差引残高	0円	

以上の通りご報告いたします。
平成5年7月18日
大善寺 世話人 総代 栗原勲 印
" 墓地建設会計 高橋幸治 印
" " 栗原靖 印
" " 飯塚利夫 印
監査の結果正確適正と認めます。
平成5年7月18日
大善寺墓地建設会計監査 岩崎正武 印
" 織茂忠雄 印

- 2 -

第8回総会 会計報告

第八回総会 (平成五年七月十八日)

会計報告会

全檀信徒対象 (総数二〇六名)

出席者九十七名 委任状三十九名

議事 議長選出

一. 経過報告

1 昭和五十四年より取り組んで来ましたが、大善寺墓地改葬事業兼境内地の整備事業も、完了の時を迎えました。約十五年に亘る大事業でした。

2 檀信徒の皆様の理解と協力(プール制の導入)と、墓地建設委員会、世話人の尽力により、夢のような寺院となりました。これも、横浜市、住宅都市整備公団、地元の皆様による港北ニュータウン事業のお陰です。

3 お陰様で、大善寺墓地改葬工事完了、

① 会計報告

② 立派になった大善寺の、今後の維持管理の為の約束ごとを決める総会となりました。

二. 協議事項

1 大善寺墓地改葬費会計報告 会計 高橋幸治

① プール制の導入により、全施主の墓地、新墓地に移設
② プール制の導入により、余剰金で、共有する施設の整備
ができました。詳細は報告書の通りです。施設は写真で紹介いたします。

2 監査報告 大善寺墓地建設会計監査、岩崎正武により報告

監査の結果、正確、適正と認める。

※採決 賛成 成立する。



三.

1 大善寺墓地管理規則Ⅱ別冊配布済（本文省きました）

① 大善寺「寺墓」施主管理規則

② 大善寺「内墓」施主管理規則

③ 入檀誓約書について、墓地永代使用契約について

④ 檀信徒名簿の提出について

2 大善寺管理費等の納入について（現護寺費）

① 管理費とは、寺の事務管理費並びに境内地等の施設維持管理、環境整備の為の管理費等で、全檀信徒応分の負担

② 寺墓地檀家は、基本料+ α

・基本料 電気・水道・修繕費、境内地（植栽・除草）

事務費（通信費・会議費）

・+ α 参道・寺墓周辺の除草・植栽・水道・外灯等

③ 内墓檀家・信徒は基本料だけ負担する

3 付届けについて

① 旧来のご本尊へ米代・月牌・年始・歳暮・灯明料・花代等、現金にて一本化し、全檀信徒応分の負担

4 供養料について

① 寺の定期法要・特別法要に参詣して、応分の志納金（お布施）です。定期法要―修正会（一月）施餓鬼会（八月）

十夜法要（十一月）を三大行事とする。

② 準行事 彼岸会・花祭り・御忌

5 集金方法 規定納入袋（管理料・付届）

① 毎年、修正会（元旦）の時、規定の納入袋にて、（管理費+付届）納入する。欠席の時は、三月彼岸までに、寺に届ける。

② 平成五年度は、施餓鬼会（八月）に納入、欠席の時は、九月彼岸までに寺に届ける。

6 管理料は面積割とする

7 大善寺年間行事表

① 三大行事の他は、準行事とする。参加は任意とする。

※採決 三. 1〜7まで一括採決、成立。

四. 今後の進め方Ⅱ意見交換会

1 墓地の分譲について

① 檀家を増やす。（現在二〇六名、四〇〇名はほしい）

② 分譲料（永代料）で会館（齋場）を造ってほしい。

③ 葬儀・法事

2 行事の充実

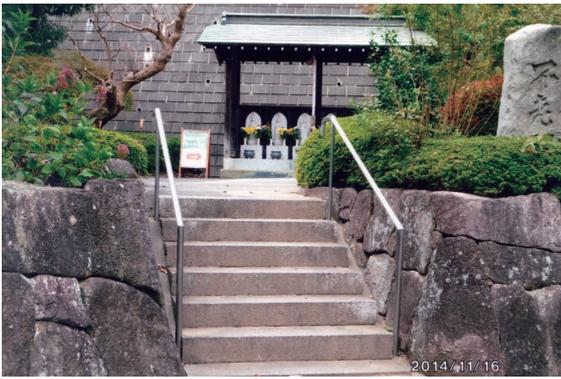
① 寺は立派になった。施設は整った。ご本尊、ご先祖へのお墓参りをお願いしたい。

② 墓地づくりで、出費多かった。負担を少なくしてほしい。



五. プール制の導入による施設紹介
プール制の導入による余剰金(約一九三三万円)にて、設置された施設を写真にて紹介します。

墓地の環境整備(緑化・防犯)と、施主さん方墓参のための施設です。



墓地参道の石段 H26.11 撮影



外灯(防犯・墓地用) H26.11 撮影



無縁塔(観音像・納骨堂) H3.5 撮影



墓地参道(舗装・植栽) H26.11 撮影



墓地用水屋(水道・手桶棚 兼 休憩所)



墓地案内版(ステンレス製) H3.5 撮影



墓地外周フェンス(北入口扉、防犯用)



焼却炉(2基) 当時は現駐車場と墓地入口に設置



寺境内地周辺の第一次造成工事 S62 頃撮影



大善寺周辺の造成工事 後方は中川中学校 H2.7 撮影
(写真集港北ニュータウンむかし・いま、そして未来へ・・・より)



寺墓 新墓地への本移転完了直前 (栗原武夫氏撮影 H3.2.21) 3月完了予定

二 - 一

寺墓 墓地改葬

あとがき

寺墓・内墓の墓地改葬は、共に長い道程^{みちのり}でした。諸々の課題を克服して、揃って、豊かな環境、近代的な新墓地に本移転する事ができました。心よりお喜びを申し上げます。最後のまとめとして、三枚の写真を掲載しました。

1 寺境内地周辺の第一次造成工事の様子

2 寺墓 墓石仮移転中の周辺の様子

3 寺墓 本移転完了直前と周辺の様子 左手に内墓完成

三枚の写真を見ると、寺墓を含め、周辺の第一次造成工事は想像を絶する土木工事(切土)が、基盤にあった事を忘れる事はできません。市・公団・諸企業の設計施工に感謝いたします。又、周辺は、第一次造成工事半ばなのに、先行して墓地だけが、本移転できた事は、墓地建設委員会のご努力に改めて感謝申し上げます。この改葬事業を通じ、各施主の皆様の「ご本尊、ご先祖」を祀り、敬う心が培われたと思われれます。

補償料の「有無」に拘らず、皆揃って本移転した「相互扶助II絆」ができた事は、これ以上の尊い体験談は、例がありません。大善寺檀信徒の子々孫々に受継いで頂きたいと思えます。記念誌作成に際して

1 墓地改葬委員六名で担当 客員(協力者) 吉野直之氏含む

2 改葬事業取組み前半(S54く60頃)は、コピー、パソコン

の普及もない時代で、その頃の資料収集に苦慮しました。

3 写真の収集では、当時の習慣で「死人、墓などへ」忌み嫌う

習慣で、写真の収集に苦慮しました。寺墓上段は皆無でした。

4 記念誌作成に当って多勢の方の協力を頂きました。記念誌

の巻末に、参考資料として掲載しました。参照願いたい。



資料/ 改葬前の旧寺墓地「西」上段・下段

(本堂西側) (鐘楼近く)

郷土史家 吉野 直之

昭和56年(1981)5月に日本住宅公団によって作成された「大善寺墓地実測図」(青図 寸法;縦805×横1005mm)には墓地の所有者として下記のかたがたのご芳名が記載されています。(本文P100～102 ご参照)

「西」上段 奥より (敬称略)

栗原昌治 栗原龍作 栗原ミネ 栗原芳郎 大嶋珪治 栗原毅 栗原美代子
栗原義男 植田盛義 岩崎ユキ 長谷川長次郎 斉藤忠雄 計12家

「西」下段 北側より

大善寺 石川成弘 小池三也 六地藏 栗原龍作 計5家(区画)

「上段」と重複する栗原龍作家の墓地は、元は上段にあったが戦後の伊勢湾台風で墓地が崩落したため下段に新造したもの

旧寺墓地「西」の歴史に関連しましては、当時横浜市埋蔵文化財センターに在職し調査にあられた坂本彰先生の業績を忘れることはできません。

先生は1987年1月から1988年12月まで南山田町旧5128・5129番地の 西ノ谷(にしやと)遺跡を発掘調査され①11～13世紀(平安～鎌倉時代)に武具等を製作していた鍛冶屋敷の遺構 ②17世紀前半(江戸時代初期)に成立した近世農家＝「オミネ屋敷」(西谷(にしやと)栗原家の総本家、1918～19年ごろ廃絶)の遺構 を明確にされました。

②に関連して大善寺 旧寺墓地「西」を調査され、関係古老から話を聞かれ調査報告書をまとめられました。以下、関係箇所を抜粋させていただきます。(横浜市ふるさと歴史財団 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告23「西ノ谷遺跡」1997. 3. 31発行)

「この墓地は本堂西側の急斜面を切り崩した、南北幅30m・東西幅7mの平坦面にある。入口は平坦面の北端に位置し、山側に栗原・大嶋・植田・長谷川姓の6家、本堂側に栗原姓の3家が向かい合って並んでいる。オミネ屋敷の墓地は山側南寄りに位置するが、大嶋家以北の3家は比較的新しいものである。(中略)以上のことから この墓地は栗原各家・大嶋家を中心として営まれていたことが明らかである。」「本墓地の改葬は1987年11月5日に行なわれ、オミネ及び大嶋家墓地内から素焼き蔵骨器類が出土した。(以下割愛)」(P132～133)

坂本先生の業績は請われて簡潔に碑文としてまとめられ、オミネ屋敷の土地を受け継いだ 分家の栗原毅氏(家号;ダイモンサキ)により 大善寺新墓地内に碑が建立されました(1990年12月27日付)。

移転前の墓石の写真と並び順の平面図は 1980年に駒沢大学学生有志によって記録され、「西」上段141点(墓石番号467～607)、「西」下段 38点(墓石番号608～645)が確認されています。坂本先生も示唆されておられますが、当時 墓石を建立する際はその並び順にも意味・秩序が存在したはずで、銘文はその家のご先祖の生きた証であり、歴史をものがたる文化財であるといっても過言ではありません。

付記; 本書編集時点で坂本先生から「オミネ屋敷」近くより1977年頃出土した板碑(いたび)4点に注目してはどうかのご教示をいただきました(報告書P133、図版79)。

大善寺の近くには「14世紀後半～15世紀前半」の墓地が存在したのです。改めて坂本先生に感謝申し上げます。



資料/ 改葬前の旧寺墓地;「東」

郷土史家 吉野 直之

昭和56年5月作成「大善寺墓地実測図」に下記のかたがたのご芳名が記載されています。
50音順。敬称略。(本文P100～102 ご参照)

ア行

飯塚金蔵 飯塚小四郎 飯塚利夫 飯塚秀夫 飯塚正吉 市川利助 今西幸作
今西初太郎(2区画) 今西与一 岩崎章 岩崎勲 岩崎浦吉 岩崎隆夫 岩崎千春
漆原邦造 漆原豊二 織茂一良 織茂一雄 織茂菊男 織茂清 織茂繁男
織茂正三 織茂孝雄 織茂武雄 織茂忠雄 織茂伝蔵 織茂富雄 織茂英夫
織茂政好 織茂保正 織茂米作 織茂良造

カ行

栗原キク 栗原新作 栗原充 栗原義男

サ行

斉藤浅吉 斉藤イト子 斉藤喜作 斉藤義一 斉藤興治 斉藤昇 斉藤美代子
斉藤義秋

タ行

高橋幸治 高橋清吉 高橋ロク・治作

マ行

宮本康次・加藤ハル 宮本正美

ヤ行

吉浜梅吉

計53家(54区画))。他に、「無縁」2区画、「空白」3区画がありました。

移転前の墓石の写真と墓地の平面図は1980年に記録され、墓石数466件、473点が確認されています(墓石番号1～466)。

旧寺墓地「東」は 広さは旧寺墓地「西」の約2倍ありましたが、墓石の数は「西」の2.64倍で、いかに新、旧の墓石が密集していたかは当時の写真でうかがい知ることができます。本文26ページに「(実態調査で「東」は)困難の極み」と述べられていますが、当時の関係各位のご苦勞、ご努力は並々ならぬものがあつたと思います。

歴史につきましては、文政12年(1829)に筆写された「武州都築郡山田村由緒記」には 上記 墓地所有各家の内、「斉藤」、「高橋」、「岩崎」、「織茂」が 村内の主だった氏族の一部として所収されています。

旧寺墓地「西」が 西谷(にしやと)栗原家と大嶋家によって営まれた歴史があるように、旧寺墓地「東」は 斉藤家、高橋家、岩崎家、織茂家 等 が主導して17世紀前半(江戸時代初期)から墓地を営み、栗原家、大嶋家と共に 浄土宗の寺として中興された大善寺を盛り立てていったと考えられます。

(『織茂家の歴史』 墓石銘文解説;岩崎家・織茂家〔1988年〕)



資料/ 改葬前の旧寺墓地;「上段」

郷土史家 吉野 直之

昭和56年5月作成「大善寺墓地実測図」に下記のかたがたのご芳名が記載されています。

50音順、敬称略。(本文 P100 ~ 102 ご参照)

ア行

青木亀吉 飯塚一夫 飯塚高夫 飯塚直孝 飯塚浜吉 飯塚洋勝 五十嵐シズ
池田幸蔵 市川かつ 伊東義和 岩崎太次郎 岩崎寿雄 岩崎将夫 内山勝也
漆原十一 太田繁郎 岡安勝 織茂金作 織茂邦子 織茂静枝 織茂政一
織茂政雄 織茂光晴 織茂雄二 織茂領

カ行

木下喜一 木下幸次郎 木下保一 木村秀夫 久保田正嗣 倉島文雄 黒川茂
栗原賢治 小坂政吉

サ行

斉藤喜美雄 斉藤興治 斉藤しず 斉藤正二 斉藤フミ 斉藤政男 佐藤政男 佐藤満

タ行

高橋啓一 高橋治作 高橋春吉 竹沢隆一

ナ行

野端利治

ハ行

半田和夫 平間ミヨ 深川太一 堀満美

マ行

松根慶一 三浦コイ 三石高一 三田村秀夫 水落リヨ 宮田金光 宮本康次 村上マキ

ヤ行

吉浜やま

計60家。他に、昭和54年(1979)に先行移転した5家(7区画)が存在しました。

旧寺墓地「上段」につきましては当時の資料・写真を編集時点では みつけることができませんでした。しかし当時の分譲のいきさつをご存知の織茂 領様(大正12年生91歳)と奥様の千恵様(昭和2年生87歳)から具体的な お話をうかがうことができました。墓地の概要が把握できる貴重な証言です。以下、ご夫妻の談話を所収させていただきます。

『旧寺墓地「上段」(旧5037番地山林の一部を使用;編者註)は 分家の人、よその地域から移り住んできた人の求めに応じて 前住職石川成弘様の父順岡(じゅんけい)上人が分譲を始めた。

「織茂 領」名義墓地購入のいきさつは、千恵の母 辻ステ(昭和48年没)が、順岡上人と懇意だった織茂菊太郎(昭和50年没、織茂 領父、千恵義父)の紹介で、上人から買った。千恵の母辻ステは福岡県横瀬村の出身で そちらの同じ浄土宗の寺に先祖からの墓地があったが、墓をみたり、遠方のため自分も詣でられないので墓じまいし分骨して、大善寺に移し娘夫婦に供養してもらうことにした。

墓石は山梨県の石屋さんから、同じころ織茂 領父菊太郎が下の墓地(旧寺墓地「東」の東側奥;編者註)に新たに墓石を建てる機会と一緒に、同様の大谷石を取りよせて建てたと聞いている。墓石には辻ステの夫源治(昭和18年没)とステの息子隆司(昭和40年没、千恵の弟)の戒名が同時にきざまれていたと記憶しているので、当時の書類はないが、買った時期は昭和40年より前と推定できる。

そのころの分譲墓周囲の様子は 登り通路をはさんで西側はすでに分譲済みで墓石が立ち並んでいたが、ステの買った東側はまだ空きがあった。東側の分譲墓を最後のほうに買ったのは織茂和夫(菊太郎孫、正三次男)で(昭和58年購入)、分譲は求めに応じて昭和58年12月の「墓地全体計画」(第三回総会;編者註)の直前まで行われていたようだ。』(2014年12月24日談話)

二一・内墓 墓地改葬

大善寺 うちぼか 内墓改葬の経過





経過年表

西暦	元号	年	月	日	主要事項
1979	昭和	54	7	14	大嶋家内墓閉眼式：墓地移動・発掘・納棺・火葬（先行移転）
1981		56	7	28	大嶋家閉眼式：大善寺内仮墓地に墓石を移動し納骨
1982		57	3	20	内墓施主総会（於北山田町公民館）：織茂家・高橋家の大善寺への仮移転決定
1983		58	2	13	織茂家・高橋家の仮移転・安置につき公団の説明会開催
1987	平成	62	11	26	内墓移転は先行工事とすることに決定 大善寺敷地内に仮安置所を設置
1988		63	10	9	織茂家改葬 大善寺敷地内仮安置所へ移す
1989		64	6	27	高橋家改葬 大善寺敷地内仮安置所へ移す
1990		65	1	27	公団の報告会開かれる
2014		68	7	6	内墓施主総会：各施主の公団への要望をまとめる：造成工事の促進、通路 排水 入口等について
					工事説明会（岩倉組土建㈱より）、文化財西ノ谷遺跡発掘調査のため工事が遅れる
					墓地見学会 正覚寺・長徳寺・川崎市民霊園へ
					暗渠排水、水道工事おこなわれる
					内墓施主総会（於大善寺、施主参加）：石積みの設計・施工業者を（早野石材とし、契約する
					石積起工式
					石積完成（工期四か月）
					石積竣工式及び祝賀会ひらかれる
					本移転完了、墓石を12月末までに移す
					開眼式 各自遺骨を納骨 法要を営む
					大清掃 記念写真（竣工25周年）

どうして内墓が、大善寺の境内地に

1 港北ニュータウン（以下港北NT）開発事業、墓地移転計画により、地域内に散在する墳墓地、内墓三家（大嶋・織茂・高橋）と漆原家（他宗派、南山田町）が、大善寺へ移転する事となりました。該当する各々の内墓、大善寺を含む、広域に亘る隣接地の第一次造成工事の遅延により、大善寺に仮移転する事になりました。（漆原家は除く）

2 受皿となる大善寺も同時進行で、境内地の造成、墓地改葬の事業計画があり、内墓、寺墓とも錯綜した事業展開となり「大善寺墓地建設委員会、大善寺世話人会、内墓代表世話人」の方々の多大なご苦労がありました。

3 内墓が、先行して墓地改葬事業に取り組んだ経緯があり、先導役を努める事となり、大善寺の造成工事の促進・墓地改葬への対応（仮・本移転・補償料・換地・石積み計画等）ノウハウを提供・連携し協力し進めて来た関連で、記念誌に掲載する事となりました。

4 縁あって、内墓三家、菩提寺大善寺へ墓地を移転する事ができ、心より感謝しております。お陰様で、人里離れた静寂な日陰の墓地より、陽光豊か、高台で、賑いだ（共同墓地）新墓地に、ご先祖と墓石を祀る事ができました。各施主、心を一つにして、理想の墓地を造りました。



内墓墓地改葬の経緯

第一回施主総会（昭和五十六年五月七日）於北山田町公民館
住宅都市整備公団（以下公団）よりの説明会が開催されました。内墓の出席者は十六名でした。

1 公団よりの説明

①各工事地区（第一次造成工事）先行工事のため、先行して、大善寺へ墓地を移してほしい。

②既に、大善寺の第一回檀信徒総会（昭和五十五年十二月十三日）に、受皿としてお願いしました。

③墓地は、寺境内墓地、西側最上段高台を予定しています。

④墓地の改葬費（仮・本移転）は、補償料で賄う。

⑤換地は、基準地積（墳墓地）を換地します。減歩なし。

2 大善寺への移転 質問、要望、賛否を伺いたい。（要約）

①換地、登記簿は共有名義となっている。

※換地面積は、一家うちで決めてほしい。一括して換地します。

②新墓地への要望

・駐車場と入口を北側にセットしてほしい。水道設備

・排水工事（地盤が悪い）暗渠排水？※設計に配慮する

③仮移転・直接移転となるのか

※大善寺の第一造成の進行次第？

現状として仮移転は、やむを得ないが、工事の促進を公団へ要請する

3 大嶋家（五施主）は、既に大善寺仮墓地（南側最上段）へ移転済み（昭和五十四年七月）先行しての第一造成工事への協力のため

大善寺への移転

1 内墓の移転 公団よりの要請（昭和五十六年十一月二十日）

①織茂・高橋家仮移転してほしい。（寺世話人兼内墓）

各地区先行しての第一造成工事進行の為のお願いです。

代案として

②遺骨は大善寺の本堂へ（納骨段へ）墓石は寺の仮置場へ。

③内墓三家、相談窓口として、代表者を選出してほしい。

④代表世話人選出する（六名）

大嶋家 ◎大嶋珪治 ○織茂米作

織茂家 ◎織茂力雄 ○織茂忠雄

高橋家 ◎高橋幸治 ○高橋武雄

2 内墓三家代表世話人会・於榎山田富士組事務所

公団との話し合い二回開催（昭和五十七年三月三十日と四月十四日）

①北山田 南山田地区第一次造成工事 緊急を要する為、直接移転は不可能。仮移転してほしい。理由は大善寺の第一造成工事見通しがつかないためです。

※②織茂家・高橋家各々施主会を開催、仮移転を承諾する。

3 第一回施主総会要望への解答（公団より）

①北側道路より入口は確保する。

②緑地（隣接地の環境保全）確保する。公団負担

③水道引込み 仮設で蛇口流し台設置公団負担

④排水万全に 通路、墓地内に暗渠排水工事（二次造成工事）

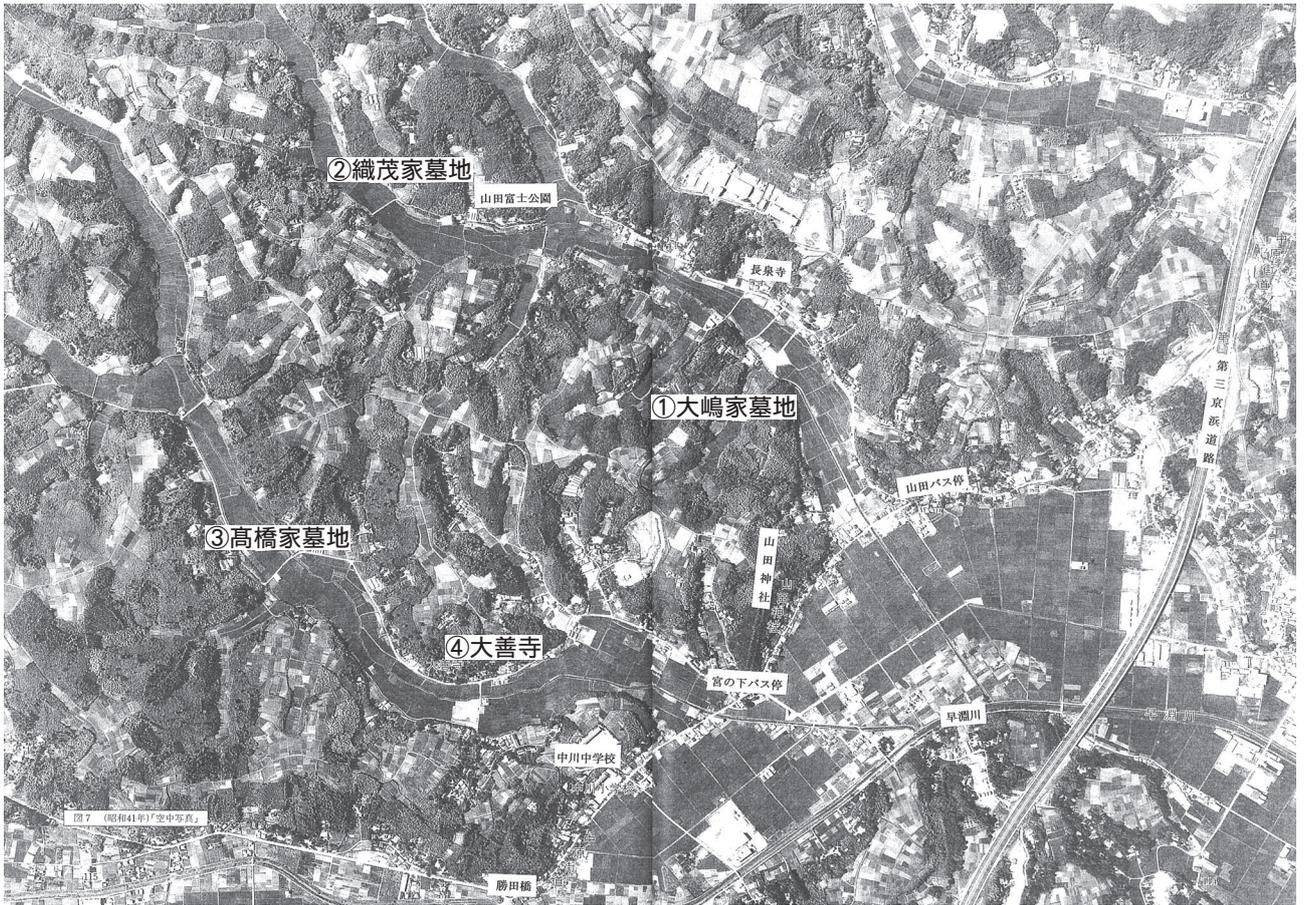
4 今後の予定

①内墓の予定地（第一次造成地）先行工事遅れる。

②内墓施主への報告会開催したい。公団より要請あり。

③内墓の予定地（第一次造成地）先行工事遅れる。

④内墓施主への報告会開催したい。公団より要請あり。



S41年 航空写真

内墓の仮移転

内墓三家（大嶋・織茂・高橋）は、大善寺の直接移転を前提に、大善寺墓地改葬事業と連携して、造成工事促進に取り組んで来ました。

大善寺を含む、第一造成工事は、広域に亘る為遅延、仮移転する事となりました。

一・大嶋家の移転について

1 大嶋家（五施主）の墳墓地（北山田町、寺窪）は先陣を切つての南山田先行第一次造成区域の為、異例の措置として、大善寺に仮墓地を新設（寺墓地西側最上段）直接移転（昭和五十四年七月）しました。要因は、当時は、まだ大善寺の受入体制以前の事で、特別措置でした。結果、寺墓地の改葬と重複（二度）体験しました。

2 墓地改葬の手順 寺墓第五回総会資料にて 省略

① 閉眼式（昭和五十四年七月十四日）を行い、墓石を移し、遺骨を発掘、納棺、火葬場へ、骨壺に納める。

② 開眼式（昭和五十四年七月二十五日）

大善寺内の仮墓地に、各々墓石を移し、大善寺住職の開眼法要により納骨しました。

写真（S41年航空写真）

- ① 大嶋家墓地（北山田町）
- ② 織茂家墓地（北山田町）
- ③ 高橋家墓地（南山田町）
- ④ 大善寺（南山田町）



S61. 10. 3

織茂家・高橋家 大善寺へ仮移転 納骨堂（青屋根）墓石置場第一造成（未着工）

二・織茂家・高橋家の仮移転について

大善寺を含めての第一次造成工事が進まず、ひとまず、受皿となる大善寺の境内地に、仮安置所と墓石の仮置場を急遽設置対応する事となりました。設置場所は、先々、又造成予定地の庫裡東側上段（仮駐車場跡地）に仮移転する事となりました。

① 仮安置所 プレハブ（平家）六坪（二間×三間）
納骨棚に化粧布にて納骨室をセット遺骨を納める。

② 墓石は並設の仮置場に施主ごとに安置する。

織茂家の仮移転（昭和五十八年二月十三日）

織茂家（八施主）の墳墓地（北山田町）と東山田町（一施主）合わせて九施主の閉眼法要を大善寺住職により執り行いました。

① 墓石を移動し、墓地改葬掘り、火葬場にて、遺骨を茶毘に伏し、骨壺に納め、仮安置所（納骨室）に各々納めました。

② 織茂家の資料によると、墓石数は八施主で六十九墓石、古いものは、延宝二年没（一六七四年）とあり、三四〇年程前より使用されていた事になります。

高橋家の仮移転（昭和五十八年四月二十四日）

高橋家（十施主）の墳墓地（南山田町 請地）の閉眼法要織茂家に準じて行われました。改葬に祝日の関係で、十日間を要したとのこと。墓石を移動、遺骨を茶毘に伏し、骨壺を納骨堂へ。

近年まで、土葬で、墓地の土質にもよりますが、肉親の遺骨との対面、施主にとって稀々な体験でした。ご先祖に窮屈な思いをさせます。一日も早い本移転を願っています。



第二回施主総会（昭和五十八年十一月二十六日）

於 北山田町公民館

1 経過報告 内墓施主要望への報告がありました。

- ① 北側道路よりの入口確保する② 緑地は確保する③ 水道の引き込み公団で（蛇口流し台）④ 排水（暗渠排水一次造成後）

2 内墓墓地造成の促進

造成の見通しつかない。本移転を見通して、換地、石積みの計画を進めてほしい。

3 内墓の換地計画について

- ① 基準地積に基いて施主ごとに確認、換地名簿を作成して下さい。

- ② 増換地等は、内墓施主内で行う。寺墓地使用者は返却する。

- ③ 換地図（全体）公団で作成する。

※公団に依頼する。総枠内の中で、個人対応とする。

4 墓地造成上のきまり

- ① 寺墓地との関連もある。緑地、植栽、通路のサイズ等

- ② 内墓は、先行して取り組む事としたい。

- ③ 石積み・区画・高さ・入口・石材・経費（個人負担） 通路・植栽（樹種） 業者の選定等について、研究する。

5 今後の取り組み

- ① 各施主の基準地積を決定し、換地図を公団に依頼する。

- ② 換地図に基いて、石積計画を企てる。石積みは自己負担となる。出費を考えた上で決める。

※本移転の見通しは未定 内部の準備を進める事を約束し終了となりました。

工事の説明会開催（昭和六十二年十二月二十二日）

於 南山田公民館

大善寺を含め、広域に亘る周辺の第一次造成工事の見通しがつき、港北区第一地区南山田五工区整地工事が発注されることになり、地元町内会対象に説明会が開催されました。

大善寺をはじめ（寺墓・内墓）関連する漆原家（南山田町）も出席されました。

① 大善寺関連（昭和六十三年七月二十二日～十二月十八日）完了予定と発表されました。※地元はもとより、大善寺組織ぐるみの造成工事促進の努力の結果です。有難うございました。

② 早速、新墓地の建設（昭和六十三年年度中）に向けて、換地計画、石積み計画に取り組む事となりました。

文化財発掘調査はじまる。

遺跡名は、西ノ谷遺跡で西ノ上地区（南山田町五一二八～五一二九）で大善寺境内地、内墓墓地予定地に隣接する「オミネ屋敷墓地」と称され発掘調査です。

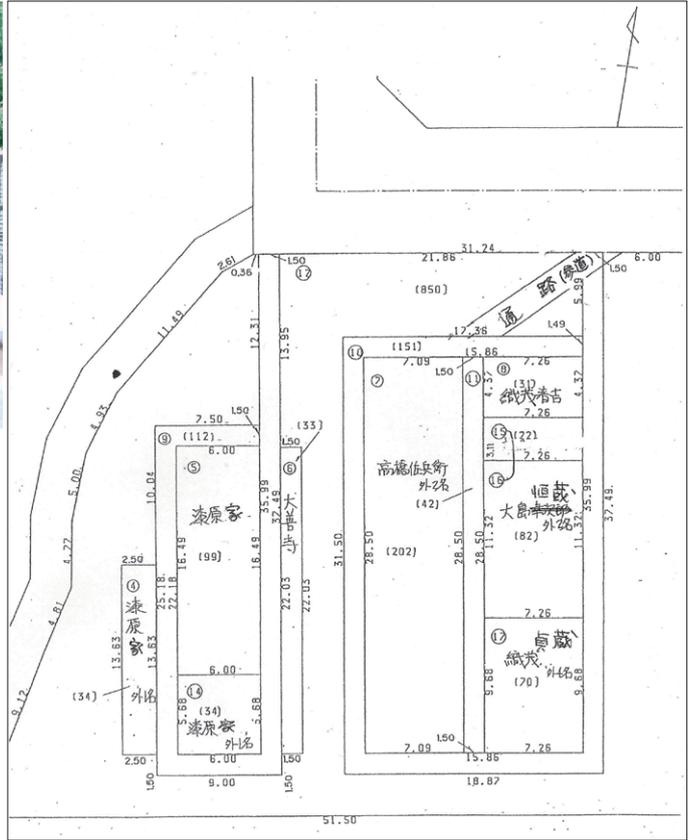
① 調査期間は（昭和六十二年一月～六十三年十二月）二年の予定

② 文化財（平安～鎌倉時代）として貴重な遺跡で、大善寺としても深い関わりがある遺跡です。（寺墓巻末の資料参照）

③ この間、内墓は、新設墓地の石積計画に専念する事にしました。



1. 手桶棚（アルミ製）（H1.12）祝竣工
内墓の手水舎
2. 建物（H4.9. 寄贈）
大嶋珪治
3. 流し台（御影石）（H4.9 寄贈）
故大嶋徳次郎



資料1 内墓換地図（従前地積）

二 - 二

内墓
墓地改葬

墓地づくり

内墓換地への取り組み

大善寺を含む広域に亘る、第一次造成工事が、地元、南山田公民館での工事説明会で、着工する事が発表されました。

早速、本移転となる新墓地の、第二次造成工事に、即対応する準備（①換地、②石積みの設計、予算等）をする事になりました。これからは、自己負担、自己責任の取り組みで内墓代表者のご苦労が、より以上ありました。

一・公団よりの換地図 資料1

①従前地の登記簿（墳墓地）によると、名義が、（個人・共有）記載されている。面積（地積）は、基準地積で換地されている。

②換地面積は、減歩する事なく換地（換地図の通り）大枠で二区画、①大嶋家・織茂家 ②高橋家とに分けて換地

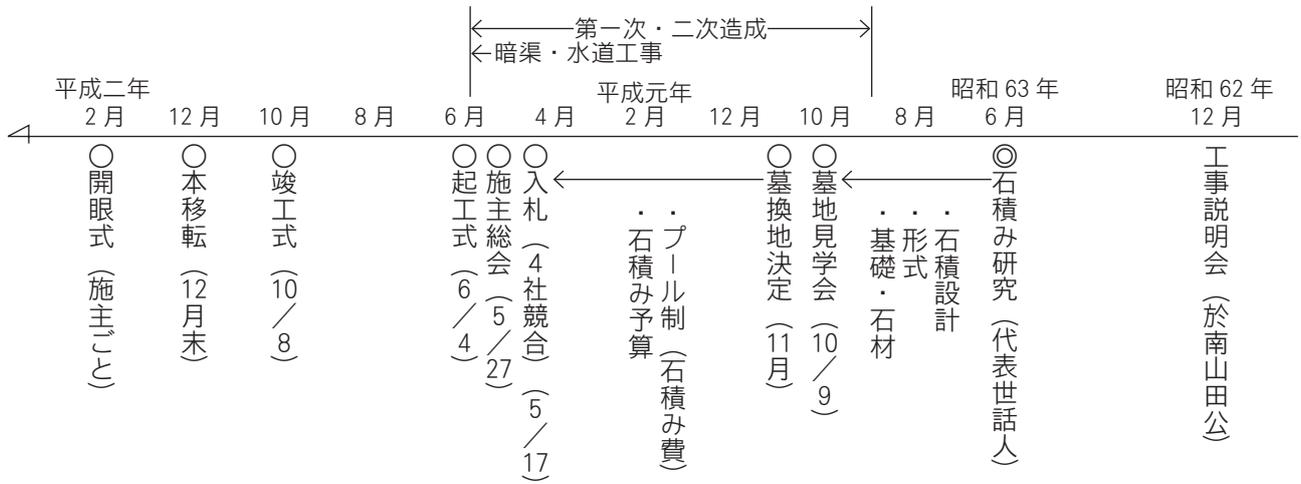
③例えば、分家等で墓地が必要、又、増換地したいとの要望は、この換地面積内で対応して下さい。公団は関与しない。

④大嶋家では、織茂家十施主の要望に応え、墓地を提供しました。江戸時代末期より続く無縁仏（故大嶋徳次郎―本家管理）二坪を残し、不足分を本家分（大嶋珪治）より補いました。

預り金は、無縁仏の石積み代と新しく石碑の購入代残る残金は、内墓共同使用する、①手水舎（流し台、水道の引き込み代）水舎の建物は、本家で寄贈させて頂いた。又手水舎の手桶棚（アルミ製）は、祝・内墓施主竣工記念です。写真にて紹介しました。



内墓の石積み計画 予定表



二 - 二

内墓 墓地改葬

第三回内墓施主総会 (平成元年五月二十七日) 於大善寺

一. 経過報告

大善寺を含む広域に亘る、第一次造成工事説明会 (南山田五工区整地工事) が、地元住民に向けて南山田公民館で開催された。寺墓、内墓関連の施主多数出席されていました。

工期は、昭和六十三年七月二十二日〜十二月十八日までで、内墓、寺墓にとって朗報でした。

早速、内墓三家代表世話人六名で、石積みについて、研究会を随時開催する事としました。

二. 内墓 (共同墓地) どう造るか

1 全体の形を統一、見映えがする

2 石積み 御影石で、石も色々ある、高くつく

3 基礎をしつかり 耐震・排水 (地盤が緑泥岩)

4 石積みは、自己負担、出費大 石碑も購入?

5 石積み代を安くする方策は?

等々、寺墓地の見学会を通し、又自主的に寺や、石材店を訪れ見聞を広め、約六ヶ月間かけ、施主総会に向けての資料を作成しました。

三. 議題「資料3」に基き提案する。

1 石積み設計案

① 基礎工事 耐震、石碑の重量基礎枠全体で、暗渠導入

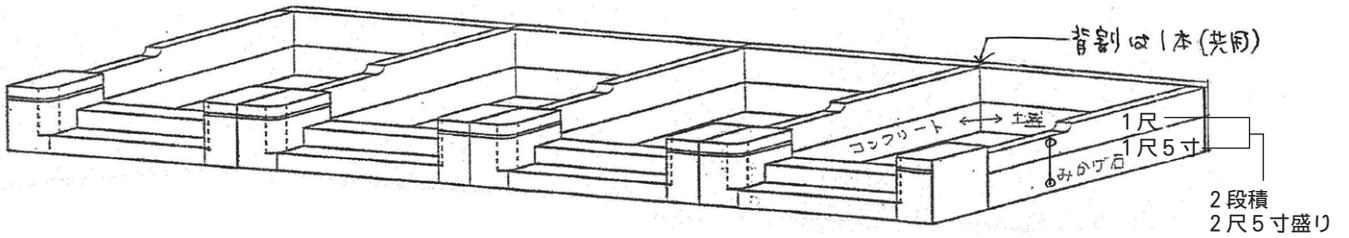
② 形の統一 石積み統一 門柱、石段、区画にマッチ

三点セット (二段積み、カロート、塔婆立)

③ 石材統一 韓国産の御影石 輸入材安い、硬い、水の浸透実験で検証しました。



資料3 石積み設計 (案)



1. 石積みについて (基礎工事、2段積、カロート、塔婆立)
 - ①形の統一 (見学会で確認)
 - ②材質について—白みかげ ※韓国産みかげ石
石の種類 (茨木産中目—輸入物の方が良い)
 - ③カロート 大谷石 (5寸4寸) きぬ石
・大：60×90×60 (H)
・小：55×75×60 (H)
※コンクリート製
2. 業者の指定———入札
 - ①換地の決定
 - ②石積の設計確認
 - ③業者への見積依頼———入札———指定
3. 予算 (案) ———経費———納入 (S64.3)
 - ①経費のプール化 (㎡により納入)

内墓3家の石積み代 (総額)

高橋家	織茂・大嶋家	合計
10,936,035 円	14,479,045 円	25,415,080 円

- ④ 石積み代 換地図の通り、区画が大・中・小と様々で、施主ごとの負担額を公平 (角地⇨石量多い、高低差解消⇨背割二本と内柱も、その負担額を均等) にするため、プール制を導入しました。(入札、一括発注)
 - ⑤ 石積み代 総額を総坪数で、坪単価を算出する。
 - ⑥ 業者の選定 見積の入札方式で、四社の競合入札となりました。(五月二十日 於(株)山田富士組事務所)、内墓代表世話人会で選定しました。
 - (有)早野石材店 (川崎市麻生区早野三八〇) 代表取締役 浜畑忠義に決定
- 2 契約書について
- ① 内墓三家で一括契約、内墓三家代表者 (三名) と(有)早野石材店と契約
 - ② 工期 四ヶ月間 (平成元年六月～十二月末まで)
 - ③ 経費の納入 平成元年七月三十一日まで振込みで指定口座へ
 - ④ 本移転 墓石の搬入 施主ごとに平成元年十二月末までに
 - 3 その他 起工式・竣工式の予定について
- ※議題1、2について一括採決 賛成、可決
- 3 今後の予定
- ① 水道の引き込み 仮設引込み メーター共用 (漆原家と) 蛇口、二ヶ所設置する。六月中に完成
 - ② 植栽について 北側 (入口) と南側について
- ※第一・二造成の遅れで、やっと本移転の見通しがついた。これからが本番 内墓施主の協力で立派な石積み完成させたい。



大嶋家・織茂家の施主の皆さん
記念写真石川住職と



高橋家の施主の皆さん
記念写真石川住職と



内墓三家の施主の皆さん
後方に寺墓の墓石置場が見えますか？



ブルーシートの部分は文化財の西ノ谷遺跡でS62年1月からS63年12月まで発掘調査が行われました。内容が予想以上に重要なものであったため、内墓の新墓地造成工事が遅れるというハプニングもありました。



起工式（地鎮祭）H1.6.4
石川住職により執り行われました。



新墓地第二造成工事開始
内墓先行造成（S63.11）

二 - 二

内墓
墓地改葬

内墓の起工式（平成元年六月四日） 於内墓造成地一画

内墓（三家）の起工式（地鎮祭）が、待望の換地された造成地で、大善寺石川住職により執り行なわれました。梅雨時の合間、快晴のもと、出席者は合わせて二十三名でした。

周囲は、まだ造成工事中で、内墓だけが先行して、墓地造成に着手する事になりました。遠くに、寺墓の墓石置場が映っています。一步お先に、石積工事始めます。（参考に）

自然豊かな、静寂な旧墓地より、広大な造成地の片隅に、新墓地を構える事に、一抹の不安と歎びとて、複雑な心境でした。

菩提寺大善寺への直接移転が仮移転、諸般の事情により、仮移転より約六年間経過しました。今度こそ、新墓地にご先祖を移せるんだと確信できた儀式でした。

内墓三家の代表世話人の方々、施主の皆様ご苦労さまでした。

石積み計画には、地区内の墓地見学会、石材店を交えての石材の研究、水捌けの悪い地盤に暗渠排水を導入、石積みに見映えの良い御影石を、費用は安価にと、プール制を導入等、施主の皆様の努力と夢が凝縮されています。

石材店（有早野石材）と契約済、四ヶ月後（平成元年九月末）には完成予定です。無事竣工式が迎えられる事をお願いして終了しました。



竣工法要を終えて
H1. 10. 8
石川住職と公団職員



めでたく竣工法要
H1. 10. 8
長い、長い道のり
でした



竣工法要を終えて、
石川住職と高橋家
の皆さん お花も
生き生き H1. 10. 8



竣工法要を終えて、
石川住職と早
野石材と大嶋家、
織茂家の皆さん
H1. 10. 8



祝賀会場 於寺客殿 公団（来賓）と
早野石材店 ほっとしました



祝賀会場にて
よかったね、ひと安心



祝賀会場
話は思い出それとも石積み

内墓の竣工式（平成元年十月八日） 於内墓新墓地

秋晴れのもと、来賓として、公団より代表者三名と内墓施主三十七名（皆出席）が出席のもと、竣工式が開催されました。

第一部 竣工法要

大善寺石川住職により、竣工法要が執り行われ、各施主お焼香後、新墓地に、花、線香を手向け、竣工を報告。お陰様で立派な墓地が完成しました。胸を張ってご先祖をお迎えできます。一同式場にて法要を終了しました。

第二部 祝賀会（於寺客殿）

竣工祝賀会は、（客殿）で開催されました。

1 挨拶（公団）①補償課②区画整理課③工事課代表より頂きました。竣工おめでとう。お待たせしました。

2 献盃、竣工おめでとう、公団三課にお世話になりました。

3 記念品贈呈、(有)早野石材店へ 豪華な石積みできました。

祝賀会は、達成感、安堵感あんどかんあふ溢れた雰囲気の中で、墓地の話で盛り上がりしました。①ご先祖、寂しかったのでは、私達は、賑やかでいい。②お参りは、蚊に食われることはない。蚊との戦いでした。

港北NTのお陰げ、市、公団をはじめ地元の方々の、寺の世話人の皆様に感謝します。

まだ、本移転が残っています。予定では、平成元年十二月までに完了。一日も早く、遺骨と墓石を新墓地に移し、開眼法要をする事を約束し、閉会となりました。



内墓の全景 (H26. 6. 29 撮影)
 緑に囲まれた整然と並んだ墓地。しかし、隣地に高層ビルが建ち並んでいる。

内墓施主数 (△…無縁墓地)

		大嶋家	織茂家	高橋家	合計	備考
S56	墓地	5	9		24	
5	改装時	(△ 1)	(△ 1)	10	(△ 2)	
H1	竣工式	7	18	10	35	11名増
10			(△ 1)			
H26	現在	8	18	12	38	3名増
6		(△ 1)	(△ 1)			

相談役

織茂家 織茂力雄
 大嶋家 大嶋珪治
 高橋家 高橋幸治
 高橋宗二

世話人

◎織茂忠雄 ○織茂豊和
 ◎織茂清次 ○大嶋 明
 ◎高橋 清 ○高橋 勝



大嶋家



織茂家



高橋家

二 - 二

内墓
 墓地改葬

内墓の大清掃 (平成二十六年七月六日)

恒例 (年に一回) のお盆を迎える為の大清掃、今年は、織茂家の当番で実施されました。

今年は、新墓地竣工、満二十五周年を迎えました。節目の年ですので記念写真を撮りました。(記念誌の関連もあり)

この間、世代交代、高齢化等で出席者の顔ぶれも変わって来ましたが。当初より施主数も、二十四施主が三十八施主と増加しています。

自分達の墓地は、自分達で管理の精神は、受け継がれています。施主総動員で、二時間ほどの作業で終了、除草、樹木の剪定、高木の枝下ろし (近年は業者に依頼)、ごみ処理は焼却場へと、経費 (管理費) は、上昇傾向です。

年間管理は、輪番制で、三家で一年交代です。

昔の内墓を思えば、天と地です。(年寄のひとりごと)
 老若男女、世代を越えての作業も、楽しみです。

「浄土」です。いつも、きれいな「聖地」でありたい。
 内墓の全景写真を見て

- 1 墓地も都会の仲間入り (ビル群)、先祖も、びっくり
- 2 でも、自然も豊か、緑も、花も (桜、楠、さつき、さるすべり)
- 3 墓地は高台、陽当り良し、風通しも、蚊との戦い夢物語
- 4 整然と並んだ立派な石積み 皆で頑張りました。
- 5 墓参りも賑やか。献花もみなさん、気張ってます。

内墓三家の施主の皆さん、縁あって、一緒になりました。
 末代まで一緒です。仲良く、明るく、笑顔で、挨拶しましょう。



ごあいさつ

檀信徒総代 栗原 勲

横浜市の六大事業の一部として、港北ニュータウン事業計画が発表され、大善寺の墓地改葬計画が立案されました。以後住宅都市整備公団はじめ檀信徒の皆様方、各関係機関の方々の綿密な計画に依り円滑に施行され、本年五月大善寺墓地改葬工事の完成を迎える事ができました。数多くの方々の御協力をいただきました結果であり厚く御礼申し上げます。

以前の墓地周辺は緑多く樹木や竹林に囲まれ、数百年来の歴史があります。檀信徒の信仰心も厚く、御先祖の供養も代々手厚く受け継がれ、今日に至っております。この事業計画が公団より説明が行われた時以来、世話人会を中心に具体化について、種々検討され、数回に及ぶ檀信徒総会において説明し、檀信徒心を一つにした結晶の賜ものであります。

今後ますます都市化していく環境にふさわしい近代的墓地として、永久に霊をお祀りしてまいります。

これからも境内の整備はもとより、諸行事に絶大なご支援とご協力をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



「光明山 大善寺 開創 450 年慶讃墓地改葬記念」冊子より

(宗)大善寺墓地改葬記念法要御案内

謹啓 時下益々御清栄の段大慶に存じます。さて、この度、当山に於きまして、長年の念願でありました、墓地の改葬が終り、新墓地にご先祖の霊を移設完了致しました。つきましては、左記により、墓地改葬記念法要の儀を執り行いますので、公私共、御多端の折柄、誠に恐縮で御座居ますが、御臨席の栄を賜り度く御案内申し上げます。

平成三年四月吉日

合掌

〒223 横浜市港北区南山田町五〇三五

電話 〇四五―五九一―三六五三

(宗)浄土宗 光明山大善寺

住職 石川 成弘
(宗)大善寺 檀信徒総代 栗原 勲

記

大善寺墓地改葬記念法要

一、日 時 平成三年五月十一日(土)

午後 二時 法要

祝賀パーティー(テント内)

一、場 所 大善寺

一、会 費 一万円(当日受付まで)

◎尚、出欠の有無を同封のハガキにて、四月二十日までにお願いいたします。当日不参加の方は、会費を送金して下さい。記念品を送付します。

三.
鐘楼梵鐘の再建と境内整備





(仮称) 檀信徒まごころの鐘 選択集法載八百年慶讃
大善寺鐘楼再建・梵鐘製作および山門修復等趣意書

宗教法人 光明山 徳水院

浄土宗 大善寺 代表役員(住職) 石川成弘

総代・世話人一同

当山の梵鐘は、県教育庁生涯学習課の資料によれば、江戸幕府の第五代將軍綱吉の時代、靈元天皇即位十五年、水戸黄門が大日本史編纂に着手、そして、元禄を迎える貞享二年乙丑(西暦一六八五年)の三月、鋳物師武州八王子住 藤原春寛の作として三百年に及ぶ歳月を、この地域の人々の心に目覚めの警鐘を響かせ続けて参りました。

しかし太平洋戦争のための強制に応じて金物の仏具と共に供出して以来、

二度とその麗妙な鐘の音を聞くことは出来ませんでした。

そこで梵鐘の制作について種々検討し、本年修正会においてご報告申し上げたところであります。

堂宇については三百十余年の風雪にさらされ、修復の必要性に迫られておりましたところ、幸にも 南山田 栗原千枝子・敏さん親子から修復費用 ご寄付の申し出を戴きましたので、早速世話人会を開き有難くこの寄付申し出受けさせていただきましたことに決定し、十月末には完成する運びとなりました。

鐘楼は、鎌倉時代の『古今目録抄』に寺院七種の伽藍として記されており、梵鐘の偈文は『願此鐘声超法界 鉄圀幽闇悉皆聞 三塗離苦生安養一切衆生成正覚』とあります。そして当初より人々に集会をかける知らせとして用いられ、別の



昭和 17 年頃の記念写真

・栗原昌治(前々総代)・石川順岡上人(中央)

大善寺所蔵



意味では世間に暮らす人々に覚醒を促し、阿弥陀さま・ご先祖さまの存在を音として感じとらせる仏具ですので、その作成については檀信徒全員のまごころの籠もったものとして、梵鐘を鑄造することが望ましいのでございます。

そこで世話人会で検討を重ねた結果、別紙要項の通り、檀信徒ほか多く

皆様に寄付をお願いすることになりました。

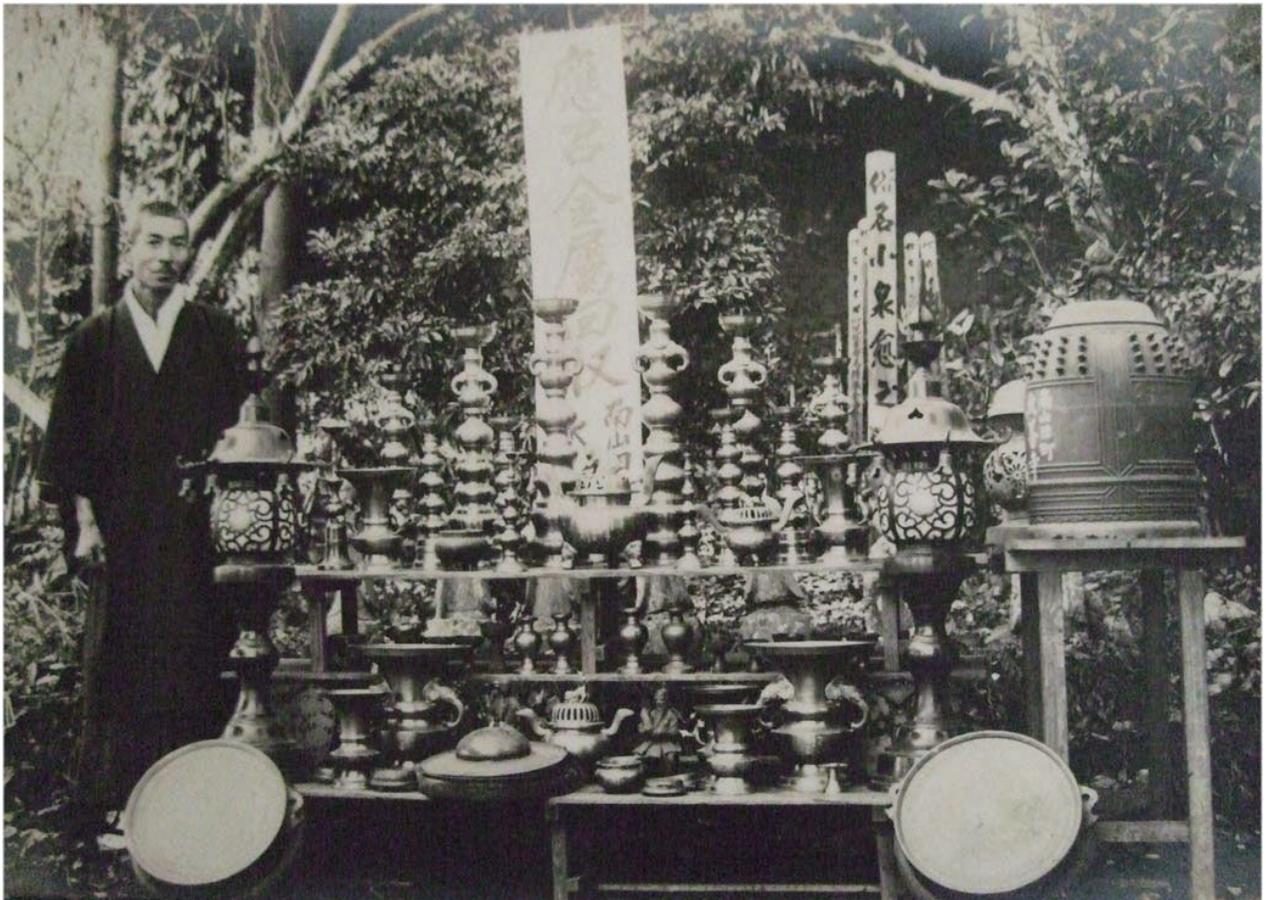
さて平成十年は、時あたかも、宗祖が私たちの幸せのために遺された「選択本願念仏集」撰述八百年の嘉辰を迎えました。

宗祖法然上人の教えの恩に報いるために、これを慶讃事業として実施することに成りましたので、趣旨をご理解の上、絶大なるご賛同をいただきますようお願い申し上げます。

なお梵鐘は既成の物もありますが、この世に一つしかない大善寺の鐘として、広島の平和の鐘の作者あり、人間国宝 故、香取正彦先生の一弟子、重要無形文化財技能伝承者、鶴田力先生にお願いいたしました。

つきましては、仮称『檀信徒まごころの鐘』として、皆様の絶大なるご理解をいただきまして、ご寄付の御縁を結んでいただきますようお願い致します。

・追伸 詳細については来る八月のお施餓鬼会にご説明 合掌



・大善寺の所蔵 ・、石川順岡上人と戦時中に供出されたという梵鐘、昭和 17 年 12 月 6 日



寄付金による鐘楼・梵鐘等の再建と境内整備

梵鐘・山門施設世話人会 代表 栗原 貞夫

大善寺は「港北ニュータウン街づくり」の宅地造成から大変工事が遅れました。古代末から中世初期の「西の谷戸遺跡」鍛冶屋跡があり、土器、石器等出て工事の着手が、他の寺院より延び延びで墓地の移転にも影響してしまった。年月をついやし漸く近代的な墓地が完成しました。

平成十一年、大善寺世話人会で選択集選述八百年慶讃・鐘楼・梵鐘・山門修復に関わる『趣意書』を檀信徒の皆様にご郵送をさせて頂きました。

寺として、仏様ができた家のみ墓地を分譲するという考えを改めまして、檀信徒三〇〇を目指し墓地分譲、対応できる境内整備となりました。

寄付口座は、住職は住友銀行・世話人会の口座は、JA北山田支店に、寄付金は、一口 一万円 申込制で多くの方からの浄財を頂きました。

寄付金については、本堂に掲示をしています。

鐘楼堂につきましては、栗原千枝子様から 千三百万円を住友銀行に、振込み、私も本堂前の天水鉢を寄贈振込みさせて頂きました。北山田支店の口座を世話人会で、山門修復・六地藏移転及び復元・石積み工事他・外便所の新設工事・外灯工事・境内整備関係・発遣式及び開眼式・落慶法要関係・寄付者の額縁（本堂）・感謝状及び光明寺・記念品代・印刷郵送代・会議費・その他です。多くの方の浄財を感謝しお礼を申し上げます。



大善寺・境内整備は、平成12年6月19日にすべて完了 ※写真はH26.8.28撮影



大善寺寄付金についての会計決算報告

大善寺住職 石川 成弘
大善寺 施設世話人会

単位:円

収入の部

・檀信徒202施主より寄付金	28,800,000
・3業者より寄付金	300,000
・利息	1,754

収入合計 27,101,754

支出の部

1. 梵鐘	5,408,235
2. 山門修復	5,029,500
3. 六地藏移転及び復元	498,680
4. 石積み工事他	2,100,735
5. 境内舗装工事	3,846,810
6. 外便所新設工事	3,830,733
7. 外灯工事	1,292,445
8. 境内整備関係	568,249
9. 発遣式及び地鎮祭	40,000
10. 落慶法要関係	2,294,588
11. 寄付者額縁	488,691
12. 感謝状及び光明寺へ	215,000
13. 記念品代	708,750
14. 印刷郵送代	152,180
15. 会議費・その他	455,517

支出合計 26,930,113

差引残金 ※平成12年6月19日現在・会計決算報告済み 171,641

残金について 檀信徒へ決算報告書コピー代 岩崎千春氏へ	2,400
記念品の発送立替え代 栗原 敏氏へ	13,360
本堂 額受け棚 後藤工務店	20,926
世話人会を経て	135,564
H17.5.22 残金133,564 を大嶋氏の会計に繰入れる	0



梵鐘



山門扉一枚板



六地藏



外トイレ



山門修復



境内整備



石物の移設と境内舗装・
外灯・木曾石積み工事等



老子製作所 梵鐘の値段は、標準で高級車一台分

日本の寺の梵鐘は第二次大戦中、兵器を作るために供出させられて寺から姿を消してしまった。戦後は、その反動で梵鐘需要が急増する。

戦後五十年で一気に江戸期の数まで戻したため、昭和は空前の「梵鐘生産」時代だったようだ。（老子製作所ネットより）
昭和十七年（一九四二）に供出してから五十七年ぶりに、寺の修復された鐘楼堂に、梵鐘・鶴田つきた 力つとむ先生の作が、皆さんのご寄付によって漸くようやくよみがえり吊すつることが出来ました。

梵鐘・山門施設世話人会一同



大善寺・檀信徒まごころの鐘 二尺五寸 160貫

魚津埋没林博物館＝金太郎温泉(泊)＝高岡・老子製作所(鑄込み式)＝いなみ木彫りの里 H11.7.28~29





老子製作所(富山)梵鐘鑄込み式 ①

H11.7.28~29

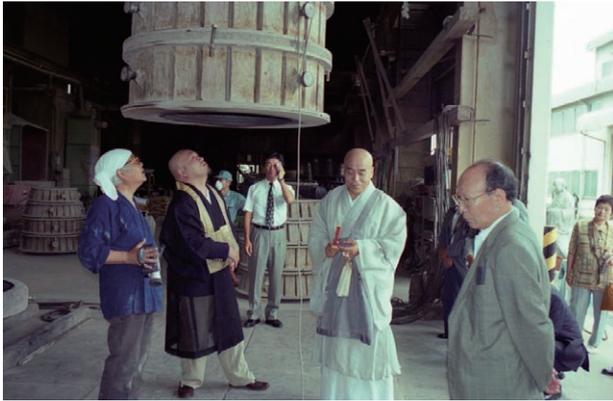


指差している内側に文字が彫られている

三
鐘楼梵鐘の再建



老子製作所(富山)梵鐘鑄込み式 ②



三

鐘樓梵鐘の再建



老子製作所(富山)梵鐘鑄込み式 ③



◎鑄込み式、参加できなかった世話人の名前に・家内安全・無病息災等の願いを書いて溶炉へ



三

鐘楼梵鐘の再建



写真・大善寺所蔵

供出した寺の梵鐘



戦時中に供出された梵鐘 昭和17年12月6日

戦時中に供出されたという梵鐘に思う

昭和十七年、南山田町 大善寺という文字が写真で良く読みとれます。私が小学生低学年の頃でしたが、ある日B29という飛行機が夜、空高く飛んでいました。父が町会長でした。空襲警報の知らせに、隣近所大騒ぎして防空壕に入れさせて頂いた頃のことを、今のように覚えていきます。

公民館（当時、倶楽部）という所で時々、赤紙が来た若い兵隊さんを皆でバンザイとやって送り出していました。子供でも忘れることは出来ません。

現代は文明が急速に発展し、競争の激しい世界。国と国の関係がむずかしい、心の豊かな国が少なくなりつつあり、益々の世界平和を祈ります。 栗原

三 鐘楼梵鐘の再建



鐘楼堂と六地藏の地鎮祭・境内整備が始まる H11.6.12



境内整備

六地藏の移転前と参道側に移転完了



六地藏工事

金井石材店

後藤工務店

鐘楼堂工事

(株)石本興業

早野石材店

木曾石積事

三橋緑化興業



三

鐘楼梵鐘の再建



鐘楼堂の開眼式 ①

開眼式を迎えて

この様に開眼式が出来ましたことは、檀信徒皆様の真心のこもった浄財（ご寄付）によって境内整備が出来ました。菩提寺が奇麗になって行くことは、嬉しいことです。

戦争で失くしたままの放任状態で五十七年間、全く手が触れられずにいました。檀信徒の皆様のご至誠の賜物です。

今回、新しく甦りました。境内整備工事に携わりました業者（㈱石本興業・三橋緑化興業・早野石材店・金井石材店・後藤工務店・その他）のお骨折りがありました。「感謝」お礼申し上げます。

大善寺住職・世話人





鐘楼堂の開眼式 ②



三

鐘楼梵鐘の再建



鐘楼堂の開眼式 ③



三

鐘楼梵鐘の再建



鐘楼堂の開眼式 ④



三

鐘楼梵鐘の再建



世話人会議の主な経過と行事経過報告

施設委員会 庶務 織茂 孝雄

この事業は、世話人会（住職他十七名、十五回開催）の中の施設委員会（住職他 五名、九回開催）が担当し、世話人会議で決定し随時檀信徒に計り実施しました。

平成十一年

一月一日 修生会 鐘楼・梵鐘再建方針を檀信徒に提案。

四月八日 再建には、檀信徒から寄付金の募集を決定。

四月二十一 栗原千枝子・敏様親子から鐘楼建設費寄贈の申し出があり

〓二十九日 受け入れ決定。梵鐘は檀信徒の寄付を仰ぐこととした。

六月五日 鐘楼・山門工事は、(株)石本興業と契約。その他付随工事は後藤工務店、三橋緑化、早野石材店、金井石材店等が施工。

年内完成目標、見積書を検討の結果、寄付金目標額を千三百五十万円とする。

六月十二日 発遣式、総代、施設委員、業者等の参列行う。

七月九日 「鐘楼再建、梵鐘製作及び山門修復等にかかわる寄付のお願い」として趣意書、寄付要領を檀信徒に発送。

七月二十八 富山高岡市の老子製作所に於いて鑄込み式

〓二十九日 （製作者、鴫田力先生、住職、世話人他十六名の参加）

八月十一日 施餓鬼会に於いて、檀信徒にこれまでの経過と

内容の説明。同月二十日 寄付申込書、振込用紙の発送。

八月二十七日 鐘楼上棟式

十二月十四日 寄付金が目標額の倍額（二千七百万円）に達した

ので境内駐車場入口舗装、外灯等の整備を決定。

平成十二年

一月一日 修生会に、つき初め、住職、檀信徒が行う。

二月十六日 外便所の新設決まる。落慶式法要四月八日決定

四月八日 落慶法要、祝宴を寺院関係者、檀信徒、工事業者、関係者、約二百名の参列挙行。

※寄付金振込口座、大善寺梵鐘・山門建設世話人会は施設委員会



四・甘茶苑の建設と甘茶の会





甘茶畑の推移

編集副委員長 甘茶の会担当 岩崎 房雄



平成五年港北ニュータウン区画整理事業・換地計画により当大善寺の境内地の一部が一般宅地として換地されました。面積は三筆八五〇㎡二五七坪に及びます。

返還当時は何の当ても無くそのままの状態でありましたが高橋氏、大嶋氏等の発案によりこの土地を甘茶畑にしたら良いのではないかとの意見で世話人一同、寺の将来に係る事なので賛同しそれにかかわる作業の事等を話し合っておりました。発案した方々は、将来甘茶の花咲き乱れる光景や山野に咲くカタクリの花の群生、あるいは鎌倉のあじさい寺の光景、近くにある都筑区正覚寺のあじさい咲き乱れる光景を思い浮かべて発案したのだと思います。平成八年六月高橋氏の自宅前の畑から甘茶の苗二五〇本の、寄贈を受けそれらの苗を移植してさらに甘茶を増やしその後平成十七年四月さつき三一〇本、桜、柿等を購入移植し世話人一同畑の除草、施肥、剪定作業に励んできました。

平成十六年より甘茶摘みが出来るようになり高橋氏を講師として甘茶づくりの研修を行うまでになりました。これまでの間高橋氏は甘茶づくりに精魂を込め懸命に研究された事と思いません。

この間この土地の固定資産税の累積額が相当な金額になり何とか免除にならないか再三にわたって区役所課税課にお願いし

数々の指摘を受けましたがそれらを充当整備し平成十八年から寺の境内地として認められ無税となりました。

一方大善寺で行う各種行事で甘茶の会の会員募集・入会案内等の配布、行事後に甘茶の試飲会等の努力を重ね入会希望者も六十余名となりましたのでここに甘茶の会を結成する運びとなり会長には甘茶の研究・育成に懸命に努力された方高橋幸治氏が選ばれ平成十七年四月九日、正式に甘茶の会が誕生、さらに平成十八年一月一日、正式名称「甘茶苑」と命名、これからの運営は当甘茶の会が行うことになりました。思えば甘茶の苗の移植から十年近くの歳月が経過したことになり多くの方々のご苦勞が実を結んだ事になります。

今後この会の更なる充実と発展を願ってやみません。



成長した甘茶の成木



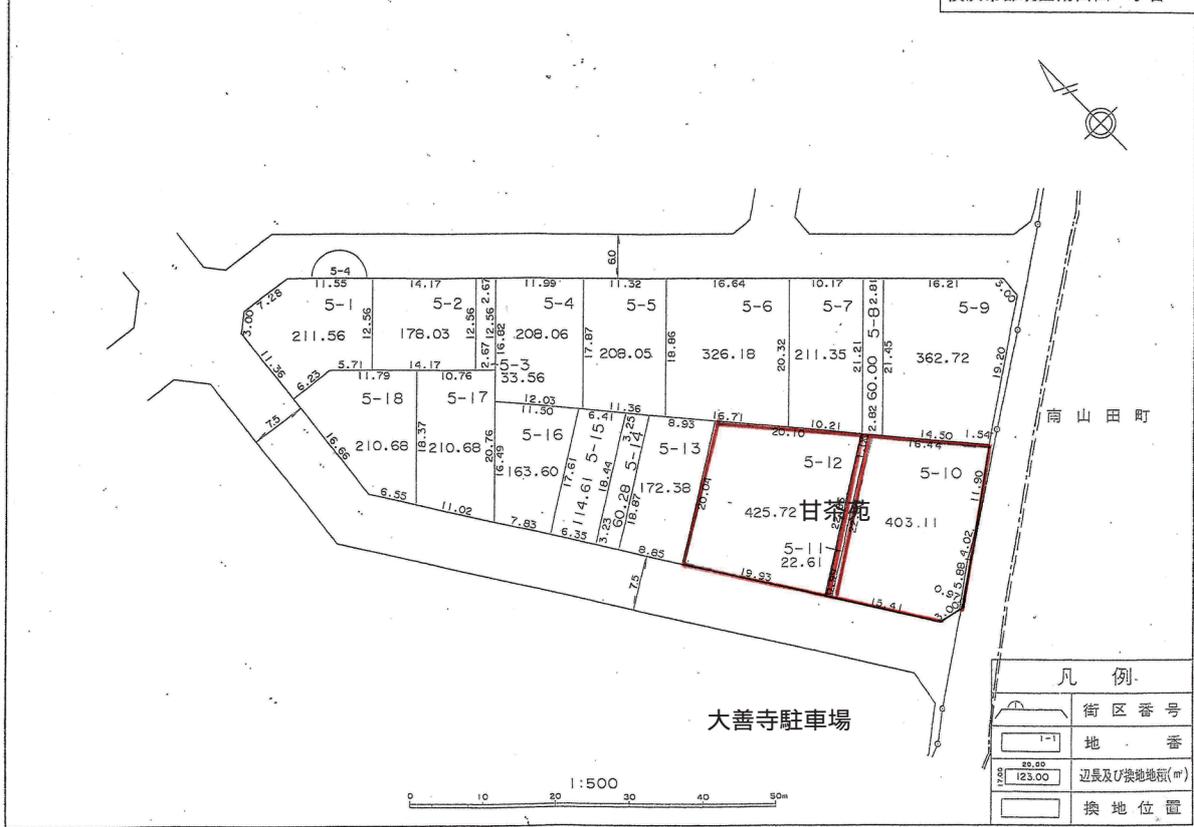
花御堂



横浜国際港都建設事業
横浜北部新都市第一地区土地区画整理事業

換 地 図

横浜市都筑区南山田二丁目

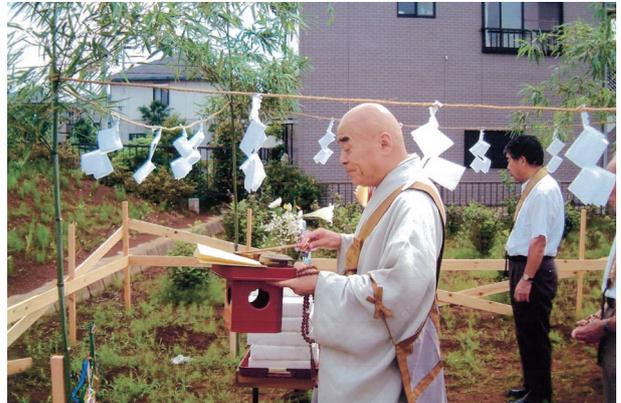


甘茶苑の位置 (換地図)

四 甘茶苑の建設と甘茶の会



甘茶の葉摘み



花御堂地鎮祭



甘茶試飲所風景



大善寺の桜



甘茶苑の創設（甘茶寺の思いを込めて）

大善寺 甘茶の会会長 高橋 幸治

甘茶との出会い

私は、昭和四十年代「港北ニュータウン」計画発表当時、温室で花の栽培をしていました。

計画図によると、温室二棟が計画道路となっていました。

市街化された街の中では、温室外の街の照明の影響で、「菊の花芽がでにくい」との事を仲間より聞いていました。

そこで私は、園芸雑誌の中にある種苗会社のパンフレットやカタログを取り寄せました。「どんな花づくりをしようか」根底から見直す事にしました。

京都の種苗会社のカタログにあったのが「甘茶」でした。

花は可愛らしく、この葉で甘茶が出来ると書いてあったのに、「ある閃き」を感じ、即、苗を注文しました。苗は、「大甘茶と姫甘茶」の二種で、数日後届きました。

苗は、十センチ足らずの小さな苗で、自宅の庭に植え、育て始めたのが最初で、良く育ち二〜三年で、可愛らしい花が咲きました。

甘茶寺にしようとしたきっかけ

ある日、咲いた花をとって、ある店舗のカウンターに置きましました。

多くの人は「可愛らしい花ですね、何の花ですか。」と聞かれました。中には、「これは甘茶の花ですね、この花にも葉にも甘味があるのですよ。」と教えてくれたひとがありました。

この方は、先日鎌倉の「あじさい寺」に行った話をしてくれました。横浜に住んでいる人が「鎌倉まであじさいを見に行く人がいるんだ」と驚きました。（※甘茶もあじさいの仲間）

その晩、早速家で、百科事典、薬草図鑑を開いて見ると、あの方の云う通り、甘味があり、花まつり（お釈迦様のまつり）に使う甘茶ができると書いてありました。

それからある日、大善寺住職（成弘和尚）と雑談中、「『大善寺を甘茶寺』っていうのはどうですか。」と話をすると、「いいですねえ。」の返事、そうだ、苗をつくって境内へ植え、花を一杯咲かせ、鎌倉のあじさい寺のようにすれば、お客様は来てくれる事、間違いなしと感じました。

早速、苗木作り・春挿し・夏挿しを本格的に行ってみました。幸いにも大善寺には、甘茶の木が昔より花まつり（四月八日）のため植えられていますので、適合地です。苗木を増やし、境内地一杯に甘茶の花を咲かせたい。

しかしこれには、住職、世話人、檀家が、一致協力しなければできません。

幸いにも、檀家には植木職人、庭職人、園芸農家もおられます。その気になれば、出来る筈です。私も二五〇本の苗木を育てました。

甘茶づくりの取組み

丁度その頃、自宅前の畑が空きました。苗木二五〇本全部植えました。甘茶づくりのためです。

百科事典の説明のように、自宅で①甘茶の葉を摘んで、水洗いし天日干し、②夜、霧吹きで水を吹き、手揉み、家の中に干



す、毎日毎日続きました。

初めての試みで「にがいお茶」「甘味のないお茶」「味気ないお茶」等、試行錯誤の連続で、一度は、米の空袋10kg一杯分のお茶ができたが、「味気」がないので、薬草風呂にした時もありました。こんな事を何年も繰り返していたでしょうか。

その頃から、京都旅行（夫婦）総本山知恩院へ参詣、その折、試作品の甘茶を持参、受付の和尚さんに「味見」をしてみてください。ださいと差し出しました。甘茶寺への願いを込めて、参詣の度に、甘茶を献上しました。回数は三、四回ほどになります。

京都への参詣では、総本山知恩院をはじめ、金戒光明寺、仁和寺、鈴虫寺等々、京都の名刹を沢山訪れました。

当時、大善寺では、甘茶畑（三筆、宅地並課税）の固定資産税が課題となっていました。

区役所の見解は、寺として必要な駐車場及び境内地は、非課税地扱いとなるとの事でした。

寺の必要境内地にするには、まず、甘茶を大々的に植え、甘茶を育成する事と決め、育てた甘茶の苗二五〇本を移植しました。現在の甘茶苑です。

甘茶畑を非課税地とするため、花御堂を建てました。区役所との折衝の結果、非課税扱い（平成十七年末）となりました。

甘茶寺の将来の展望

京都にある鈴虫寺（華嚴寺）の和尚さんは、一年中鳴く鈴虫を育て、有名になりました。初めてお詣りした時は、参道が砂利道でした。今では、石畳となり、見映えも良くなりました。

この寺にお参りするには、長い行列が来ています。鈴虫を飼っ

て、一年中鳴く鈴虫寺にするのに、十年ほどかかっているそうです。

大善寺も、あじさい寺、鈴虫寺のようにするには、十年かかってもよいつもりで、皆で協力すれば、出来る筈です。

お詣りが増えれば、収入も増え、寺を維持・管理する資金も確保できます。甘茶寺を目指し、頑張りましょう。

花御堂の額製作の取組み

甘茶苑のシンボルとなる「花御堂に額が欲しい。」その名に相応しい額を作りたいと考えました。

まず、額字を誰に書いてもらうか、額字を何に書いてもらうか、檜、樺の板に、又は彫り物に、「待てよ」木は、長年のうちに必ず腐る。いつそ「焼き物にしたら」などと、思いを巡らして、やっと完成したのが、花御堂の額です。

額字にも、こだわりがあり、京都の名刹めぐりで、甘茶のとりもつ縁で、総本山知恩院の紹介で、大本山金戒光明寺の法主様の揮毫です。

この額字を、「焼き物で」と、早速、京都の清水焼店を訪ねた。「それは無理です」と断られました。その筈、額のサイズは（縦33cm×横56.5cm）で、途方もない大きさでした。

その時、私は、土地活用であるビルを建設中でした。渡りに船と申しますか、建設会社の監督さんに、タイルの窯元を聞いてみました。名古屋に近い「美濃焼」との事でした。この窯元に、監督さんと二人で二度出向き、お願いしました。

美濃焼の窯元は、大規模な工場で、窯の入口から出口まで百メートル、全体が一〇〇℃に保たれているとの事です。



機械化されていて、題字（カラー）ですので、カラーコピーにセットされて、仕上った製品が、花御堂の額です。私の夢を、寺の夢を、この額に納めました。

四 甘茶苑の建設と甘茶の会



花御堂額 金戒光明寺管主の揮毫による 額は美濃焼



甘茶の会高橋会長



花御堂起工式法要



花御堂起工式記念写真



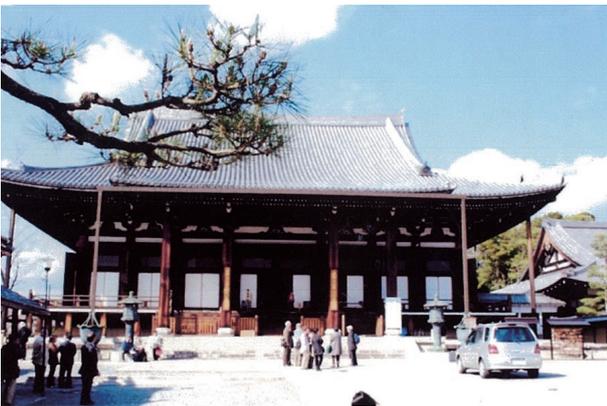
花御堂全景



知恩院本堂



知恩院山門



黒谷金戒光明寺本堂



黒谷金戒光明寺山門



甘茶苑の管理と今後の展望について

平成八年、高橋幸治氏、大嶋珪治氏らの発案によって大善寺の境内地の一部が宅地として換地されその場所に甘茶の苗木を二五〇本ほど高橋幸治氏の寄贈によって植えられた、その後甘茶の苗木のさらなる株分け、育苗によって数も増加してきた。

苗の育苗、除草、等の管理作業は大善寺世話人の方の丹精に よるところが大きかった。夏の暑い盛りの除草作業、滴る汗をぬぐいながらの作業、栗原貞夫氏宅の大きな噴霧機で除草作業、それでも世話人の皆さん方は、明日への希望を持ち、育成作業に励んだものである。

平成十七年四月大善寺甘茶の会が結成、それ以降は甘茶の会の運営で畑の管理その他の運営を任された。しかしながら今まで非課税であった土地が換地後、課税地として取り扱われたため固定資産税の金額が大きく今までの累計も相当な金額にのぼるため非課税地として認めてもらうよう区役所総務部課税課に非課税の申請書を提出してきたが課税課から次のような指摘を受けその点の改善努力を重ねてきた。

- 宗教行事の施設がない
- 管理上の施設がない
- 本堂との一体化が必要

それらの点の改善努力を重ね何回か課税課との折衝の結果、ようやく非課税地として認められ現在に至っている。

甘茶の会では毎年次のような行事を行っている

- 三月 花まつり準備、総会準備
- 四月 甘茶奉献の旅
- 四月 花まつり 総会、事業報告
- 六月 除草作業
- 七月 甘茶摘み

冬季甘茶の剪定、随時・除草作業等も同じ。

会の運営上皆さんに呼びかけ多数の参加の下に行事を行うことはまことに結構な事であるが時に少人数による除草作業等黙々と作業に取組んでいる方がおられこの人達の陰の力も決して看過できない貴重な好意と言わなければならない。

甘茶のできるまで

- 七月下旬 甘茶の葉摘み、なるべく新しい生葉を摘む。(下の葉は摘まない。)
- 大きな袋に入れて本堂の前で水洗い、ついで洗濯機にて脱水作業。
- 脱水した葉をブルーシートに三枚ぐらい日なたに干す。夕方本堂に入れる。(平らにして。)
- 葉がしんなりしてくるとブルーシート三枚が二枚ぐらいになる。

朝、十五人ぐらいの方で手もみ作業約一時間ぐらい、そば打ちと同じ要領。
後、本堂の中で日陰干で乾かす。

○次の日葉が乾いてくる。ブルーシートの上で住職が水をか



け揉みやすいようにし、また手もみをする。

○毎朝この様な作業を五日間、朝一時間ぐらい行う。

○葉をとってから六日間これくらいでよいのではないかの
目星をつけて約一週間乾燥。

大きな袋二十袋ぐらいに入れ茶箱に入れ格納する。

○その後必要に応じて、北山田桜まつり等に計量して小袋に
詰めその後は販売元へ。

◎甘茶の使い方

成分は、フィロズルチンという物質で、古くから灌仏会に甘
茶をお釈迦様の立像に注ぐならわしがある。

甘味が強く、甘味料として醤油の醸造に利用されているほか
糖尿病患者の飲料にも使われている。

出来た甘茶は、京都の総本山知恩院、黒谷の大本山金戒光明
寺、他大善寺にご縁のある各寺院に郵送され、大変喜ばれてい
る。

このように甘茶をつくるには大勢の方の手間と努力がこもつ
ているわけでこの種の努力が大善寺Ⅱ甘茶寺のイメージ定着に
大いに役に立っているのではないだろうか。

大善寺の「甘茶の会」と檀家さんの皆さん方の努力が実り、
大善寺Ⅱ甘茶寺のイメージの定着が、横浜地区どまりではなく
広く、関東地方までその名が定着できればこれにこした「幸」
はなかるうかと思う。

皆で甘茶もみ



甘茶揉みの作業の様子

甘茶の葉の採集

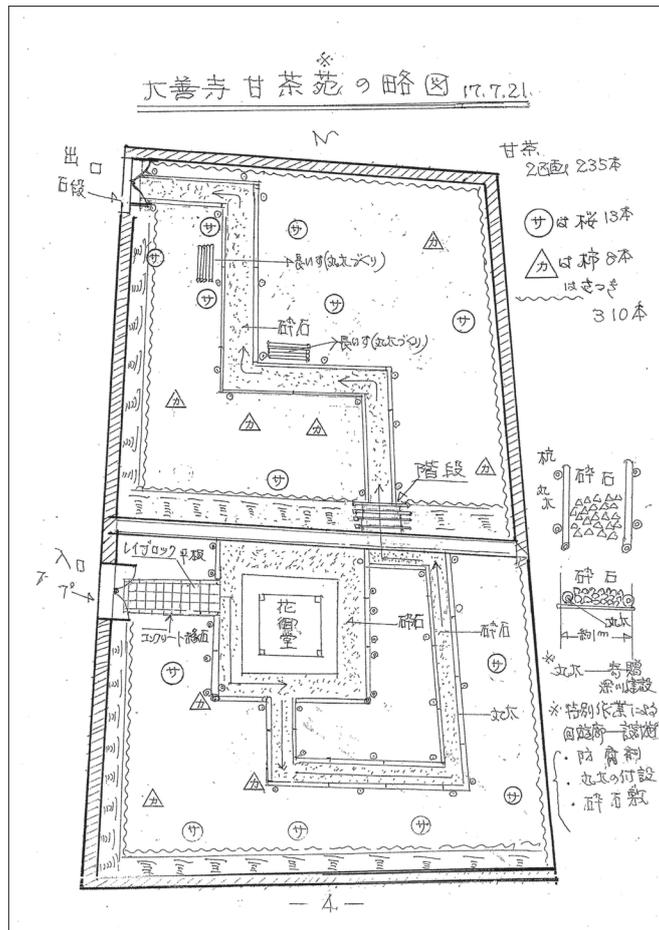


甘茶の葉の採集の様子

皆で甘茶揉み



甘茶揉みの作業の様子



甘茶苑の略図

今後の方向として

人はいるところによって自分の心に恣意的な想像をしてしま
うものである。

今の甘茶苑の花御堂に座っていてきれいな甘茶畑であるとか、樹木が多くてきれいな静かな場所であるとかの思いが先行してしまふきらいがある。お寺の境内地の一部としての役割が果たす何かが必要ではなからうかと考えることがある、なにか宗教に関係のあるものを安置するとか何か工夫が必要ではなからうか。

知恩院や金戒光明寺にお参りしてもその寺らしい雰囲気を感じさせる何かがある。甘茶苑にも同じようなものが必要ではなからうか。・・・課題として。



金戒光明寺庭園



金戒光明寺庭園



「甘茶苑」の非課税への取組み

檀信徒 総代 大嶋 珪治

「大善寺を甘茶寺にしよう」には、大きな夢と課題がありました。

1 甘茶を寺の名物にと、港北ニュータウンよりの換地（理由あり）に、甘茶の苗を植え、寺の世話人一丸となり、約八年甘茶畑の維持、管理に努めてきました。正直、高齢化進む中で、厳しい時期を迎えていました。

2 換地は、宅地並課税地で、平成六年より十一年間で、約九七三万円固定資産税を納付しました。

固定資産税の重圧に耐えての、甘茶寺への取組みでした。

3 この間、世話人の努力の結果、甘茶も成長、甘茶摘み、甘茶の試作品を作る事に成功、試飲、まずまずの出来栄でした。（平成十六年七月）早速、お施餓鬼法要（平成十六年八月）参詣者に提供、好評を得ました。席上、世話人会の取組みの経緯を、世話人推進役・高橋幸治氏より説明、「みんな、甘茶を作ろう」と呼びかけた。今後は、甘茶の会を組織して、取り組みたい。

4 その後の活動の経緯をまとめると

※1 「みんなで甘茶を作ろう」甘茶摘み、甘茶作り（研修）

参加者六十名（子供含む）（平成十六年九月二十三日）

タウンニュース9／30号

2 甘茶畑の作業、除草、甘茶株分けの移植（平成十六年十一月十三日午前中）午後、お十夜法要にて、甘茶で接待、※1のタウンニュースでPRに専念しました。

みんなで甘茶を育て、甘茶を作り、甘茶を飲もう会という、機運も高まり、『甘茶を寺の名物に』と甘茶畑を宗教活動の場としての基盤が出来て来たのではと考え、甘茶畑の非課税化への要望書を、都筑区長宛に提出することとしました。

要 望 書 （平成十六年十一月二十六日）

都筑区長

伊藤秀明殿

固定資産税課 宗教法人 大善寺 住職 石川成弘

課長 大善寺 総代 大嶋珪治

係長 出席 栗原貞夫

栗原武夫

I 要望書の主旨

1 港北NT計画よりの換地（甘茶畑（三筆））は、元来、境内地で非課税地であるべき。

2 換地後、甘茶の苗木を植え（平成八年六月）、甘茶を育成してきました。甘茶も成長、みんなで、甘茶を育て、作る事にも成功、行事の度提供することもできました。初期の目的は達成したのでは。



3 今後は、甘茶の会を組織、みんなで、甘茶を育て、甘茶を作り、花まつりに提供、行事の普及に努めたい。

資料 ① 要望書 ② 換地図 ③ 課税台帳

④ 活動の記録 ⑤ タウンニュース

Ⅱ 区役所固定資産税課の見解（意見） 要旨

1 要望書に基き、後日、回答する。
2 意見として

① 甘茶畑として（栽培）認められるが非課税扱いはできない
② 物的条件が整っていない

- ・ 大善寺甘茶畑という看板がない
- ・ 甘茶畑として、管理上、フェンス、門扉も必要
- ・ 宗教行事実施の際の施設はない（花まつり、休憩所）
- ・ 甘茶畑は、栽培するだけの目的か
- ・ 境内地にも甘茶を植え、本堂との一体化が必要

Ⅲ 甘茶畑非課税化への課題について

1 世話人会で対応策検討（平成十六年十二月六日）

2 甘茶の会設立と充実策

① 甘茶の会 会員募集（修正会案内に同封）（平成十六年十二月六日）

② 修正会、賀詞交歓会で甘茶の会PR（平成十七年一月一日）

③ 花まつりと打合わせ、甘茶の会設立（平成十七年四月七日）
九日）

④ 甘茶の株分け、移植を甘茶の会で実施（平成十七年四月

十六日）

⑤ 植樹するさつき三一〇本、桜十三本 柿九本（平成十七年四月十六日）

3 施設の整備に向けての方策 設計図の作成と業者委託

① 設計図は、世話人代表と甘茶の会役員とで検討しました。

② 業者への委託（平成十七年七月末を約束）

- ・ フェンス工事、門扉二ヶ所（出入口）回遊し本堂へ
- ・ 花御堂の建設兼休憩所・花まつりの際に釈迦仏安置、花御堂に額を掲げる。地鎮祭（平成十七年七月一日）実施

Ⅳ 第2回 大善寺甘茶畑非課税化への要望（平成十七年六月二十日）

1 都筑区役所 区長室へ、

- ① 区役所 区長、固定資産税課 課長・係長出席
- ② 寺 石川住職 総代三名、甘茶の会会長高橋幸治氏出席

2 第1回 甘茶畑非課税化への要望（平成十六年十一月

二十六日）課題への対応策と経過報告の為訪問する。

① 甘茶の会 充実と活動報告

② 甘茶の会設立、花まつり、共同作業（甘茶畑の拡充）
② 施設の整備

・ フェンス工事、花御堂、看板等業者委託、発注する。
・ 完成は（平成十七年七月末）を約束する。

③ 課題 甘茶畑イメージの脱皮（観賞・観察し本堂へ）

④ 課題への取組み



・甘茶畑栽培の目的より、観賞園・観察園、公園とかイメー
ジチェンジする方策を検討（世話人代表・甘茶の会代表
で検討）設計図案は、甘茶の会・副会長織茂安二氏案を
採用しました。設計図参照P142（平成十七年七月二十一日）
・甘茶畑改め「甘茶苑」と名づける。

V 第3回 大善寺甘茶苑 関連施設報告（平成十七年七月二十一日）

1 都筑区役所 区長室へ（区長出張）

① 区役所二名 固定資産税課 課長・係長出席

② 寺三名 総代大嶋珪治・栗原貞夫・甘茶の会高橋幸治

2 甘茶畑の名称改め「甘茶苑」とする。 設計図参照

① 甘茶苑に散策路を設置 通路は両端、丸太を敷設、碎石
を敷く

② 園内に、観賞用に①さつき三一〇本②桜十三本③柿九本
植樹、甘茶は日陰を好むので、高木を導入しました。

3 甘茶の会主催の共同作業実施計画（平成十七年七月二十四日）

① 甘茶作り（女性）第2回甘茶摘み、甘茶作りを実施、完
成まで一週間かかる。お施餓鬼法要（八月十一日）提供
予定

② 散策路への碎石敷き（男性）一輪車にて運搬

散策路敷設の丸太は、建設用の足場丸太で、深川政夫氏
より寄贈、事前に寺の駐車場にて、二週間かけて、防腐
剤を塗り、裁断、通路に敷設しました。経費節約の為有
志の方に特別奉仕を頂きました。現在の丸太は、業者の
施工によるものです。

VI 現地視察（平成十七年九月十三日）

1 区役所 固定資産税課 課長・係長現地視察に訪れた。

2 寺の対応は、総代大嶋珪治・栗原貞夫、甘茶の会会長高橋
幸治三名でした。

3 甘茶苑の関連施設

① フェンス工事 ② 花御堂 ③ 甘茶苑（散策路） ④ 看板

4 甘茶の会活動記録報告

① 行事への対応（PR） ② 甘茶の会（総会） ③ 共同作業

④ 甘茶づくり

5 課題として当年度中の取組み

① 大善寺全体の案内図② 花御堂の掲示板（九月発注済）

② 行事の充実① 甘茶を寺の御供養物に② 甘茶苑の一般開放
等の要望がありました。

6 視察の結果は、当年十一月頃通知します。

7 固定資産税非課税適用申告書（様式）大善寺住職宛に届き
ました。（平成十七年十一月）早速、大善寺住職名で都筑
区長宛に申告書提出（平成十七年十一月二十九日）する。

8 平成十八年度より「甘茶苑」非課税扱いとなりました。

9 ① ちなみに、平成十七年度までの固定資産税は（平成六年
〜平成十七年まで十二年間）約一〇五四万円でした。

② 甘茶苑建設費は、総額約三八五万円でした。

甘茶の会の活動が、宗教活動として、認定されました。
今後は、甘茶寺として、守り続ける責任があります。
これを機に、檀信徒の皆様のご理解とご協力をお願いしま
す。



○甘茶苑の免税処置のため指摘され充当された施設設備



花御堂



掲示板

○遊歩道・休憩所（花御堂）



遊歩道



休憩所

○門扉 2 か所



門扉（南側）



門扉（北側）

○甘茶苑の外柵（フェンス）



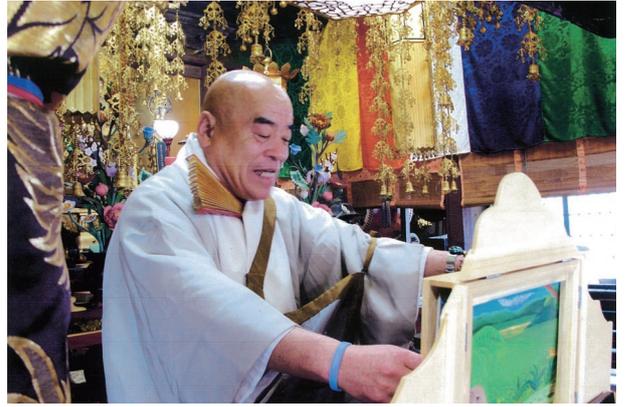
フェンス（西側）



フェンス（南側）



お焼香をする甘茶の会 会長代理



紙芝居をする住職



お花見風景



法話をきく檀信徒総代

大善寺の灌仏会

甘茶の会役員 岩崎 アサ

「大善寺五十年のあゆみ」記念誌の発刊おめでとうござい
ます。五十年の間にはお寺でも色々な事がありました。その中の
ひとつに「甘茶寺にしよう」「お釈迦様にかける甘露は手作り
で」となりました。第一回の花祭りは盛大に行われました。タ
ウンニュースやラジオの生放送にとり上げられ、放送を聞いて、
若いお母さんも子供も珍しそうに花御堂の中の誕生仏に甘
露をかけていました。

思い出せば、花祭りは私も私の子供も親しんだ行事です。四
月八日はお寺に行き甘露をかけ甘露をいただきながら、子育て
の悩み世間話をしてくる場でもありました。

子供が保育園に入ると、先生方に連れられて甘露をかけに来
たことも。花御堂を背に乗せた象の車を園児が引き回したこ
ともありました。和尚さまが紙芝居をしてくれました。

近年の花祭りは荘厳さの中で行われています。阿弥陀様に住
職がお経をあげます。私達はお焼香とお釈迦様に甘露をかけま
す。お十念も唱えます。私は阿弥陀様に今日の無事と家族の無
事などお願いします。お釈迦様にも無事をお願いします。

お経が終わるとお花見が始まります。第一回の時は桜の花の
下で行われました。桜吹雪の中で他愛ない話も人々を楽しませ
せてくださいます。外でのお花見は天候に左右されやすいので
二回目からは室内になりました。大勢の人が集うことは楽しい
ことです。この行事が末永く続きますように願ってやみません。



平成 19 年度 甘茶奉獻の旅 金戒光明寺にて



三室戸寺



平成 26 年度 甘茶奉獻の旅 宇治平等院にて



平成 26 年度 甘茶奉獻の旅 萬福寺にて

甘茶奉獻の旅

会長代理 斉藤 勝

甘茶奉獻の旅を企画、実施して今年で何年になるか、途中列車の中で数えたものでした。甘茶奉獻の旅とは寺の甘茶苑で、甘茶の葉を摘み、日陰干にし、乾燥したら手で揉み、水をかけ、手で揉み、又乾燥させくりかえし作業を行います。

甘茶の会の皆さんの手塩にかけた作品であり出来上がった製品を私達の宗旨である浄土宗の総本山である京都、知恩院、大本山黒谷金戒光明寺にお納めする旅をさします。お納めしながら、知恩院のお勤めに大広間にて参加させていただき、黒谷金戒光明寺ではお勤めの傍ら寺院内部の見学をさせていただいております。かつて、徳川幕府の後年、新選組を統括した会津藩公の御座所を見せていただいたり虎の絵が描かれた襖絵の大広間をみました。私達浄土宗檀信徒は総本山、大本山に甘茶を奉獻する事により幾分かでも今は眠る祖先のご供養のための行事であると思います。最近は大善寺で作られた甘茶は郵送にて総本山、大本山に送られ私達は京都近郊の社寺の見学をするようになりました。

平成二十六年は宇治市を中心に、法界寺、萬福寺、三室戸寺をまわり平等院では昔の平安貴族が描いた西方浄土の理想郷の姿を垣間見る思いで見学しました。皆様方も機会がありましたら是非ご参加いただき、親睦を深めると同時に私達大善寺の発展にお力をお貸しいただきたいと思っております。



大善寺・甘茶畑・甘茶の会活動記録

平成年	月	日	内容
五			境内地の一部、宅地として換地三筆二区画 八五〇㎡二五七坪換地となる
八	六	二三	甘茶の植え込み 高橋幸治氏寄贈による 同年以降世話人による甘茶育成作業
十六	九	二三	甘茶づくり研修会講師高橋幸治氏
	九	三十	タウンニュースに掲載
	十一	十三	甘茶の手入れ作業と整地
	十一	二六	区役所固定資産税課・非課税の要望
	十二	六	修正会と甘茶の会入会案内の配布
十七	一	一	修正会と甘茶の会(仮称)PR・入会申し込み
	二	二五	花まつりと甘茶の会設立総会準備
	四	九	花まつり・甘茶の会設立総会規約役員選出で会長 に高橋幸治氏 タウンニュース取材掲載
	四	十六	甘茶の木株分けとさつき、桜・柿等の移植作業
	五	二一	甘茶の会の作業休憩施設とフェンス業者依頼
	六	一一	甘茶の会役員会・会員名簿連絡網について 休憩施設について
	六	二〇	区役所固定資産税課経過報告・甘茶の会の活動報告 総会関連
	七	一	甘茶畑の拡充・施設・フェンス発注等
	七	二一	花御堂地鎮祭(休憩所改め) 参加一〇名
	七	二二	区役所固定資産税課へ報告・視察依頼
	七	二四	甘茶苑作業・甘茶づくり(女性) 回遊路砂利敷き(男性) 花御堂額大本山金戒光明寺法主揮筆・焼き物にて作成予定
	七	末	甘茶畑改め甘茶苑・行事案内板の発注
	八	一一	施餓鬼会にて甘茶苑の報告・非課税申告他

平成年	月	日	内容
十七	九	一三	固定資産税課現地視察・関連施設報告・非課税申告書受ける
	十一	一六	大善寺境内地全体の案内図設置
	十一	二九	固定資産税課非課税適用申告書提出
十八	一	一	修正会、固定資産税平成十八年度より〇となる 正式名称甘茶苑
	二	一九	甘茶苑作業、剪定・肥料
	三	二三	甘茶の会
	三	二四	花まつり準備
	四	八	花まつり法要、総会、事業報告
	六	一七	甘茶苑作業除草他
	七	三〇	甘茶摘み
十九	二	一七	役員会
	三	二三	花まつり準備
	四	三	京都甘茶奉献の旅・知恩院・金戒光明寺
	四	八	花まつり法要、総会、事業報告
	六	二三	除草作業
	七	二一	甘茶摘み
二十	二	一六	役員会
	三	八	甘茶苑の作業、除草・剪定・肥料
	三	一八	花まつり準備
	四	五	花まつり法要・総会事業報告
	四	八	京都甘茶奉献の旅・金戒光明寺・知恩院 哲学の道、百万遍、参加十九名
	七	一九	甘茶摘み
二十一	三	一	甘茶苑の作業、除草・剪定・肥料
	三	二三	花まつり準備
	四	四	花まつり法要・総会事業報告
	四	二二	京都甘茶奉献の旅 参加十六名



平成年	月	日	内容
二十二	七	五	甘茶苑の手入れ・除草その他
	七	八	甘茶摘み・相模原アジサイの会見学に来訪
	二	八	甘茶苑の手入れ作業
	三	九	花まつり準備
	四	三	花まつり法要・総会事業報告
	四	一	二 京都甘茶奉献の旅・嵯峨野、清凉寺、大覚寺 十二名参加
二十三	六	三	甘茶苑の手入れ作業
	七	七	甘茶摘み
	三	六	甘茶苑の手入れ作業
	四	十	花まつり法要・総会事業報告
	七	二	甘茶苑の手入れ作業
	七	七	甘茶摘み
二十四	三	四	甘茶苑の手入れ作業
	三	二	甘茶苑散策路整備
	三	二	甘茶の会総会、事業報告
	四	七	花まつり法要
	六	二	京都甘茶奉献の旅・黒谷金戒光明寺・眞如堂 十四名参加
	六	三	十 甘茶苑除草作業
	七	一	甘茶摘み
二十五	四	一	甘茶苑の手入れ作業
	四	六	花まつり法要・総会事業報告
	五	四	京都甘茶奉献の旅・大原三千院方面
	六	五	甘茶苑の手入れ作業
二十六	三	八	甘茶苑の手入れ作業
	四	五	花まつり法要・総会事業報告
	六	三	京都甘茶奉献の旅・宇治平等院方面 十五名参加



知恩院の蔓と新緑

- 注1 この記録年表は分かる範囲にとどめた。
- 2 記録は大嶋氏、栗原貞夫氏その他多数の方の記録からいただいた。
- 3 現在甘茶は大善寺にご縁のあるお寺にお送りし好評を得ております。



大善寺「甘茶の会」会則(案)

H17. 4. 9

- 名称と事務所 本会は大善寺甘茶の会と称し、事務所を大善寺に置く。
- 会 員 会員は甘茶の会の主旨に賛同する、大善寺檀信徒及び地域の住民とする。
① 入会は申込み制
- 目 的 (1) 花まつり等を通じ甘茶の輪(和)を広める。
(2) 甘茶づくりで 健康づくり
(3) 甘茶を育て 寺・地域の名物に
- 組織運営と役員 (1) 本会は大善寺(世話人会)と連携し、会の運営をはかる。
(2) 本会の目的を達成するため、行事・管理の委員会を組織し活動する。
(3) 本会の運営のため、次の役員を置く。
会 長 1. 高橋幸治(檀客) -----
副会長 2. (行事) 藤尾孝弘(檀客) (管理) 藤尾定一(檀客)
会 計 2. 岩崎美子(檀客) 岩崎アサ(檀客)
事務局 1. (副任職) 石川 和弘 -----
監 査 2. 高橋 清(檀客) 藤尾清次(檀客)
理 事 2. (行事) 高橋 勝(檀客) (管理) 石川誠幸(檀客)

(以上、計 10名選出)
相談役 1. (住 職) 石川成弘
顧問 3. (総 代) 大嶋理治、栗原貞夫、栗原武夫
(4) 任期は2年とし、再任は妨げない。
- 会 議 (1) 定期総会を「花まつり」に開く、(活動計画・収支予算・会則の変更・その他)
(2) 本会の運営のため、役員会を開催する。
(3) 会議の召集は、会長とする。
- 会 計 (1) 本会の経費は、大善寺からの助成金による。
必要が生じた時は、総会にて決定する。
(2) 本会の会計年度は、毎年4月1日～翌年3月31日とする。
- 内規(附則) 本会の会務の実施については、本会則の他に内規を制定することができる。内規については役員会にて決定する。

大善寺甘茶の会設立総会

日 時 平成17年4月9日(土) 午前10時45分より

会 場 大善寺本堂にて

大善寺甘茶の会設立総会次第

I. 開 会 進行係

1. 議 事

- (1) 「甘茶の会」発足までの経過報告
- (2) 「甘茶の会」会則について
- (3) 役 員 の 選 出
- (4) 役 員 の 紹 介
・ 会 長 あいさつ
- (5) 今年度の予定について

1. 閉 会

大善寺甘茶の会「花まつり」(11:30~13:00)

- (1) 会 長 あいさつ
- (2) 乾 杯
- (3) 会 食
- (4) 中 途

甘茶の会会則

甘茶の会設立総会次第



黒谷金戒光明寺の境内の松



樹木に囲まれた大善寺山門



大善寺山門



枯山水の池



大善寺会館 (H23.5)

まとめとつと

甘茶栽培については高橋氏大嶋氏の発言が端緒であったが、ニュータウンの開発の時期でもあり高橋幸治氏の全面的な好意と奉仕活動、また世話人一同によって苗の挿木や手入れ作業等の育成努力によって成木まで成長、その後甘茶の会の結成、会員皆さんの活動と相まって甘茶を完成させ京都本山まで奉獻の旅を行うようになった。近年タウンニュースにまで取り上げられるようになり甘茶寺Ⅱ大善寺の感があるが、ここで考えを再考し新たにすよい機会ではないかと思っている。

私は鎌倉・建長寺の朝比奈管長の高弟といわれる方の知遇を得、その方の発言では、お寺へ参詣するにはまず書院にて庭を見、池の泉水の水面を眺め寺院と心を同化させ、しかる後ご先祖様の霊にお参りする。それが仏法の作法であると教えられた。このたび心を落ち着かせる甘茶苑、枯山水の池も整い、また本堂、客殿、大善寺会館まで備え寺の伽藍が完成したことはまことに喜ばしい限りである。しかしながら私達の寺院を見る視点は、あくまでご先祖の霊を祭る寺であることと浄土宗を広めるための精神道場であることを第一義とし、さらには甘茶寺として世間でおる事はまことに結構な事といわねばならない。その意味で今後の大善寺浄土宗の布教活動には我々檀信徒は心から参加する事の心構えは大切な事であると考える。

(平成二十六年五月 記)



甘茶の会の皆さん



甘茶の葉摘み



甘茶の製品にするまで 計量と袋詰め



甘茶の手もみ作業



甘茶の製品にするまで 計量と袋詰め



四

甘茶苑の建設と甘茶の会



甘茶の会の皆さん



甘茶苑の作業風景



甘茶苑除草作業



甘茶苑の手入れ風景



甘茶の葉摘み

五.
法然上人八〇〇年大遠忌記念事業
・大善寺会館・客殿（改修）
・庭園建設





大善寺会館・客殿（改修）・庭園の建設

年表 会館・客殿（改修）庭園の建設

西暦	元号	年	月	日	主要事項
20	平成	20	9	12	総代会 寺施設見学 大連寺（溝口）
21		21	7	7	世話人会 建設委員会設立
22		22	8	30	第一回建設委員会・役割分担
			9	18	建設委員会 施設見学会 J A横浜協同サービス同行
			4	20	世話人会 修正案決定
			4	28	全農かながわへ設計図依頼
			7	7	基本設計案決定、庭園今西園決定
			7	18	J Aグループと委任契約（施主代行・設計監理）
			10	19	見積り合わせ入札業者決定・松井建設（株）
			10	28	J Aグループと工事契約締結、起工式
			11	15	工事着工、第一回定例会（四者による）
23		23	3	3	上棟式
			5	31	建物引渡し
			7	2	外構工事等（参道、前庭、枯山水、浄土式庭園、客殿）完了
			7	30	落慶法要
			12	25	水舎の移設工事完了（台風害）
25		25	6	6	供養塔改修工事・庭園（暗渠排水）
26		26	9	21	浄土式庭園（第二期工事）旧寺墓跡地へ

建設委員会組織図（H21年7月7日）

住職	石川 成弘	監査	岩崎 房雄
委員長	大嶋 珪治	委員	高橋 幸治
副委員長	栗原 貞夫	委員	織茂 力雄
副委員長	栗原 武夫	委員	斉藤 勝
會計	織茂 孝雄	事務局（副住職）	石川 和弘
會計	栗原 靖		

まえがき

記念誌委員会事務局

大善寺会館・客殿（改修）庭園の建設担当 岩崎 千春



大善寺境内地整備の総仕上げとして、元祖法然上人の八百年大遠忌記念事業と位置づけ、三年間かけて取り組みました。

建設に向けて、三つの課題がありました。

1. 会館（齋場）の建設 檀信徒の要望、敷地、規模、予算
 2. 旧庫裡、客殿の老朽化対策（築後35年）解体？改修？
 3. 呼称「心の池」の甦生、墓地造成以来の「旱水」対策
- 大きな課題を抱えての建設事業ですので、世話人会に建設委員会を設立、課題を検討、J Aグループ、松井建設（株）、今西園の協力により、三つの課題を同時に克服した、建設事業を完成する事ができました。建設の主な経緯をまとめました。
- 建設事業取組みの経緯**
- 一、建設委員会の活動について（第一回平成二十一年八月）
- 1 建設委員会は、世話人十一名で構成（組織図）役割分担を決め、活動を開始しました。

- ① 会館の建設の目的は、齋場、行事、会議、会食等に利用できる多目的ホールを建設したい。
- ② 規模は、敷地の関連もあり、中規模？旧庫裡の跡地。
- ③ 予算は、寺の資金で賄う、寄付は集めない。
- ④ 客殿は、躯体は現状維持、改修・改造し有効利用。
- ⑤ 設備は、機能を重視し、近代的な設備を導入したい。



⑥庭園は、池の甕生（排水）、築山を一体化した庭園計画を企てたい。

⑦三つの課題を同時解決は難しい。先ず会館建設より取組む事とした。

2 建設委員会による見学会（平成二十一年九月十八日）

①寺として建設済の寺院と民営経営の葬祭場の見学会を開催しました。出席者は、建設委員八名とJ A横浜北クミアイサービス（以下J A横浜協同サービス）四名同行お願いしました。

※同社は、年間二七〇件ものJ A組合員の葬儀を扱っている会社で、適格な指導、助言を頂くため要請しました。

②見学場所（マイクロバスにて見学）

A 会館（齋場）のある寺院三ヶ寺

・西勝寺（あざみ野）・長徳寺（牛久保町）・長善寺（有馬）、三ヶ寺とも独立した建物で、大規模（百人以上）対応できる施設で、二階建てでは、エレベーターが設置されていました。

B 民営葬祭場

・都筑奉齋殿（センター南駅）、北新横浜ノースホールを見学。※規模（大中小）の葬儀対応のできる施設で設備も充実、ホテル並み、宿泊もできる。

③見学後の検討会開催J A横浜協同サービスより葬儀の現状を聞く

・近年葬儀の規模は縮小傾向、又簡素化されてきた。
 ・大規模（百人以上減少）、中規模（五十人以上に移行）
 ・小規模（親族葬三十人）家族葬（十人ほど）増加傾向
 ※J A横浜北クミアイサービスは、平成二十三年四月、J A横浜協同サービスに社名変更した。

④寺の斎場の利用

・檀家の利用も規模は縮小傾向、大規模な会館は？
 ・常時、葬儀はない。固定施設は？

※檀家数三〇〇として、多目的ホールとして利用一〇〇人程度の施設が望ましいのでは。

⑤次回、資料を収集、原案となる設計図を作成したい。閉会となる。

3 設計図の原案づくり

建設委員会の前半の取組みは、設計図原案づくりでした。J A横浜協同サービスの社員にも、継続して出席を頂いた。

課題は、敷地と規模で、寺の平面図（次頁参照）を基に検討の結果「旧庫裡を解体、跡地と不足分に前庭を充当する」事に決まりました。試案をJ A横浜協同サービスに依頼しました。

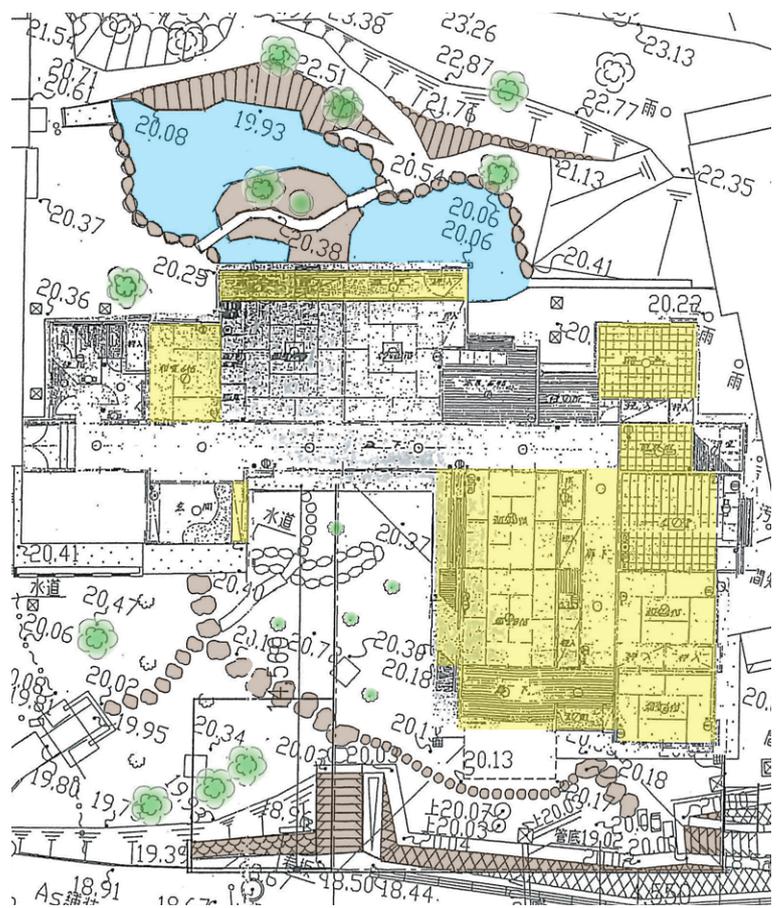
①試案の検討

・試案は規模別に、六十五坪案（AとB）二案と、九十坪案（CとD）二案、計四案提案された。

・検討の結果、九十坪案（CとD）は、予算面より除外しました。

・六十五坪案（AとB）を修正、最終案「E案」として「基本設計案」をJ Aグループ全農かながわ一級建築事務所 に依頼する事を決めました。（以下全農かながわ）

②基本設計案への要望
 ・限られた敷地、立地、予算、建物の有効利用を前提に、設計図を依頼しました。



資料1 大善寺測量図（平面図）にE案（65坪）案を重ねた予定図

- ・建物 平家、伽藍として景観、和風調としたい。
 - ・室内 有効利用（多目的ホール） 齋場、会議、会食場。
 - ・予算 八千万〜一億円まで。会館、客殿改修、旧庫裡の解体費まで含めての予算 庭園作りは別途予算とする。
- ③客殿の改修

- ・客殿の改修は、躯体は現状維持を前提に、改修（改造）
 - ・客殿本来の機能と会館との連携を設計に生かしてほしい
 - ・建物の湿気対策、トイレの大改修、客人用の控室新設
 - ・客殿の和室、廊下、湿気による腐食（床材まで）進行
- ※追加工事の要因となりました。

4 庭園計画について

- ① 会館の建設に伴い、前庭の植木（僅か一部）、工作物（灯笼・庭門等）、石、敷石は移設後、再利用する。
- ② 客殿裏、呼称「心の池」の甍生方策（枯山水）と現況を生かしての築山を石庭園とする設計案を「庭匠・今西園」に依頼しました。
- ③ 旧庫裡、客殿の建設時（昭和五十二年十二月竣工）前庭に多数の檀信徒より植木の寄付を頂きました。今日まで、庭園として、心を和ませて頂きました。残念ながら、赤松等僅か一部移植で他は処分する事となりました。ご理解ください。有難うございました。

5 会館、客殿（改修）工事委任契約締結

- ① J Aグループとの委任契約（平成二十二年七月十六日）
 - ・ 施主代行方式 施主大善寺とJ A横浜協同サービス
 - ・ 設計監理契約 施主大善寺と全農かながわ
- ② 施工業者の選定

基本設計書に基き、J Aグループ推薦四社との現場説明会後、三企業による「見積り合わせ競争入札」の結果、松井建設（株）に決定しました。（寺院建築の実績豊富）
- ③ 工事契約書の締結（平成二十二年十月二十八日）
 - ・ 事前協議書に基いて、J Aグループと締結する。
 - ・ 施主大善寺とJ A横浜協同サービス
 - ・ 施主大善寺と全農かながわ
 - ・ 工事費 九一三五万円（消費税含む）

着工平成二十二年十月二十八日〜二十三年五月三十一日引渡し



6 起工式（地鎮祭） 工事契約締結後実施 資料写真参照（P 160）

① 起工式 仏式 石川住職・石川副住職により執行

② 出席者 施主大善寺世話人、JAグループ、

施工松井建設（株）、今西園

③ 来賓 JA横浜都筑中川支店長、JA横浜北山田支店長

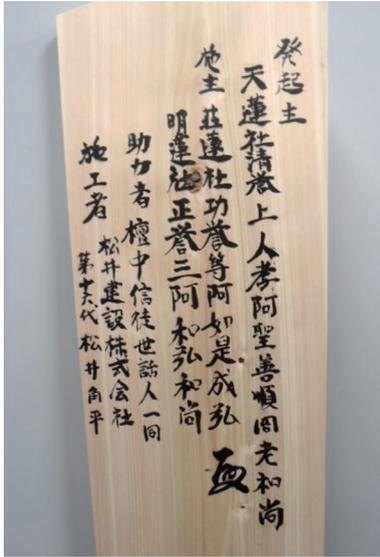
臨席を頂きました。 記念写真参照

7 上棟式（平成二十三年三月三日）於会館内進捗率五十七%

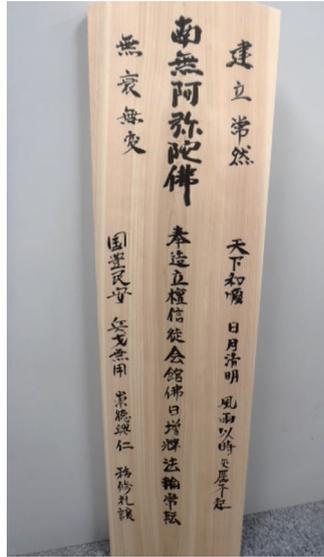
① 起工式に準じて実施されました。出席者で特に職方さんに

出席を頂き、労をねぎらいました。

② 会館の安全祈願のため、「棟札」むなふだを棟柱に奉納しました。



棟札（裏面）



棟札（表面）

多目的ホール大善寺



会館の景観は 東参道より撮影



大ホール 丸窓・格子天井で和風に（100～120名）



間仕切扉で小会議（会食にも20名）



間仕切扉で二部屋に（例、葬式時使用）

五

大善寺会館・客殿（改修）・庭園建設



光明山大善寺 檀信徒会館起工式

H22. 10. 28



五

大善寺会館・客殿(改修)・庭園建設



二. 定例会の活動について

1 定例会の設置について(第一回・平成二十二年十一月十五日)
建設工事のスムーズな進行、工事上の課題等を検討するため定例会を設置、毎月一回開催された。

①出席者、施主、施主代行、設計監理、施工会社の四者で建物の引き渡しまで、鋭意開催された。定例会は、延べ七回、建設委員会も合わせて開催(初会より延べ二〇回)された。

2 会館の建設

会館は、基本行程に基く月間スケジュール、進捗状況報告工事内容の確認、設計変更、安全管理等、計画通り進行しました。次の①②④は、設計変更(追加予算となる)

①和風景観づくり 丸窓の設置(南壁面2、西壁面1)

②間仕切扉(防音)・どじょう緞帳・カーテン、品質グレードアップ

③和風格子天井(照明付) 二部屋設置

④設備品、葬儀用備品、会議・会食用(テーブル、椅子等) グレードアップ、コインロッカー設置

3 客殿の改修(改造)

①和室・廊下等大改修、湿気による床下、土台まで腐食

②和室二間(押入) 改造(廊下、サッシ戸新設) し、石庭園(枯山水・浄土式庭園)を眺望できる客間としました。

③客人用和室新設(旧庫裡浴室改造) 又和室(旧書庫) 男子用トイレに改造、設備品も機能アップ

④玄関、廊下改修、下足棚増設(一二〇人対応)

⑤客殿の外壁、全面塗装替え(小破修繕後) する。

4 外構工事(追加工事)

本堂前広場との高低差解消のため、東参道底上げ工事(女坂頂上付近) 土留めRC工法工事を採用、施工しました。

5 庭園づくり

①前庭の跡地は、玄関前の庭園と現手水舎庭園に凝縮しました。

②会館前広場と本堂前広場と一体化、全面舗装し利用する事としました。(追加工事)

※想定外の追加工事が発生しました。工事内容を吟味、検討、今後の利便性を考え、追加予算を執行しました。

6 会館の利用計画と設備品の購入 省略

建設委員会内で、役割分担を決め、取組みました。

①会館利用上のきまり 大善寺会館ご案内(しおり発行)

②会館の設備品の購入 葬儀用・会議(会食用)等のテーブル、椅子、清掃用具

③会館のメンテナンス、損害保険加入、維持管理の方策

7 建物の引渡しについて

①第七回定例会(平成二十三年五月二十六日) 諸検査(官庁、社内監理者検査報告後、施主検査実施しました。

②世話人会(平成二十三年五月三十一日) 開催、引渡書類、鍵受領等報告する。会計処理(支払)を確認する。引渡完了。

③落慶式(法要)の日程について
予定 平成二十三年七月三十日



客殿の改修と改造工事



客殿和室（2間）改造 廊下・サッシ戸新設



玄関の改修 格子戸交換



客殿よりの枯山水・浄土式庭園の眺め 趣あり



玄関下足棚 増設する



旧庫裡浴室改造し客人用控室



客殿廊下張替・下足棚設置



和室 客人用控室（トイレ付）



客殿（2間）改造、望む庭園のため

五

大善寺会館・客殿（改修）・庭園建設



会館・庭園・外構工事の様子



会館棟上げ工事



会館造成地（旧庫裡と前庭の跡地）



会館 和風化（丸窓・格子天井）



会館の基礎工事



会館前広場造成中



東参道舗装替工事



玄関前庭づくり（赤松とつくばい）



東参道底上げR C工事（女坂頂上）

五

大善寺会館・客殿（改修）・庭園建設



三、庭園計画について

唯一、当山の昔の姿を残す、客殿裏（北側）の築山と呼称（心の池）の庭園計画は、寺墓地造成（平成三年五月）よりの宿題でした。特に、心の池は旱水、度々の繰り返しで、池の排水、客殿の湿気対応が課題でした。

客殿の改修に合わせて、大善寺造園構想（資料2）を取り組む事を決めました。

築山（AとB）は、現況を生かし石組、池（C）は、枯山水（排水）を想定した設計案を、庭匠・今西園にお願いしました。また、施工も依頼しました。

1 浄土式庭園

阿弥陀仏を信仰し、極楽浄土に往生する事を説く浄土宗の教えに基き、現世で極楽浄土を表現したのが浄土式庭園です。

枯山水（C）に、中島があり、二つの橋を渡ると、極楽浄土に辿り着くという、築山（AとB）には、仏像の安置形態に因んだ、三尊石組、永徳寺型灯籠、礼拝石を配置し、庭内を回遊出来る設計計画を提案された。当山の立地を総合的に活用した、壮大な設計案で、但々感嘆するばかりでした。

今西園さんより（AとB）の石庭園工事一式は、寄贈させていただきますとの事で、有難く受け取る事としました。心より感謝いたします。

枯山水の工事については、寺の負担としました。悲惨な姿の池が枯山水として見事に甦る。唯一、昔の影を残す築山が、浄土式石庭園として甦生されました。

浄土宗大善寺に、相応した庭園で「眺むる人の心」に、ひとときの「安らぎ」と「極楽」の世界が想像できたら幸いです。



A 浄土式庭園頂上部
回遊合流点 (H23.7 完成)

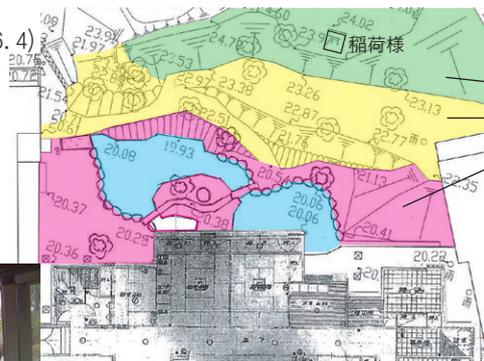
撮影 (H26.4)



A 築山頂上部（浄土式庭園）
昔の姿を残す (H23.7 完成)

撮影 (H26.4)

資料 2. 大善寺造園構想



緑色：A 築山想定
黄色：B 石庭想定
赤色：C 枯山水（心の池）想定
A, B, C 合わせて浄土式庭園
（第1期工事）



BとC
客殿よりの枯山水と浄土式庭園
(H23.7 完成)

撮影 (H26.4)



C 心の池 枯山水となる
(H23.7 完成)

湿気の心配ありません
浄土式庭園より客殿を望む

撮影 (H27.4)



四・境内地の整備

法然上人の遠忌の記念事業は完了しました。その後、境内地整備事業として取組み事項を記念誌に掲載する事としました。

1 前供養塔の改修(平成二十五年六月) 観音菩薩像(本来の呼称)

前供養塔(無縁塔)の改修では、観音菩薩像の台座(無縁仏石碑)を撤去、新しく台座に御影石、笠型の墓誌枠、塔婆立、床石も御影石仕上げの、永代供養塔が完成しました。景観を重視、供養塔の周囲を「やすらぎ」を想定した庭園が完成しました。なお、供養塔台座工事は、住職就任記念として、石川和弘住職の寄贈によるものです。

2 旧墓地跡地等の治水工事

境内地が広域の為、台風、集中豪雨の際、墓地を除く、表参道への一方排水は限界を超えていました。治水対策として(資料3) 本堂の石積を境として、旧墓地跡よりの排水を暗渠排水工事を施行しました。

広場(旧墓地跡)は駐車場、焼却場、供養塔(納骨堂)の湧水等、水害より解放されました。

3 第二期浄土式庭園工事(平成二十六年九月完成) 寄贈今西園

本堂裏、旧墓地跡地を活用しての、第二期浄土式庭園が完成しました。庭門に向かって右側で、回遊式の石庭園です。古木の梅、天目松、蘇鉄等々檀家の方々より寄付がありました。

庭門より、散策してみてください。景色を、静けさを、空気を、花を、木々の緑を、紅葉をお楽しみください。

石庭園、石段、石畳、足元にくれぐれも注意をしてください。

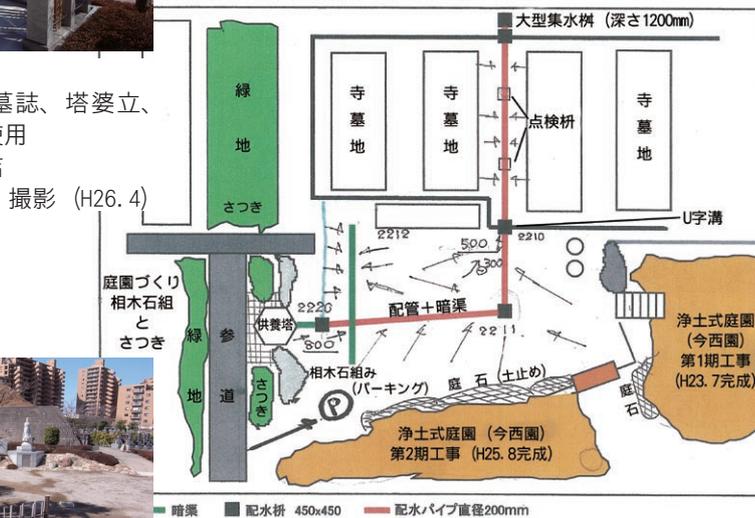


供養塔 (H25.6)
観音像の台座、墓誌、塔婆立、敷石も大理石を使用
施工 早野石材店



無縁塔(墓地改葬H3)
無縁仏の納骨堂として建設
台座は無縁の石碑
納骨堂湧水が出る

資料3. 供養塔(改修)
大善寺 排水暗渠工事 平面図



供養塔 庭園として整備(やすらぎの庭園を想定)
相木石(長野県)組み
さつきを植え込む
広場全面排水工事(暗渠)
撮影 (H26.4)



治水工事 (H26.6)
暗渠排水工事中
納骨堂・広場・墓地内
撮影 (H26.4)



五、落慶式

平成二十三年七月三十日

大善寺境内整備事業の一つである、大善寺会館及び客殿、庭園が、三年越しの工事を経て、無事に竣工する事が出来ました。

竣工に伴い、落慶法要を本堂に於いて、来賓、檀信徒の一四五名の出席者の中、落慶法要が執り行われました。

1 落慶法要 午後二時より

法要次第

法鼓(ほうこ)

洒水(しゃすい)

喚鐘(かんしょう)

入道(にゅうどう)

三礼(さんらい)

四奉請(しほうせい)

表白(ひょうびやく)

開徑偈(かいききょうげ)

回願(えがん)

撰益文(しょうやくもん)

念仏一会(ねんぶついちえ)

自身偈(じしんげ)

十念(じゅうねん)

2 記念式典(於 本堂)

司式 副住職 石川 和弘

・経過報告 建設委員会委員長 大嶋 珪治

・感謝状贈呈 大善寺

J A全農かながわ一級建築士事務所様、松井建設株式会社様、庭匠今西園様

・祝辞

法類心行寺住職 安田 卓全

J A全農かながわ一級建築士事務所

松井建設株式会社

・住職あいさつ

・謝辞 建設委員会 副委員長 栗原 貞夫

3 記念撮影

大善寺会館(玄関前にて)

4 祝宴 大善寺会館内に於いて

進 行 建設委員 織茂 孝雄

開会の辞 建設委員 岩崎 房雄

来賓の祝辞 庭匠今西園 今西 稔

J A横浜協同サービス

乾杯、懇親会

演芸 大正琴 東山田女性部

閉会の辞 建設委員会 栗原 靖

七月の暑い中、皆様方のご尽力により、無事落慶法要が終了する事が出来ました。厚くお礼申し上げます。

今後は、檀信徒皆様様の様々な行事に、会館を活用していきたい。



落慶法要を待つ檀家の皆様



建設委員と世話人の皆様



経過報告 建設委員長 大嶋珪治



祝 大善寺会館の落成 (H23. 7. 30)



祝宴を待つ出席者の皆様



祝 会館落慶 ご来場待ってます



庭匠 今西稔氏 浄土式庭園ぜひ見てください



祝宴 大正琴 東山田婦人部



大善寺会館・客殿・庭園落慶法要記念 平成23年7月30日



大善寺会館・客殿・庭園落慶法要記念 平成23年7月30日



大善寺会館・客殿・庭園落慶法要記念 平成23年7月30日



大善寺会館・客殿・庭園工事会計報告

平成23年9月

収入の部

大善寺会館等建設資金	132,298,898
利息	1,507
合 計	132,300,405

支出の部

1、会館・客殿建設費(組合サービス・松井建設)	117,980,485
2、造園工事費(今西園)	5,746,979
3、会館備品	4,675,184
4、その他の経費	3,190,016
5、落慶・法要・記念式典大善寺負担金	707,741
合 計	132,300,405

平成23年9月24日

上記の通り御報告します。

大善寺住職	石川 成 弘	印
建設委員長	大 嶋 珪 治	印
会 計	織 茂 孝 雄	印
会 計	栗 原 靖	印

監 査 報 告

平成23年9月24日

監査の結果適正であると認めます

会計監査	岩 崎 房 雄	印
------	---------	---

五

大善寺会館・客殿(改修)・庭園建設



元前庭 (庭門より玄関へ)
様変わり?昔の面影は、水舎・庭門は残ってます。
(H21.7 撮影)



本堂から見た会館
赤松は残っています。水舎 (H23.12 移設)
(H23.7 撮影)



会館の案内



式場

荘厳な中にも明るい心優しき殿堂

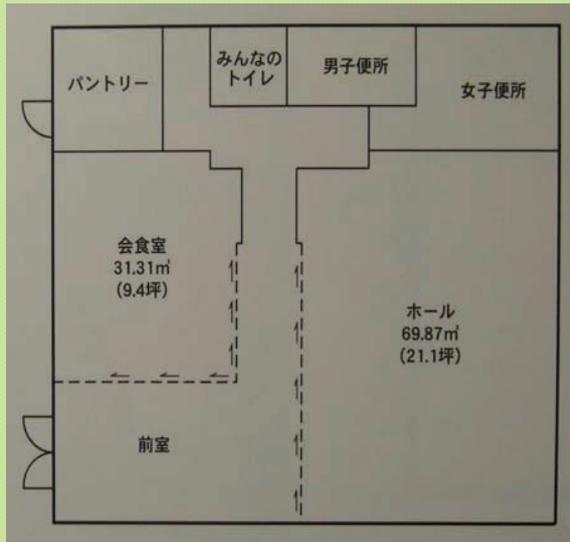


会館・玄関 テーブル受付



パントリー

食料品類を貯蔵する小室



火灯窓



多目的ホールの一例

- 齋場（会館）施設・設備
- 対応葬儀規模 …………… 300名
 - 式場内席数 …………… 40席
 - 会食室・テーブル椅子席… 36席
 - 法事祭壇・焼香台 …… 各1台
 - 受付机 二段式 …………… 1台
 - ブラックテーブル …………… 1台
 - 二つ折り スクリーン …… 2台
 - 返金式 コインロッカー … 1台
 - 車椅子・ハンガー・その他
- ※但し祭壇は、リースです。



大善寺会館 (H 23.7 竣工)・庭園 (つくばいと赤松) 広場全面舗装 撮影 (H 26.4 本堂前広場より)



観音菩薩像 (供養塔改修)・観音像台座・床石・笠型枠も大理石・やすらぎ庭園 撮影 (H 27.4)



水舎移設 (H 23.12) 会館竣工後・庭園 (北山台杉とさつき)・石柱縁起板設置 撮影 (H 26.4)



第一期浄土式庭園 (H 23.7 完成)・庭門左側より客殿を望む・石柱縁起板設置 撮影 (H 27.4)

五 大善寺会館・客殿 (改修)・庭園建設

元祖法然上人八〇〇年大遠忌記念事業と銘打って、大善寺会館・客殿 (改修) 庭園 (枯山水・浄土式庭園) の建設工事、課題もありましたが、JAGグループ、松井建設 (株)、今西園、寺の建設委員の皆様にも、心より感謝を申し上げます。各施設の概要について、縁起板 (銅板・エッジング) 設置しました。新しい試み、檀信徒、一般へのPR、ご覧ください。記念事業に続き、緊急の境内地の治水工事 (排水) に伴い、供養塔 (改修)、旧墓跡地活用として、第二期 (浄土式庭園) 庭園広場 (兼駐車場排水) 等建設工事が完了しました。記念誌に掲載しました。

お蔭様で、概ね、当山の諸施設、庭園、五十年にして整備できました。檀信徒の皆様のご参詣とご利用を願っています。

あしがき



第一期浄土式庭園 (H 23.7 完成)・客殿より枯山水・浄土式庭園を望む 撮影 (H 27.4)



第二期浄土式庭園 (H 26.9 完成)・庭門右側本堂裏旧墓跡地利用・回遊式石庭園・古木梅・天目松・蘇鉄など 撮影 (H 27.4)



年表

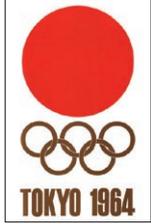
巻末資料

西暦	元号	時代	月日	世の中の出来事	大善寺の出来事	備考
一六八一	天和元年		九月十九日		開山大阿善達上人遷化	「過去帳」(大善寺所蔵) 「新編武蔵風土記稿」
一六二四〜 一六四三	寛永年中			寛永十七年 一六四〇 宗門改役を置き、 寺請・宗旨人別帳 をつくる	間口七間奥行六間の本堂を建立	「山田村由緒記」 「本尊修補募縁序」 「新編武蔵風土記稿」 「山田村由緒記」
一六一五	元和元年	江戸		大坂夏の陣 武家諸法度・禁中並 公家諸法度を制定	寺の隣接地に後に名主をつとめた近世 農家が成立した	
一五九二〜 一五九五	文禄年中	安土 桃山		文禄元年一五九二 文禄の役(朝鮮第 一次出兵)	奥行二間間口五間ほどの簡素な御堂で 宗派も定かでない	「武州都築郡山田村由緒 記」文政十二年七月写 (横浜北農協保管文書)
一五五五〜 一五五八	弘治年中	室町		後奈良天皇代 足利義晴	当山に小寺あり当地を訪れた禅僧端藏 主、慈覚大師作の阿弥陀如来像(本尊) を安置する	脇侍の二菩薩は元禄に 七世欣誉上人代に檀信 徒に募り造立した (後述)
一二四八	宝治二年	鎌倉 から 平安	七月	後深草天皇代 北条時頼(執権)	寺に伝わる板碑あり上記元号銘あり	
		縄文			隣接には「南堀貝塚」「西谷貝塚」が あり、寺の周辺からも、土器や貝殻が 一緒に出てきたことからこの地には古 くから人が住んでいたことがわかる。 寺の隣接地に武具等を製作していた鍛 冶屋敷あり。	



西暦	元号	時代	月日	世の中の出来事	大善寺の出来事	備考
一七三三	天保四年	江戸	二月	天保十二年 天保の改革始まる	二十一世載普運海上人代本尊修復を檀信徒に募る この時、檀家数七十軒	「本尊修補募縁序」 「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一八三三	天保四年	江戸	九月	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一八七二	明治五年	明治	九月	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九二二	大正十一年	大正	九月一日	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九二四	大正十三年	大正	二月十三日	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九二九	昭和四年	昭和	十二月	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九四一	昭和十六年	昭和	十二月八日	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九四二	昭和十七年	昭和	十二月六日	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九四三	昭和十八年	昭和	十二月六日	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九四五	昭和二十年	昭和	八月十五日	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九四六	昭和二十一年	昭和	八月十五日	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九四七	昭和二十二年	昭和	八月十五日	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）
一九四八	昭和二十三年	昭和	九月	天保十二年 天保の改革始まる	本堂倒壊 二十六世順問 住職拝命	「大善寺檀方帳」（大善寺所蔵）



西暦	元号	時代	月日	世の中の出来事	大善寺の出来事	備考
一九六三	昭和三十八年	昭和	一月九日		二十六世順岡遷化	
一九六四	昭和三十九年		三月七日	東海道新幹線開業 東京オリンピック開催	二十七世成弘住職就任認証	
一九六五	昭和四十年			市六大事業 港北ニュータウン 建設事業発表		 
一九六六、 一九六九	昭和四十一年 ～四十四年			地元説明会開催さ れる	ニュータウン建設事業に参画	
一九七七	昭和五十二年		十二月四日		客殿庫裡落慶法要	
一九八〇	昭和五十五年		十二月 十三日		第一回総会 墓地改葬説明会	ニュータウンの買収受 領金にて建築
一九八三	昭和五十八年		十二月十一日	大韓航空機事件 (九月一日)	第三回総会 墓地全体計画決定	
一九八七	昭和六十二年		六月七日		第五回総会 墓地改葬決定	プール制の導入
一九九〇	平成二年	平成	九月二十七日		墓地合同撥遣式 墓地の改葬開始	
一九九一	平成三年		十月七日		墓地竣工式 基礎石積み完了	
一九九三	平成五年		五月十一日		墓地改葬記念落慶法要	
一九九四	平成六年		十一月六日	市営地下鉄3号線 (ブルーライン) 開通 (三月二十八日)	墓地改葬記念落慶法要	
一九九五	平成七年		五月二十五日	都筑区が発足	駐車場石積み(木曾石)完了	
一九九六	平成八年		七月十四日		二十六世順岡内室リウ死去 甘茶の育成を始める	
一九九九	平成十一年				鐘楼、梵鐘の再建を決定	



西暦	元号	時代	月日	世の中の出来事	大善寺の出来事	備考
二〇〇〇	平成十二年	平成	四月八日		鐘楼梵鐘落慶法要	
二〇〇二	平成十四年		一月二十日		二十七世成弘内室節子死去	
二〇〇五	平成十七年		四月九日		甘茶の会設立	
二〇〇六	平成十八年		一月一日		甘茶苑の非課税地化	宅地から非課税農地へ 宗教活動が認められた
二〇〇七	平成十九年		十二月		墓地分譲事業の本格化	
二〇〇八	平成二十年		三月三十日	市営地下鉄4号線 (グリーンライン) 開通(三月三十日)		
二〇〇九	平成二十一年		五月		宗祖法然上人八百年大遠忌記念 京都団参	総本山知恩院大本山金 戒光明寺等参拝 参加二十五名
二〇一〇	平成二十二年		十月二十八日		大善寺会館起工式	
二〇一一	平成二十三年		七月三十日	東日本大震災 (三月十一日)	会館客殿庭園落慶法要	
二〇一三	平成二十五年		十月二十四日		二十七世成弘住職退任	
二〇一四	平成二十六年		十月二十五日		二十八世和弘住職就任	
			六月		永代供養塔改修 浄土式庭園(二期) 竣工	
			九月四日		二十八世和弘新命住職認証式 於総本山知恩院	
			十月		大善寺五十年のあゆみ記念誌発刊	
二〇一五	平成二十七年		十一月十五日		二十七世成弘退任式 二十八世和弘晋山式	



参考文献・参考資料 敬称略・順不同

- 『港北ニュータウン地区埋蔵文化財調査報告』（平成九年三月三十一日）
 - 「西ノ谷遺跡」 財団法人横浜ふるさと歴史財団 坂本彰
 - 「寺に伝わる板碑」 『新編武蔵風土記稿』（宝治二年）写真 大善寺所蔵
 - 「本尊修募縁序」 天保四年二月大善寺所蔵文書
 - 「武州都筑郡 山田村由緒記」（写）（文政十二年七月）
 - 「過去帳」 歴代諸正人（開山々十七世まで記載）大善寺所蔵
 - 「大善寺檀方帳」 武蔵国都筑郡山田村（明治五年） 大善寺所蔵
 - 「本堂建替える」 『新編武蔵風土記稿』（享保年中）小机中教会・大善寺明細組書上（明治初期） 大善寺所蔵
 - 『中川地名』 吉野孝三郎著（昭和五十八年二月発行）
 - 横浜市都市計画局 港北ニュータウン建設部資料
 - 住宅都市整備公団 港北開発局資料
 - 港北ニュータウン建設事業概要 墓地移転資料
 - 『港北ニュータウン地域内 歴史民俗調査報告』 横浜市北山田町（昭和五十年度） 南・東山田町（昭和五十一年度）
 - 『港北ニュータウン地域内文化財調査報告』 横浜市教育委員会 金石文（昭和五十年三月三十一日発行）
 - 『「織茂家の歴史」 旧武蔵国都筑郡山田村』 織茂家の歴史をたずねる会 代表 織茂武雄（平成四年三月三十一日編集発行）
 - 『横浜市港北ニュータウン郷土誌 都筑の民俗』 港北ニュータウン郷土誌編集委員会（平成元年五月十五日発行）
 - 『港北区史』 港北区郷土誌編さん刊行委員会（昭和六十一年三月三十一日発行）
 - 『写真集 港北ニュータウンむかし・いま・そして未来へ…』 協会設立20周年記念 写真集刊行委員会（平成十四年三月三十一日発行）
 - 『開港150年記念横浜歴史と文化』（財）横浜ふるさと歴史財団編 高村直助監修（平成二十一年六月二日発行） 有隣堂
- 執筆協力者紹介 敬称略・順不同**
- 高橋 良雄 大善寺墓地建設委員会・相談役
 - 吉野 直之 「墓地改葬事業、課題への取り組み」郷土史家 記念誌 墓地改葬部門客員
 - 岩崎 アサ 「旧寺墓地の歴史について」大善寺甘茶の会



発行協力 個人・団体・企業等 敬称略・順不同

寺関連

総本山知恩院・大本山金戒光明寺・大本山増上寺・大本山
光明寺・心行寺・長円寺・長徳寺・正覚寺・観音寺・宗忠
寺・浄流寺・善教寺・光明寺・大蓮寺

企業・行政・団体等

都筑区役所・特定非営利活動法人 港北ニュータウン記念
協会・横浜市交通局・(株)横浜都市みらい・JA全農かなが
わ一級建築事務所・JA横浜協同サービス・松井建設(株) (細
井正之)・庭匠今西園・(有)早野石材店・(有)金井石材店・(有)
石光・(有)織茂園・(有)高山園・(有)後藤工務店・(株)老子製作所・
鴫田力先生(老子製作所)
坂本彰先生(元財横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化センター)
(株)石本興業・(株)三橋緑化興業・吉田銘木建材・(有)岫小泉忠
工務所・植田建設・(株)山田富士組・(有)深川建設
(株)タウンニュース社
南山田町会・北山田町会・東山田町会・牛久保東町会

協力者

栗原 傳蔵 栗原 武夫 栗原 久子 石川 成弘
栗原 貞夫 岩崎 房雄 織茂 力雄 大嶋 珪治
吉野 直之 岩崎 千春 今西 稔 浜畑 忠義
栗原 毅(ヨシエ)

記念誌委員会 役員組織 (平成二十五年十一月十六日設立)

編集委員長 大嶋 珪治(総代)

編集副委員長 石川 成弘(大住職)

栗原 貞夫(総代)

岩崎 房雄(世話人代表)

石川 和弘(住職)

事務局 岩崎 千春(総代)

委員会役割分担 ○委員長 ・委員名(代理)

一・大善寺の紹介・活動の記録・境内施設の紹介等

○石川 成弘・石川 和弘

二・一・寺墓改葬 二・一・内墓改葬

○大嶋 珪治・織茂 力雄・栗原 毅(ヨシエ)

・栗原 久子・織茂 力(イネ)・吉野 直之(客員)

三・鐘楼の再建と境内整備

○栗原 貞夫・栗原 敏・岩崎 利夫・織茂 文雄

四・甘茶苑の建設と甘茶の会

○岩崎 房雄・高橋 幸治(良子)・斉藤 勝

・織茂 節子(孝雄)

・甘茶の会 岩崎 アサ・浅野目 芳江

五・会館・客殿(改修)庭園建設工事

○岩崎 千春・栗原 靖・飯塚 信介・織茂 博

晋山式・記念発行



「タンポポ曼陀羅」 画・永田英司（桂林寺住職）

編集後記

編集副委員長 栗原 貞夫



大善寺檀信徒の皆様宛に、成弘住職より退任と和弘住職（息）の就任の挨拶状が、今から約二年前に一斉に郵送されました。今日まで親の後を和弘副住職として勤めていましたが昨年、総本山知恩院に於いて新命住職認証報告式も済み、すでに立派に務められております。現在、寺の世話人会は、住職と世話人（十七名）の、計十八名。年間の行事ごとに、事前に会議を持ち行事等の必要に応じて、取り組んでいます。中でも、成弘住職と私たちの時代に、都市計画の住宅・都市整備公団による「港北ニュータウン街づくり」造成工事に伴いまして寺墓地、一時仮移転という問題が発生し古い墓石の移転は大変だったと聞いています。時をかけて工事造成と檀信徒（地権者）皆様の長い間のご協力により、お陰様で他の寺院より埋蔵文化財など出て遅れましたが、墓地一帯が整備されて立派になり、竹やぶの中の寺墓地が、整然とピルの見える環境となりました。

この大きな変遷を『五十年のあゆみ』として、発行させて頂きました。資料集めに専念して参りましたが編纂して行く中で貴重な資料提供等、ご協力を頂戴しました。

ここに、感謝し衷心よりお礼を申し上げます。

大善寺五十年のあゆみ

発行日 平成二七年十一月十五日

発行 浄土宗 光明山 大善寺

〒224-0029

横浜市都筑区南山田2丁目4-1

編集 株式会社山手総合計画研究所

印刷 有限会社サンエイ印刷

非売品

